るものゝ如し、嗚呼足下が雄辯を皷せす能文を舞せす隱忍するの期、斷して久しとせざる可し、捲土重來の武者振りを想ふて轉た骨鳴り肉躍るの感あり、刮目して待つ!!刮目して待つ!!!

◉與前代議士佐藤政五郎君書

佐藤君足下、聞く足下は當代の豪俊故伯爵後藤象次郎に私淑する一人也と、僕日常足下の行藏趨舍の跡に見て其の甚だ伯に近かんとする點あるを含領して、窃に會心の笑を禁せざる也、素より彼が維新の大風雪を卷き起したる驚天動地の大活動に比較すべきに非らす、更に大同團結を組織し『危急存亡の秋也』を呼號したる大飛躍に伍儔すべきに非らすと雖も、开は世界的偉人たる伯と、一都市の俊秀たる足下との比例を誇張したる僕の深意を察知せざるの罪たり、僕曷ぞ僭越の科を負荷する責任あらん哉、蓋し足下の容貌宛として故伯に酷似し態度亦伯に親接するの觀あらしむるものあるは、思ふに足下の私淑と師事心の流露に歸せざるを得ず、往昔宋の蘇軾は『孔子を眞似て成らざるは可なり、盜跖を信賴して成らさるは不可なり』と論せり、誠に千古の名言ならすとせんや、足下が後藤伯たり將た、たらざるは論する所にあらす、足下の私淑と師事心にして伯にあらは蘇軾の所謂可るものとせんのみ。

佐藤君足下、翩々たる方古の小才子、小知識、灰殼、成金の輩與に談するに足らす、足下が明治三年の昔より終始一貫銅鐵、船具の商取引を繼續せし堅忍は、軈て公的方面にも現出して其自由黨時代

より節を變せず操を曲げず、嶄然として其實業界にも、政治界にも頭角を拔き、富鉅萬を出し、地位又縣會議長たり衆議院議員たるを羸ち得たる、公私兩面に乗りし意志の堅實と、其成果の異常なりしを偉大とせざる莫きを得んや。

佐藤君足下、足下晩近社會道心の惟日に危を慨し、身を以て之を匡救濟度せんと圖り、佛道に歸依信仰範を示すものありと、嗚呼、善哉志乎、善哉心耶、僕不敏未だ佛敎の門だに窺はずと雖も、佛祖の垂敎せる、四諦、十二緣起、三法印の三大敎義の何たる乎を曾て恩師村上博士に聽きたることあり、畢竟佛教の深旨は是に外ならざるを知ると同時に、各宗異を樹て端を議し四分五裂遂に僕等をして其皈趣に迷はしむるを遺憾とせり、思に足下の如き徹底的悟道者の現はるゝは、斯敎の幸とするのみならず、更に之を普及して世道人心の維持に貢献することを鮮少に非らざるを信ず、足下夫れ旃を逸めよ。

佐藤政五郎君

佐藤君足下、足下が南太田の邸宅は其の置石、配樹、建築に至る迄、敢て細作巧緻の手を下さず、主として豪壯と自然を採擇したるは僕頗る會心とする所也、是れ足下の心事を吽き、意氣を示す表象たらずとせんや、方今成金の蠢動もすれば、僭越にも其車を丹にし其冠を黄とするのみならず、百金を投じて名物珍石を庭園に移植し、巨萬を費して書畫骨董を客室に陳列して人に矜るも、其一半を割いて國益に資し公共に利するもの稀れなるの今代、足下の如きは眞に富貴に淫せざる高風慕ふべき紳士と云はざる可らず、足下已に耳順の齢を超へたりと雖も、心身共に健全矍鑠として壯者を凌ぐの概あり、更に一段の善根を社會の上に種植し、良枝を國家の上に繁茂せしむるに努力せよ、妄言多罪。

◉三宅盤君に與ふる書

三宅君足下、西諺に曰く『器械は之を利用する能力ある者にのみ有効なり』と、僕過つて得謂利用する能力なき非才を恃み、足一度操觚界に入り、手一度新聞雜誌の經營に染むるに當つて、外間より窺知し難き苦心と困難の伏在するものあることを覺知すると同時に、思は同じ事業者の上に及ばざるを得ざりき、而も世人をして頽廢腐朽又回 生 の望み絕えたりと思はしめたる貿易新報社主幹の椅子に、足下が颯爽たる英姿の凭れてより僅々三年、窮通全く所を轉し、榮辱頓に居を變じたる觀を呈したるは何ぞや、是れ云ふまでもなく足下が非凡の妙腕に由り、頽瀾は旣倒に廻せられたる也、朽木は美事に鏤れたる也、僕玆に於て痛切に西諺の紿かざるを感せざるを得ず。

三宅君足下、側に聞く所に依れば足下は專修學校を出て大阪朝日に入り、貿易新報を經營するに至りたる、極はめて短年處と頗る單調なる徑路を踏み來るたるに拘はらず、足下が健腕は隨所に張せられ、特に我橫濱自治派の中心人物として重を置かるゝ勢位を贏ち得たりと?!、然るに世間又た汚泄穢の輩、小人の徒ありて足下の功を嫉み名を傷けんと試み、足下を貶稱して糞盤とするが如きは固より齒牙にかくに足らずと雖も、世間の口は實に五月蠅きものと感せざるを得ざるに非らずや、昔者傑物

曹操すら、功を收むるは易く、名を成すは難しと長大息を禁ぜざりしと聞く、思に足下旣に功半ば就れり、其名を成すに一段の工夫と一倍の努力を出すに吝ならざらんことを切に望んで已まざる也。

三宅君足下、新に選れて市議場裡の人と爲れり、思に足下の智見と辯舌は市會の花形として持て晒さるゝの價値ある可し、而も妄に其知見に矜り、辯舌に任せ、特に黨派心に驅られ、徒に小問題を捉へ、細策を弄して議場を賑はし、大向を嬉しがらせるは、僕の甚だ好まざる處たり、足下の卓識は旣に我國自治機關に政黨の魔糸を絡み着くるの、一大病患たるを洞見して餘りあるを知る、況や足下は都市研究のオーソリチーにして、橫濱振興策の先達たるに於て哉、顧るに大橫濱の樹立に就き研究討尋すべき大問題累々として前途に橫はるの今日、足下の如き特材を起たしめ市會に送りたる市民の期待を空ふするが如きことあらん乎、僕等一味の足下信仰者の失望落膽は暫く之を忍ぶとするも、足下が功を全ふし名を成す良會を逸す可きを惜んで已まざる也、古人曰く『諫言は苦、規言は辛、諫言は忠、規言は信、忠信にして始めて苦辛の言あり』と僕不敏なりと雖も足下の材幹を愛し、識見に推服するもの、聊か忠信の誠を披き苦辛の言を爲す、足下寬容すべをを信ず、妄言多罪。

フースヒーの部

横濱紳士觀

◉小野光景君

△一部の者流は君を評して、偏狹頑固なる時勢後れの一介の氣隨老人に過ぎざる如く、侮蔑の言を放つのである、なるほど君は普通商人としては　昂々然として自ら矜式し、容易に近づき難き風に見える所から、俗眼には偏狹固陋の老人と映ずるのも、一應無理からぬことかも知れぬ。

△然し夫は所謂濱式に濱型の人物を觀察する所から起る、非常に過ちし月旦法より出でたるもので採るに足らぬ、少くも記者の公平なる透徹せる批評眼に映せし君は、前の俗評とは實に雲泥萬里の差がある。

△君は彼の修養の足らざる下卑た根性を有する成金紳士とは頗る其選を異にして居る點がある、君の嚴父兵助氏は幕末の頃、横濱村に於ける唯一の苗字帶刀御免の大名主をも勤めた歴々者であつた、然も、嚴格なる家庭に人と成りたる君は、性行自ら嚴肅にして、風格の高尚冒し難き氣品の閃きが見えるは爭はれぬものである、俚言に系氏より成育と云ふことがあるが、君は系氏も正しく成育も良いのである。

△君は弘化二年生れであるから既に古稀の老人であるが、身心共に健全で日々公私の業務に奮鬪して倦色がない、彼の俗評の時勢後れの頑固老人ではない、現に横濱港第一に手廣く行つて居る生絲貿易業に幾百人の使用人を指揮し、傍ら貴族院議員其他の公共事務にも鞅掌して壯者を淩ぐ精力の旺盛なるに見ても明白なる事實ではないか。

△君が今日まで社會國家の爲め貢献せし事績は殆ど枚擧に遑あらざるべきも、早くも商業敎育の忽諸に附し難きを覺り、横濱商業學校を創設し、爾來廿有餘年幾多の苦心と巨資を費して、人材の薫育に努力したるが如きは顯著なる功績の一にて誰人も否定する能はぬことである、又貿易商總理の職にあつては我國貿易の振興に絶大の功果を收め、又多年外商の壟斷的貿易商權を打破して、直輸出入の途を開くに盡瘁して遂に成果を擧け、横濱築港問題の危地に陷るや、政府議會の間に折衝して之を救出し以て今日あるを得せしめたのである、今回の大典に際し君が多年の勳績を御思召され、特に從五位に叙されたるに徴するも、其偉績の尋常一樣でなかつたことが明かであらう。

君は責任觀念の最も强き人である、故に當代浮薄なる僞紳士の如く、濫に自己の名聲地位を利用して事業を起すも、一旦形勢の非なるを見るや、之を中絶し甚しきは逃避して關せず焉的の態度を採るが如きは斷じてしない、其成否共責任を明確にせねば已まぬ、此高風義心は慥に當世紳士の第一人として瞻仰に値ひするに足るのである。

△君が有する責任觀念の主强なるは、君が一生を通ずる光輝ある全人格である、否儀表的人物として吾人が景仰措かざる次第である、唯夫れ此の偉大なる人格に對しては、衆愚も群小も最早批評すべき辭を有せぬのである。

△君は責任觀念の旺盛なる丈け夫れ丈け今の群小政治家等と行動を一にすることが出來ないため、往々孤立の姿となり衆愚の包圍中に奮鬪することがあるが、又其反對に自ら知りつゝ群小の爲に舁(かつ)がれ意外の失敗を招くことがある、是れ然諾を重んずる君が任俠心に出づるもので、成敗和鈍を以て責任を回避する僞紳士の到底企及する能はざる點も爰にある、所謂士魂商才底の紳士とは君に冠すべき好熟語である。

△君曾て貿易振興の爲に盡瘁せらるゝや其第一策として粗製濫造品輸出の防止を絶叫したるも、消極的に彼の重要輸出物取締規則の如く檢査法にのみ一任するを以て足れりとせず、積極的に商業道德を基礎とする堂々たる立論の上に大策を畫し、先づ自己の管宰せる商業學校科目に大改革を施し、士魂商才的人物養成を第一義に置き、倫理修身の科程を主とし實踐躬行的に薫陶の方針を採り、儀表的敎師を精選して之に當らしめたるより、由來動もすれば打算的我利主義に流れ易き校風を一變し、君が理想の人物が頻々其校門より出づるや是等出身者が社會に活動する幾百の元型が風を爲し範を示すに至り、君が大策の功果は擧げられたるのである、此一事績は單に信用維持より發足する貿易振興策に

貢するに止まらず延て一般の德教問題に觸れ其風敎に利したる偉勳は沒すべからざるのである。

△要するに君は知情意の三面が平等に發達したる好個の典型的紳士である、特に操守の堅實なると品性の高粱なる點は横濱富豪者中の第一人と推奬するも溢美の言でない、當港元老大谷嘉兵衞、木村利右衞門の兩君を併せ、三幅對の重鎭として世間より推重せらるゝ由なきにあらず君たるもの自愛して吾人の景仰を空ふせざらんことを望んで已まぬ。

大正四年十二月一日發行

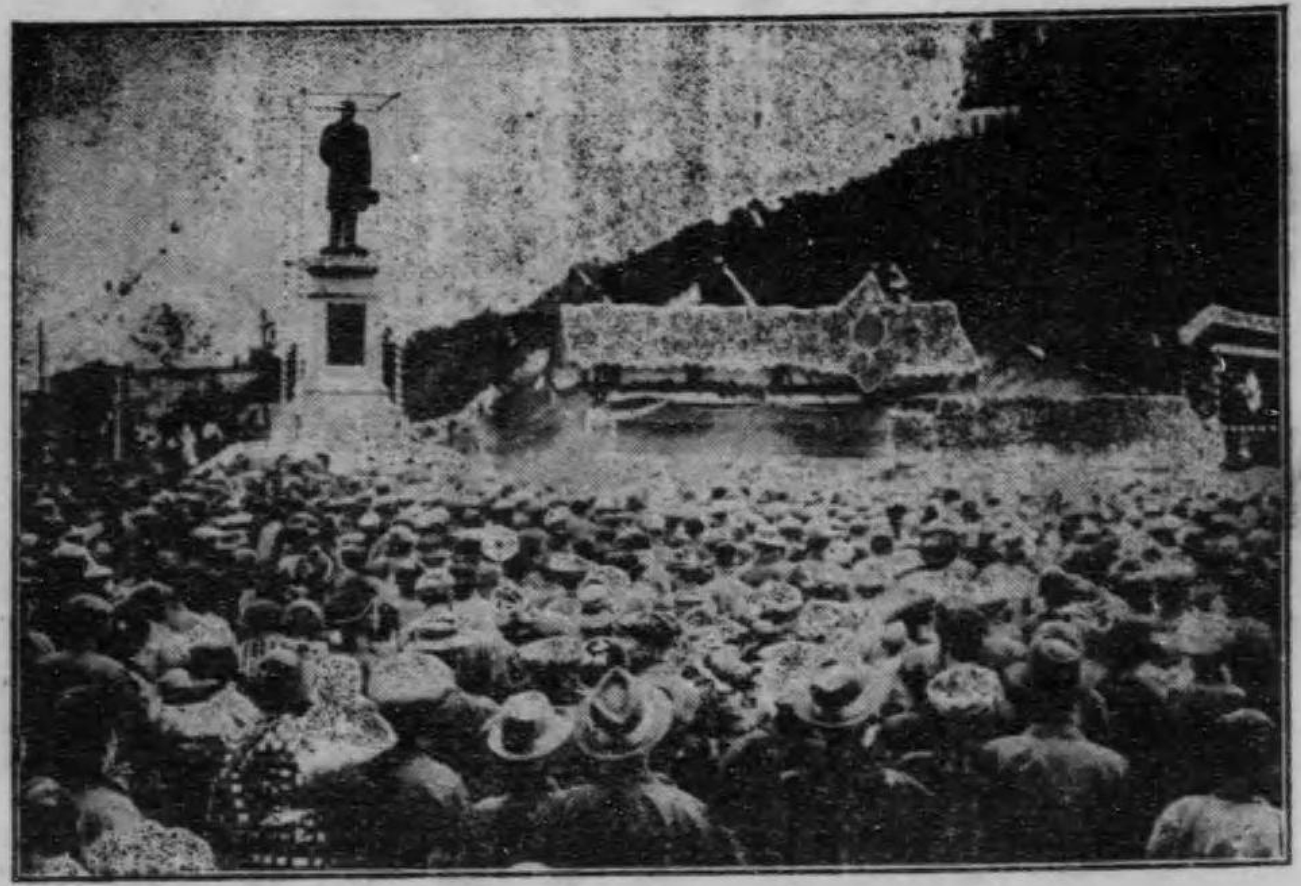
青年及青年團（第六卷、第十二號）

◉大谷嘉兵衞君

豐頰にして廣額、禿頭にして童顏、何づも莞爾として人に接し、蓬々たる其白髯を撫しながら、諄々として實業を說き、敎育を論じ、宗敎を議し時事を談じて倦怠の色なく、矍鑠として壯者を凌ぐ寬厚の長者南湖翁大谷君は、弘化元年の出生と聞いて大隈伯の元氣も三舍を避くるであらう。翁が旺盛なる元氣には鐚一文の懸値を云ふ餘地がない、マー昨今翁が日常生活の一班を記して見ると、普通朝は五時に起床する。翁が公私の用務多端にして日中在宅することはないことを知る訪問客は其外出前を覗ひ、旣に其頃ほひ應接室に充滿して居る。受附の書生さんに聞くと毎朝平均十數名を下らぬと云ふことである、翁は緩くり朝餐を終るの暇もなく、袴羽織の禮裝にて應接室に出で其の福德圓滿なる態度にて客に接し、片端より簡短に聞き仔細に答ふるのである、此時間が屹度三時間を要する、サー夫れからが大變なのだ。恁(とう)しても毎日顏出しせんけりやならぬ場所は横濱のみにて數多あるそうだ、諄々(くど〳〵)しいから一々列記せんが翁が公私の職務に關係を持する重なる個所を擧げて見やうなら、日本製茶會社々長、茶業組合中央會議所長、横濱七十四銀行及同貯蓄銀行頭取、日本勸業銀行臺灣銀行各監査役、東京火災海上運輸保險會社及横濱倉庫會社各取締役、横濱市參與水道局長、横濱商業會議所會

頭、横濱銀行倶樂部長、横濱市教育會長、横濱奬兵義會長、横濱佛敎講話會長等で其他家業としての製茶貿易は世界に有名なるもので、茶翁の名を以て知らるゝ程である。亦海産物蠶絲貿易商として大谷合名會社も名高きものである。翁は少くも已上記載の個所にも時々顔を出し、相當に統監もし處理もせねばならんのだ。然して歸邸すると机上堆積する來翰等に目を通し秘書を相手に夫々之を整理したる後始めて就寢するので早くも十一時を告げぬことは稀れだ。翁は毎夜に後進子弟を警むるに身心涵養の道を以てする『心を養ふの第一要義は日常平生を保ち活氣を充實にするにある、靜平なれば事の判斷是非の辨別を過たぬ。活氣は緊張である。心緊張せば邪氣の侵入襲來を拒止する、心は主にして體は從なれば靜平の心活動の氣にして涵養せられんか自然に身體剛健軀幹壯强なるべきは理數の當に然るべき所である、彼の過勞は害があるとか睡眠不足は惡るいとか、滋養物が慂の空氣が斯のと云ふが如きは、病人に對する治療法で健康保全の衛生法ではない』と以て翁が氣力の旺盛身體の强健無双なる素地の一端を知ることが出來る。翁は伊勢の産で鵬志を抱きて十八歳の時横濱に出でゝ已來、春風秋雨五十有餘年業成り名遂たる今日迄、終始奮闘的生活を一貫して倦怠の色がない、眞に懦夫をして起たしむべき偉丈夫と稱すべきである。翁が諸種の國家的實業に貢献したるの功積は特更此處に絮說するまでもなく、些しも官邊の經歷を有せずして從五位勳三等の榮典に浴し居るに徴しても知らるゝではないか、唯一事翁が一代の偉績として特筆するに止まらず、日米親交の楔子をなし世界の交通界に一大貢献したる事績を叙し本稿を終ることゝする。

明治三十二年の秋、金風に颯爽たる英姿を煽らせ、胸に萬斛の經綸を滿たし我商業會議所の代表者として費府萬國商業大會に參列したのである。當時日本の地位は劣等にして歐米諸强國の代表者等と比肩すべきにあらず、隨て正義の論議と雖も多くは輕侮して容れられざる傾きがあつた。



大谷嘉兵衛翁銅像除幕式

斯る形勢の間に在つて翁は深き信念を持するものゝ如く毅然として起つて太平洋海底電線敷設案を提出した。説く所歐米對日本貿易の起源より現時の趨勢に及び將來東洋貿易の有望なるに論及し轉じて交通機關設備の最緊の事業なるを詳述したる一大論文は滔々數萬字徹より細に入り極盡して餘蘊なく、又之を解說せる翁が大雄辯は實に堂々たるものにして始め多少輕侮の念を以て抑へたるものも其理路整然たる熱辯に動かされ、句一進語一轉にも聽き逃さじと傾聽するに至り演説央ばに及びては滿場殆んど水を打ちたる如く肅然襟

を正し謹聽し、遂に滿場一致を以て之を採決し、直に同大會の名を以て、米國政府に建議することゝなつた。

當時翁が雄辯の反響は翌日の同府の各新聞は其詳細を叙して餘す所なく、中には翁の小傳小像まで掲載して稱揚せしものもあつた、倏忽ち全米の輿論となり、當局者を動かし、某年ならずして翁の素志は貫徹せられたのである。翁は弱冠にして身を實業界に投じ牙籌を採り錙銖を爭ふに急にして、講學等に餘裕の存すべき筈なきに經書にも通じ佛典にも涉り筆跡は素人離れをなし棋局に對しては横濱に殆んど角逐すべきものなき名手である。思ふに其天禀の然らしむる所なるべきも、畢竟翁が剋己精勵の性が到る所に發揮せらるゝのである。

大正四年九月一日發行

青年及青年團（第六卷、第九號）

◉大濱忠三郎君

政治實業教育宗教有らゆる方面に涉り穿鑿すると、横濱にも夫れ相應に紳士として推服に値ひすべきものがある。が然し反對に首肯し難き似非紳士も尠なからぬのである。元來紳士とか名士とか云ふ價値は、品位識量兼備したる超越せる人格者に存するものなるべきに世間特に横濱にては之を濫用するの嫌がある、畢竟哀表を辯せず玉石を同架するからだ。這は決して社會の一些事として放置すべき現象でない。小にしては交遊を惑り、大にしては世の風教に關する、操觚者の天職として之を默過することが出來ぬ。之より記者は春秋の筆法に倣つて、薰臭を剖判し露骨に讀者の面前に展開して見やう、名譽の好紳士は、誰人も指を大濱君に屈するに異存はあるまい、君は早稻田專門出の秀才で歐米の地を踏んだ經歷を有し尋常成金の輩とは自ら其選を異にする、君は前代忠三郎氏の衣鉢を受け商略に拔け目なく、洋糸織物取引を本業として居るが、其の士魂商才は、單に家產を株守するを容さぬ、最には横濱鐵道株式會社及横濱倉庫株式會社の創立に盡瘁して其重役に舉げられ、又横濱取引所理事として長く同所の爲めに努力する所あり、現に横濱火災保險、横濱生命保險、横濱電氣鐵道、増田製粉所等の各會社重役として隨所に手腕を揮ひ、特に横濱生命保險會社には專務取締役として專心社業の

發展に力められ、這回大改革を斷行して社務の刷新を圖りたる鐵腕には、今更ながら社の內外をして驚嘆せしめた。思ふに同社の社運は君の手腕に待つて益々隆昌の域に達するであろう。特に君が非凡の膽力と識量の富擔なるに敬服するのは、斯く實業方面に手足を展はし居るより、尋常一様のものなりせば最早心身を擧げて之に傾到して、亦他を顧るの餘地なかるべきに、綽々として其一半の才力を公共事業にも傾注して居ることである。君は容姿温雅風貌灑洒宛として貴公子の如きも性行快活沈毅にして果斷力に富み、一旦信ずる所は敢然として遂行せざれば已まぬ意氣がある。彼の姿體の典雅なると云ひ、時に博浪沙の蠻勇振りと云ひ、或は勝を千里の外に決する智略と云ひ、其の犧牲的俠骨と云ひ金港の張子房木村長州を以て擬するものある眞に理なきにあらずだ。

大濱忠三郎君

君小壯にして早くも公生涯に入るや、中村房次郎、渡邊文七、原富太郎の諸氏と提携して潑溂たる新銳の氣を發揮し、嶄然として其頭角を現はすに至つた。由來橫濱の地たる平專、渡福等の所謂元老なるものゝの手に萬機を掌握せられ、其の樞機などには無論後進の若蔵輩は與り知ることの出來ぬものであつた。此の積漸の趨向は遂に專恣橫暴の弊に陷り、縣市の政務は擧げて元老の手に皈し政友派と提携して跳梁跋扈至らざるはなき有樣となつた。君たるもの慂して其の橫暴と專恣に座視傍觀するに忍びん、敢然として蹶起し同志を糾合し刷新派非政友なる大旆を樹て之に對抗すべく呼號した。然し當時の形勢は頗ぶる君等の非なるものであつた。世間君等を目して突飛派又は破壞黨などゝ惡罵し平專等に對抗するは天に向つて唾するに儔しと冷笑して顧るものはなかつた。惡戰苦鬪は固より君の豫期する所、一時の毀譽褒貶の如きは眼中にない、慂うして衝天の意氣が惡罵や冷笑位で銷磨せうぞ、『君は天は善に與みす』てふ經典を深く信じ、自己を慰め同志を皷舞し、十年一日の如く奮鬪を續けた。君は現に縣會市部會議長及市會議長の要職に在る。君の素質よりせる公平なる態度と、議場の機宜を捉へる煥發の才氣は、秋毫の間隙なく敵黨をして乘ずべき機會を與へない、其の鮮かなる議長振りには追が獰猛なる反對派も爪牙を逞ふする遑がない。曾て故朝田又七等の元老連が衆議院議員候補者選定を議するに當り、少壯派に同情深き島田三郎氏を敬遠すべく、政況視察に假託し洋行せしめ置き、其留守に意中の某を据ゑんと謀つた。君及中房の兩氏は其陰謀を看破し極力之に反爭して遂に拒止するに至つた。本年總選擧の事あるや君は既に胸中成算ありしと見へ、元老等の危むを排し中房氏と圖り自派より島田氏の外平沼氏を推薦し、堂々の陣を張り勁敵若尾氏を蹶落し市民をしてアッと云はせた。君の筆法は例も是た。明斷の頭腦より絞り出す推理と、剛健なる膽力より迸流する果斷とを併用して、萬遺算なき遣り口には感服せざるを得ぬ、結局君は實業家としても政治家としても成功すべき素質を具備して居る。斯く君は日々寸隙なき劇務に身心を勞する所より偶には折花攀柳の巷にも

出入し豪懐を遣ることがあるが、彼の四疊半的低唱微吟的遊冶郎の顰に傚ふのは嫌ひだ、行る時は正々堂々として、高樓傾盡三杯酒と云ふ風で面白い、此の光風霽月の心事は延て家庭に及び、彼の似非紳士の夫れの如く、何處やら奥歯に物の篏まりしやうな陰欝な氣分は微塵もなく、常に春風習々として傲骸を送つて居る。君は確か明治四年の出生四十五歳の男盛り、前途洋々春海の如く多望である。我衰頽に傾く横濱を背負て立つべき重責を荷ふべきだ。のみならず近き將來に於ての陣笠たらざる代議士として矚望せらるゝのである。須く自重して可なり矣（青六、十一）

◉再び大濱忠三郎君

△廣き顙額、淸しき眼光、締つた口邊、正しき鼻梁、胴と四肢の調和申分なく、筋骨の發育も程宜しと云ふ體格を骨相學上より判斷するに、寬厚で、怜悧で、確かりして、果斷で、正義を愛好し而も慈心に富む、所謂長者の風ある人物たるを知り得るのである、大濱君は記者の相する右の骨相を具備した一人ではあるまいか、果して此判斷が適中するや否やを調べて見やう？

△横濱の新人物　として指を屈するに記者は九人を選拔し得たことは日外の本誌上に表白して置た筈であるが、記者の理想に全然適中せる一人者は君であらねばならぬ、或人は横濱の双璧として君と中村房次郎君を擧げたが記者も之に同意する一人である、然し中村君は常に黑幕内に潜んで辣腕を振ふてふ小策士の行方に出で、惡く云ふと狡猾の傾がある、善意に解しても怜悧過る樣で此缺點が君には瑕に疵とも云へる、之に反し大濱君は其行藏進退堂々として實に立派なものである點が中村君に一頭を拔き出して居る所以の樣だ、君は又不惑の歳を五ッ六ッ過ごした男盛りであるが、蚤く先代忠三郎氏に逝かれて其箕裘を襲ひ家業たる洋糸織物取引に從事する傍ら横濱生命保險株式會社の專務取締役其他銀行會社に澤山關係して何れも重要の地位を占めて居るに見ても、君の平凡な實業家でないこと

が分る、彼の親讓りの金力にのみ賴り掛つて若旦那風を吹かす輩と大に其選を異にする、勿論先代忠三郎氏は傑出せる當代の實業家で黃綬褒賞を賜りし程の人物であつたから、其血を受けたるにも依るべきなれど、早稻田專門を出て歐米の空氣をも浴びた修養が預つて力らあることゝ思ふ、特に

△公人としての君には大に敬服に値ひするものがある、曾て區會議員として橫濱小學校敷地を宮內省より拂下げを受くるに方り、殆ど寢食を忘れての苦心慘憺の末目的を達したるが如きは市民の永く忘る可らざる偉大の印象とせねばならぬ一例事である、又日露戰役に際し南睦會々長として後援事業に盡瘁しての功勞も尙ほ新しき記憶の一つであらう、斯る風に君一度公事の上に起つや渾身の力を傾注して之を遂行せねば已まぬ槪がある、故に其始に方り誤解や感情等の爲めに反對したものも遂には燃ゆるが如き熱誠に動されて聽隨するに至るを常とする、素より君の純潔なる意志より迸出する計畫は何つも正義と云ふ順道を脫しないにも由ること勿論であると同時に、其企圖書策の前には深き思慮と厚き智畧とか萬一失なき先驅を爲して居ることも知らねばならぬ、而も君は籍を憲政會に置くも能く黨爭に附すべき案件と否らざるものを鑑別する識量を有し、彼の一部黨人が無茶苦茶に自容他排の弊に陷り鹿を逐ふもの山を見ず的の轍に倣はぬ所に君の大を知ることが出來る、君は永く市會議員の職にあり

△議長の榮位を占め居るが終始一貫的に秉公持平を緯とし正義條理を經とする議長振りには敵も味

方も心服して非難する者がない、最も難治の稱ある橫濱市會に片言隻語も議長としての君に苦情の起つた試しなきに見るも、其拔群の手腕に裏書するものではあるまいか、曾て衆議院議員總選擧の事あつて、橫濱市兩派の競爭は最も劇烈の極に逐し一つの修羅場を現出した、當時君は刷新派の雄鎭で數々馬を陣頭に立てゝ血戰を試みるの激戰であつた、本來ならば君は帷幄の內に籌畧謀策すべき云はゞ總參謀長の格で、自ら戰線に立つべき位置でなかつたのであるが、頻々として報ずる味方の苦戰惡鬪を聞くに及んで奮然陣頭に現はるゝ程の激戰であつたのである

△時も時なり緊急案件を附議すべく、臨時市會は召集された、一方に火の出るほど戰つて居る兩派の雄將猛卒の主もなる者は更に戰地を代へて一騎打勝負を決するの觀を呈し議場の混亂名狀すべからずとは、市民が異口同音に出した觀測の聲であつた――議長は開會を宣した……森嚴なる平素の態度に一層の凄味を加へたる議長は勵聲一番『現下逐鹿戰は兩派鎬を削りての對戰中に屬す、此秋此際兩派たるもの、作戰の秘奥を竭し、滿身の勇を皷して、其必勝を期せんとするは當然也、唯夫れ恐る之が飛沫が地方自治の境域に迄で浸潤することを、余は本市會開會の初頭に於て敢て各員に對し衷心の赤誠を披瀝して各位の良心に遡へ、各位の省慮を乞ひ這の危機を我市會より救はんと聲明するものなり、若夫れ不幸にして予が衷心の迸る忠言を無視し、苟も議場をして黨爭の具に供するが如きことあらんか、余は余の得たる權能に依り斷乎たる處置に出てん』と辭色與に揚り凜乎たる君の音聲は場の

四隅に響き渡つて悽氣は滿堂を壓して風霜烈日の概があつた、斯くて滿々たる殺氣の漲りし當時の市會には一波瀾だに起さずして洋々たる春海の如くに終つたのである……君が思慮の周密……心事の公正……意氣の强健……概ね斯の如く、實に得易からざる立派なる公人ではあるまいか、君旣に公私の橫濱士人として、而も新進の人物として二と下らざる地歩を占む、故に若し君に志の存するものあらば衆議院の一椅子を贏ち得るごときは眞に易々たる業のみであるのだが、君は每に他人に讓つて吝まざる宏寬の肚量と謙抑の德性には益々市民をして推服せしむるのである

△家庭の君は　更に於以上に推賞に値ひするものがある、君は日常公私の用務に忙殺せらるゝ有樣であるが、孝心深き君は老母に苦勞を掛くるに忍びずと滅多に外泊せる樣の事はなく、勉めて每夕老母を始め妻君子女と與に團欒して樂しき晩餐を一にする、又店員及雇傭人を過するにも頗る寬容で少功を擧げ小過を顧みずと云ふ風で和氣常に全家庭に滿ち〳〵て居る、權門紳縉の上流家庭に得て生じ易き如何はしき醜聞怪說の如きは君の家庭より流れ出づる罅隙がないのも道理である、彼の忠順篤實なる模範店員の稱ある警察官上りの川田逸朗氏の人となりに信賴し、家計の一切を之に委ねて過らざるは君が寬厚の素質にも依るべきなれど又人を見るの明ある一端を說明するものはであるまいか

△折花攀柳の巷　にも出入して時に其豪懷を遣ること無論であるが、彼の酒色に耽溺せる遊蕩兒の遊び振りとは大に其選を異にする、君の行き方は此別天地に於ても理想を實現せねば已まぬ、其大陸的

の豪宕で、開放である內にも何處やら秩序的で、澹泊で、綺麗である?彼の四疊半的で、小心で、暗室的である內に何處やら不組織的で、濃密で、醜汚である、俗子のやうでない?所にも又君の素質の閃きが現はれる

△如上概叙せる　記述より歸結して徐に記者が本文の前置たる骨相學士の君の現はれを判斷したることが適中せるを大に誇りとする、而も未來あり前途ある君たるもの、吾人の景仰と囑望に孤負して小成に安んずることなく、益々其天與の大器を玉成し公私の事業に貢献せんことを切望に堪へん、國家多事の今日幸に健在なれ

◉木村利右衛門君

中央と地方とを問はず政治たると實業たるとを論ぜず、各方面に於て元老凋落秋色轉た蕭條の感深き今日、當錦港に於ては仍ほ活氣横溢の大谷南湖翁あり、鑁鑠精鋭の寧靜木村翁の存するありて、双璧として公私の重要事業に活動貢献しつゝあるは、亦以て聊か人意を強ふするに足る。君は天保五年上總國舞鶴に生れ、夙に時勢の推移に着眼し鵬志を抱き蹶然郷關を辭し、當港に移住したるは今を距る五十二年前、世人が鎖國の夢未だ醒めず、外人を碧眼朱髯の怪物と嘲侮し、蒸汽船の操縦を視て魔法なりと怖れたる時代にして、無論互市貿易の何物たるを解する智識を有するものに至つては、寥々として晨星も啻ならざる當時なりき。君が奇才たるや天稟に出づると云ふと雖も其透徹せる達眼に至つては眞に驚嘆に堪へざるなり、君の當港に移住するや素より豊潤なる資産を有せしにあらず、專ら堅實を經とし誠意を緯とし膽畧を軸とし、或時は疾風迅雷耳を掩ひ身を避くるに遑あらざる的の動作に出で、或時は動かざる山の如く靜かなる林の如き態度を採り、其士魂商略の雄大にして機慧なること、恰も彼の不識庵機山の兵陣を布き旗皷堂々進退するの觀あり、宜なり君が識才は早く既に内外人に依つて認識せられ、少壯にして當港の中心人物として推重せられ本業たる蠶絲貿易洋絲織物の取引

日に月に隆昌の域に進むのみならず、重大なる公私の事業は擧げて君の健腕に俟ち始めて其成否を決すとまで待望せらるゝに至れり、君が由來公私大小の事業に貢献したる事蹟枚擧に遑あらざるも、二三重要なるものを記さんに、明治十三年横濱正金銀行の創立に盡瘁し當時擧げられて取締役たり、幾程もなく、推されて頭取となり、特種の銀行として我經驗なき創始の事業たる同行には、内外人の張膽明目して等しく成績の如何を注意して措かざりしが、君が識才は往くとして可ならざるはなく、數年ならずして事績着々として擧り基礎漸く堅く、今や關内馬車街角巍然として全港を睥睨する、宏壯雄大の石造建物が堅礎の上に築かれ、内外金融機關の重鎭として重視せらるゝに至りたる、偉勳者の一人は創業の難局に當りたる君に歸せざるを得ず、君亦廿五年横濱共同電燈會社（今の電氣會社）を廿六年横濱米穀取引所、電線製造會社を創立し、各其社長理事長に推され、廿八年東京瓦斯紡績會社卅年横濱貿易倉庫を創始し取締役又は社長の重任に就き、何れも赫々たる勳績あり、公共方面には縣市會議員商業會議所議員となり、縣市政及國政に貢献する所鮮少ならず、往年横濱市が地主商人の二派に岐れ政爭激甚を極むるや、君は地主派の重鎭として參畫奮闘敵黨の膽をして寒からしめたり、君は平素沈毅寡默温乎たる一個の好紳士たるも、事業と云はず政治と云はず、一度起つて陣頭に出づるや、汗馬の奔放するが如く向ふもの皆傷けられざるは莫きの概あり、君平生人に語て曰く『人各理想あり主張あるも、之を發現し實行せざれば何かせん、彼の堅忍と謂ひ謙讓と稱するも、場合と事柄に

依るべきのみ、終始旗幟の鮮明を缺き、踟躕として往かんとするが如く、逡巡して行かざるが如きは所謂怯懦の徒にして、大丈夫の與に談ずるに足らず』と以て君が意氣の一班を窺知し得べし、君が一旦意を決するや、敢然進んで憚る所なく、事に衝て快明の決、爽辯の談を下し、秋毫も雲翳曇影の跡なき、俯仰天地に耻ぢざる的の心事は誠に欽仰に値せざらんや、良く籌り能く斷ずとは蓋し君に冠すべき適切の熟語ならん歟。

君永年公私の生涯に身心を傾倒し、東驅西馳席暖まるに遑あらず、然も高齡八十の壽を保ち尚は矍鑠壯者を凌ぐものあるは何ぞや、君が天賦の素質然らしむるものたるべきは勿論なりと雖も、仔細に其平生を檢覈するときは、又大に其因て來る所以を發見すべし、君日に出ては牙籌を採り、鏘銖を爭ひ、紛々たる政爭に沒頭し、濛々たる紅塵に染むと雖も、一度入つて家庭の人となるや、或は一個福德圓滿たる好々爺たり、或は灑々落々たる詞藻界の雅客たるなり、彼の蔚蒼たる野毛山邸樹間の月に詠し、名稱湘南別墅の松籟に吟じ、其錦心繡腸を恣に遣り、悠々自適の別天地に逍遙する瞬間こそ、君が長生享壽の秘法は修めらるゝ也、君は錦港漢詩界の白眉たり、往年鄭船の故永井禾原と共に、詩壇の明星を以て目せらる、禾原の詩は華麗美玉の如く、時に浮泛輕淺の嫌ひあり、寧靜は質實剛健荷も浮華の跡なきは喜ぶべきも、時に單調枯淡に失するの弊あり、迭に一長一短上下するものありと雖も、其巨擘たるを失はず、索漠たる當港の漢詩壇今や一明星を殞す痛惜に勝ゆべけんや、燈火正に親むべく、詩嚢肥ゆるの時に當り、殘春の將星今昔の感果して奈何、好翁自重せよ、君の爲にブレッシングす。

◉渡邊忠右衛門君

身を眇たる一職工に起し獨力我國有數の造船所を創立し、今や神奈川町海岸に天を摩する煙突より不斷の精力を吐き、數十萬圓の鉅富を鐵槌下に叩き致せる當代成功紳士たる君は、嘉永元年千葉縣は君津郡戸田村の水呑百姓の家に呱々の產聲を揚げたのである、天性豪宕敏慧にして鬼童の稱があつた、齡僅に十五の小冠者にてありながら、世人がまだ蒸汽船を見て魔物と怖れ、碧眼朱髯の外人を怪獸視したる當時、早く既に世界の大勢を看取し、將來身を立て國を富ますには海運業に若かじと決心し、蹶然郷關を辭し身を江戸石川島造船所の一職工に投じ、技稍々熟するや、不撓の決意愈堅く一技の小成に安するを容るさぬ、進んで橫須賀海軍造船所及橫濱居留地六十六番館並に東京築地海軍兵營寮に入り、各御府外人に師事し技を磨き識を博むること多年、君が技能は既に內外人の間に推服せらるゝに到つた、サア這ふなると人物拂底の當時であるから堪らぬ、公私の招聘雇傭談は四方より襲來する中には牡丹餅で頰邊を叩かれるやうな甘き相談を持掛け來るものもあつた、が然し一技術者一工匠として假し千金の給料を得るも一身を羈束せらるゝは君が志ではない、故に所謂甘き相談なるものは片ッ端より刎ね付けて顧みなかつた、只將來青雲の志を大成する階梯として羈絆の累を貽さゞる範疇（カテゴリー）內

に於て三菱郵船等に尺蠖の屈を忍んだ、嗚呼時は來れり、君が風雲を捲いて起つの機會は到つたのである、幵は郵船會社所屬橫濱鐵工場を船渠會社に讓り渡すや、同社は君の巨腕に經營萬端の事務を擧げて一任するに至つた、時維明治卅一年一月君奮躍一番立ちて神奈川の現工場の一部に造船及船渠事業を開始し、多年雌伏せる經綸の大策と鍛棟の手腕は一齊に煥發し、公私內外の信望一時に蝟集し來り倏忽にして四棟の大工場と三千坪の大船渠を有し、千有餘名のワークマンが下す鐵槌の響、ボイラーの吹く汽笛の音、カッターの軋りは、何れも君が成功をブレッシングする音樂と見てよい、ア、彼が成功然かも偉大なる成就は抑も何に依つて贏ち得たのであらうか、曰くセルフコントロル、曰くセルフヘルプの賜ものに過ぎぬ、世の懦弱青年輩に君の睾丸の垢でも飲ましてやりたいのである、君は短軀瘠容なるも滿腔是膽全身是氣の概がある一見蒲柳の質の如きも古稀の今年まで醫藥の味を知らず鑁鑠として活動を續けて居る、思ふに彼の膽力の大と意氣の强には病魔も恐れて侵入の機會を得ぬのであらう、彼は他人より成功將た健康の談を求めらるゝも謙して多く語らない、近側の人には偶々秘懷の一端を洩すことあるが其れは頗ぶる簡單明瞭のものである、曰く多く喰ひ大に飲め長く眠れ能く働けと云ふのだそうな、記者は此簡單の內に眞理あり明瞭の裏に暗示ありと思ふ、が讀者以て奈何となす。

大正四年十月一日發行　青年及青年團　第六卷　第十號

◉中村房次郎君

暫く本欄の記事を中止して居たが、今日は錦港少壯派の頭目として、大橫濱市會議長と常に意氣相容るし、與に共に鑾を並べて、其の颯爽たる英姿を商、政の兩陣頭に現はすや、早く既に三軍を呑むの概ありて、味方と云はず敵と云はず、畏敬の標的と爲り居る君を紹介しやう。

君は錦港の名士增田增藏君の令弟で慶應三年の出生だ。幼にして敏慧神靈の稱があつた、橫商を優等で卒業後は、主ら令兄の事業を補助し、勵精努力、機略縱橫、明斷果決の商戰振りは、一代の成功者乃父嘉兵衛氏の風がある、增田家の柱石として内外に重を置かるゝ由れなきに非らずだ、君は三十八年中歐米各國を漫遊視察し、充分文明先進國の空氣を吸收して大に得る所あつた、明敏なる君の頭腦組織に包充したる新智識は、彼の平凡學生が兩三年留學して得べき、形式的智識の數量に比すべきに非らずである、明玉は磨けば磨く程光輝を放つものである、果せる哉、君が歸朝後の新智識活用は到る所に、燦然として摧耀せられたのである。

君が歸朝後の活躍振りは、實に目の醒むる程華々しきものがあつた、實業方面には製粉株式會社、關東煉瓦株式會社、橫濱保險株式會社等を創立して、其社長又は取締役に擧げられ、兼て家業の製糖

事業は擴張して何れも好成績を收めざるはなかつた、又卒先して橫濱經濟協會を創立して、青年實業家の牛耳を乗り、之を提撕指導する所あり、斯界に貢献すること少なからぬ、若し夫れ其公生涯の方面に至つては更により以上の潑溂たるものである、君が市政議壇に立つや、整々たる陣容を布き堂々たる論鋒を提げ、猛然身を挺して敵に當り、之を壞滅して餘喘をも保たしめざれば已まざるの概ありて、更に生平の温厚自重の風に似ぬ蓋し君は籌を帷幕に園らす謀士たると同時に、自ら陣頭に立つて叱咤風發的の一個の勇士たるにも叶へる。

中村房次郎君

思ふに政爭の事たる恐らく君の素志にあざるべきも往年政友派の全盛時代に當り中央と云はず、地方にまで其毒手を揺ばし、專恣橫暴を極むるや、血氣橫溢する底の君たるもの、慿して座視傍観するに忍べるものか、皆裝切齒して同志を糾合し、縣下刷新派を樹立して之に對抗するに至つた、爾來惡戰苦闘を續くること十有餘年の久しきに互りて屈せず、逭がの政友派をして、孤城落日の嘆を發せしめ、人をして轉た慠る平家の沒落せる古へを偲ばしむるに至りたる、源家に於ける九郎判官たる大殊勳者は、確に

君を第一人者として推賞するも、決して溢美の言に非らずと信ずるのである。

特に君に敬服することは、君は需めて盛名利便の地を得ることをせぬ、寧ろ進んで難局に當り、反て易事を他に讓り、事成るや功を人に歸し、成らざれば過を已に嫁し、終始犧牲的境地に甘んずるといふ、古武士の風あることである、君が今日迄、贏ち得たる信望と、勳績と實力と、地位の上より論ずるも、既に衆議員議員位の地歩を占め得たのであらうが、却て後進の平沼氏を推薦し其の帷幕者の一人に甘んするが如きは、到底尋常一様の輩が企て及ばざる所であつて、君が卓逸せる高尚なる人格と、任俠的性格の流露に外ならぬ。

君は責任觀念の非常に發達せる、當代稀觀の好典型（グートタイプ）的紳士（ジエントルマン）である、這は立派なる觀念は事毎に寶玉の如く、隨所に光輝ある君の人格となつて發露する、君は云ふまでもなく、公生涯に於てこそ、小壯派の重鎭であるが、年齡に於ては既に五十の坂を踰んだる、所謂中老の分別盛りの人である、其の社會的地位に於ても第一流に屬し、多大の屬望と尊敬を拂はれ居るに拘はらず、令兄增藏君の經營せる家業の店舖に毎日出務し、孜々として前垂掛となつて牙籌を採る狀態は、使傭人たる他の店員と擇む所がない、出ては叱咤捲雲の概ある勇將も、入つては一個圓滿なる家庭的ビジネストたる、其の境地の甚しき懸隔ある所に、君の美德の現はれと爲るのである、全體增田家は先代嘉兵衛君の一空拳より叩き擧げ巨萬の富を爲したるもので、令兄增藏君嗣子として家業を襲ひ、君は出でゝ中村家を嗣きたるものである、故に君としては其地位を卑下して、令兄の爲に一店員たるの觀ある迄、表面盡すべき理由はないのであるが、其處に君が美質たる、責任觀念より出發する一種の任俠的行爲は、家庭的ビジネスマンに甘んずることゝなるのである、と云ふ次第は令兄增藏君の事業は頗る手廣きのみならず篤行の君子人にして實業家としては、餘りに正義に過ぎ、利を見るに薄きの觀かある所から、君たるもの宗家の隆興を圖る上に於て、座視する能はず進んで一ビジネスマンに甘んじ、滿身の努力を宗家の爲に傾倒して吝まぬのである。

君は慥に記者の理想たる、操志堅實にして活動力に富む、紳士の典型に入るべき第一人者である、聞く近頃專ら勢力を實業方面に集注し、殆ど他を顧みるの遑なきか如しとの事である、思ふに兵を蓄へ糧を積み、必ず到來すべき風雲の機會に一大飛躍を試むべき、準備たるべしと推知せらるゝのである君たるもの大に自重加餐せよ。

大正五年二月一日發行　青年及青年團第七卷　第二號

●株界の異彩菴原鉚次郎君

▲士魂商才　さて吾人の眼底に映寫すべく、之が完璧の有資格者を物色すると、帶に短し襷に長しで劫々發見に苦むものである、況して紛々たる銅臭の鼻持ならぬ、アトモスフエアー内に蠢動する投機者流中に之を覓むるのは、泥溝より鯨を釣り揚げ、塵埃溜より金剛石を搜り出すより困難なる問題と云はねばならぬ、然るに珍らしくも此處に蒼海の一粟、殆ど奇蹟的に全國幾百の仲買業者中より一人の夫れを發見したから世に紹介する!!、儻に君は其人格、修養、日常の行動に於て唯の商人でない、夫も其筈……君は、

▲名門の出　而も遠く人皇第七代孝靈天皇の皇孫吉備武彦命の血豚を受けたる正系の後裔である、武彦命は日本武命が東夷征討の際其副將軍として偉功あり其功に依り今の靜岡縣庵原郡庵原村、當時の蘆原の國を授領せられ其子意加部彦命より世々蘆原の國造として相享け、天智天皇の御代に蘆原公臣は新羅征伐に勇名を轟した、其後左衞門尉政盛が今川義元の裨將たりし時代、今川氏の沒落と同時に居城庵原を退轉したが、其子助右衞門朝昌父祖の血を受け武勇絶倫の譽れ高く、後年伊井直政の客將となり大阪冬夏の陣に軍監として出征して戰功尠なからず、特に夏の陣に於て大阪方忠勇隨一と稱せ

られたる名將木村長門守重成を討ちて驍名一世に鳴り亘つた、其時重成の母が衣に附せし白熊の染出しは今に菴原家の名譽ある歷史を語る重寶として秘藏せられて居る　本編の主人公たる菴原鉚次郎君こそ其菴原城より岐れたる朝昌の末裔であるのである　朝昌以來伊井家の老職として八千五百石の祿を食み連綿鉚次郎君に及んだと云ふ、由緒を聞いては君が普通商人の匹儔でない超越せる人格をナールホドと合點するであらう、現に數千圓を投じて舊菴原城鶴舞山の祖先の塋域を改修し、昨年九月廿三日には縣官、有志者、村民等の多數參集し、君を祭主として盛んなる竣成式を擧げ同時に莊嚴なる祭典を執行して、身親しく

▲祖先崇拜　の範を示めしたと云ふことである、當時參列せる第一高等學校教授塩谷時敏先生の感吟に、『孤邱松柏積幽祠、千載靈威赫々垂、休說英雄興廢事、闔村人祭衞公碑』と又同先生撰の碑銘に『天潢分派、世居駿陽、桓々虎臣、威名孔彰、於江於甲、閥閱相望、邈矣千載、閟祀不忘』とあり、其盛儀と莊嚴と敬虔の狀況推想するだに一種のインスピレーションを起さゞるを得ぬではないか、君が血統の舊くして正しきことは畧ぼ前述の通りであるが、更に其の

▲修養の點　に就て何う云ふ風であつたかを少しく吟味して見やう、君の父君は伊井家の家老職の筆頭を勤めたる與左衞門朝克で松平氏との間に慶應三年江州彦根城内の藩邸に孤々の初聲を揚げたのである、月並的の常套語を使用するではないが、實際君は幼にして神童の稱を實にし八歲にて彥根の博

文養に入り次で入德學校に轉じ十六歳の春には既に中學科の課程を卒へ、直に大阪の鴻儒藤澤南岳翁の塾に入り、專ら漢籍を學び傍ら英語、及西歐流入の科學をも修むることに怠らなかつた、君が俊秀なる頭腦に吸收する量分は凡ての點に儕輩を拔き嶄然塾中に頭角を現はし、優秀の成績を以て業を卒へた、當時彥根藩にて少く教育ありて志を成さんとする程の人物は早くも鄕關を出で都門に集中したものだ、君は此傾向を見て慨然として叫んだ、曰く『文明の普及は

菴原鉚次郎君

▲地方教育　に出發せざる可らず』と未だ廿歳前後の血氣定まらざる君は、既に老成人も及ばざる思慮分別を有して地方教育と云ふ大問題に着眼したのであつた君は結束して鄕里に歸り萬難を排し自ら校舍を建て育英の事業に從事して居ること數年漸く官民が地方教育普及の必要を覺醒し來り、君が一半の持論貫徹せるに方り、滋賀縣知事園田安賢は悉くも君が爲すあるの識才を看取し警視總監に榮轉するに際し君を拉し去つて其屬僚に拔擢したのである然し

蛟龍は永く池中の潜屈を容さぬ、君が遠大の志望と期圖をして警視廳の一俗吏に了らしむるは餘りに總監が鑑識の尺度に相違があり過ぎた、果然君は現地位を弊履の如く擲つて

▲敎育書肆　文學社に入社したのは奉職後六ヶ月の後であつた、君が入社後文學社には一の革命的計算が起つた、と云ふのは僅々二三萬圓の收入は俄然其十倍に登つた一事であつた、社の內外より驚異の目を以て睜られ、終には君に稱贊の辭を浴せるに、天來の福音者なりとするに至つた、君が此稱贊の辭に報ゆる頗る簡單明瞭のものであつた、曰く『余に對する幾多の稱贊辭は過褒也、余は何人も爲し得る事を爲したるに過ぎず、唯だ夫れ事業其ものを愛するに於て自他の區別を設けず、敢然自己の全ベストを傾盡するのみ豈他あらんや』と、此の自他の區別を設けずとの一言こそ君が全性格の表象であつて、同時に君が當世商人氣質を超越せる美點も玆にあるのである、君已に中央大舞臺に上場し試錬を積むこと多年其天禀の才能を併せて最早名代以上の役者と爲り了ふせたのであつた、君更に心機一轉乾坤一擲の快擧を試むべく

▲投機事業　に手を染むるに至つた其動機が尋常でないのも面白い、君以爲く、取引所は經濟界の最要機關である、而も直接之に關係するものを目して、山師なり相場師なりと一般より危險視せられ、厭惡せられ、輕侮せらるゝとは何事であらう、畢竟するに世人取引所を以て一種の賭場視し、且つ之に出入する關係者を博奕打視する謬見なるも、又一面には關係者自身に於ても投機即ち一六勝負と同

樣の考を以て從事するより起る自業自得の罪にも歸由する、斯くては我取引所の發達を阻碍し併て財界の進步を支障し、歐米列强と比肩並進するの期なからん、柯を作る柯を以てし、毒を制する毒を以てせざる可らず、之を改善し覺醒せしむるには自ら其渦中に投ずるの捷徑なるに若かずと、健氣にも身を以て斯界革命の先驅者を以て任じたのであつた、一念玆に及んでは君の氣象として一刻の猶豫を與ふべきでない、文學社七年の經營慘憺の歷史と、內外の重望を棄つること卷煙草の包箱ほどにも思はず、決然去つて當時斯界の大立物と知られたる、日本橋阪本町仲買業井野信次郎氏の帷幄に參じたのは將に明治三十年十月であつた、然るに井野氏には不幸にして雄材を空く病魔の襲ふに任せ三十二年鬼籍に入つた、而も情誼に厚き君は病歿後三年間井野家の後圖を盡して遺憾なき整理を遂げたる後兜町三丁目に

▲獨立の仲買店　を出すに至つた、間もなく日露役に伴ふ經濟界特に相場界未曾有の大激戰を演出するに及んで、君が鍛錬せる手腕と修養ある才機を遺憾なく煥發せらるゝに至つた、君は電火閃き雷霆轟く的の激戰當時を追憶より喚び起して語る『左樣、日露役前迄は財界の狀態頗る順調で株式は大體騰貴の趨勢でありましたが、三十六年秋の頃より日露の風雲急を告げ、遂に三十七年二月彌々國交斷絕となるや、財界には狂風荒み怒濤掀飜實に慘憺たる光景を呈するに至りましたのです、更に勝戰の結果はお定りの事業熱勃興して僅々五六ヶ月間に新設事業の資本金十數億萬圓に上り、財界の狂熱的

隆昌其極に達しました、果然資本の枯渴、生產過剩、金融逼塞等の反動起り四十一年一月頃には株式の大暴落を來したのです、其狂騰、暴落の結果として朝に百萬長者を產み、夕に一夜乞食も生ずと云ふ非常な騷動を現出しました、彼の有名なる鈴木サンが神奈川方面に別莊の三ヶ所も建て、藝妓を多勢招んで札を撒て拾はせた全盛も束の間、數月の後家や屋敷は勿論妻君の髮飾迄人手に渡したと云ふ悲喜劇の演出も劇戰當時の名殘の一挿話です』と話し終つて感慨無量と云つた體であつた、而も君は此間に處して泰然自若變に處し機に應じ

▲神謀鬼策　を以て恐慌の渦中より脫し反つて禍を轉じて福とし自他を利したのである、君が相場觀なるものを聞くに、『盈れば昃く、此の宇宙眞理を信條の基點とすべく、飽充を求めざる處缺乏なしと云ふ微妙なる神機が潛む、此微妙の神機を探り得て始て最後の勝利がある、神機を探知するには凡百の煩惱を去り、精神を淸澄にせねばならぬ、精神の淸澄とは畢竟正直の謂ひに過ぎず、余が商賣唯一の秘訣は結局此の正直の二字に外ならぬ』と以て君が商賣道の信念如何を窺知すべきである、のみならず君に敬服する一事は

▲慈悲心深　く情誼の厚き崇高なる人格である、最も君は世の僞善者の如く陽に施し陰に貪るが如き卑汚なる行爲を惡むの餘り是迄公私の爲め少なからぬ私財を投じたるも之を麗々しく發表するやうのなことはせん、記者の知る範圍にても舊主井野家に投じたる金額巨額に上るべく、現に未亡人に對し

毎月慰藉料として數十圓を寄贈して居り、其他舊知の困難を救助し、苦學生に幇助する等月々の支出する陰德費のみても三百圓を下らざるやうである、人情菲薄紙の如き澆季の今日左りとは君の如き人格者を見るは珍しくも嬉しき事象ではあるまいか、當世紳士の假面を掩ふ輩が自己の快樂を貪り虚榮を衒ふが爲に千萬金を抛つて吝まざるも、公共慈善の爲には鐚一文を出すにも澁面するに比して、豈啻に雲泥の差ありとすべきである、嗟乎德不孤必有隣君が家庭に比陽報が現はれ、

▲一家の和樂　と享福は羨むに足るべきとである、夫人千代子の温雅貞淑なる長豊、次滋の兩男與に俊秀の麒麟兒として第一高に孜々として最高學府に入るべく準備に怠りなく、一度君の家庭を覗ふもの其靄々たる和氣を送る春風の駘蕩に神暢るの心地するであらう、君出でゝは乾坤一擲塲裡に心身を傾盡して綿の如く疲勞することあるも、歸りて家門を入ると千代子夫人の朱唇より出づる眞心を罩めたる慰藉の辭を浴び、夫れより一家團欒杯を擧て朗々得意の鉢の木を謠ひ出すに至つて、最早一日の勞劬は消散し新なる元氣は此處に回復せらるゝのである、此享樂、此探快は君の如き崇嵩なる人格者に於て始めて味ふべく、將に之が人生極致の眞快樂地であらねばならぬ。（新六、八、四）

◉左右田銀行（上）

一代の商傑、故左右田金作氏が努力の結晶、機略の賜物であつて磐石の堅礎の上に築き立てられたる、合資會社左右田銀行と株式會社左右田貯蓄銀行とは、令嗣喜一郎氏を始め、信二郎、棟一氏等の俊髦連の一族を主腦として益々繁昌の域に進みつゝある、元來橫濱の大銀行に列すべきものは他所よりの支店若くは出張所が主として幅を利かし、生粹の銀行としては、渡邊、茂木、第二、七拾四、位の所を推すに過ぎぬのである、而も其信用あるべき大銀行中でも內部の機關が頗る複雜を極め、或る者の特別機關として利用せられてゐるものもあつて看板ほど一般の財界に重寶視せられぬのである、極端に云ふと盛名を利用して預金を吸收するも、其貸出は主として一二の緣故ある者の事業に供するのであつて廣く其の潤澤を及ばさぬのである、結局羊頭を掲げて狗肉を售ると評されても辯解の辭がないだらうと思ふ、更に極言するに銀行なるものは其一二者と起倒を共にする危際物とも云ひ得る譯である、記者は決して空言を吐き殊更世人を驚すものでない、我橫濱財界の一大通弊であり痼疾であると認めたので、筆の序に書いたのである、オフコース記者は具體的に讀者の前に其通弊を展開する資料を有して居る、が少時藉すに時日を以てし彼等の反省を待つことゝした――大分餘談に走つた樣

だが左右田銀行は其處に行くと四邊に何等の係累なく、
△特立獨行、の自由なる天地に翼を振ふことが出來る丈け夫れ丈け、其麼な渦中に捲き込まれ銀行の本分を沒却する樣な愚態を演せぬ所に同行の特色と光輝がある、然るに我身の臭きを知らぬ屁臭虫的渠等は、同行が繫累なき眞性の信用を以てドシ／＼預金率の嵩まると同時に公平なる自由裁量を與へドン／＼貸出をして金融塲に利便を與へ、双びなき盛名を馳せるを見て、自己が一二者の資金供給に覊束せらるゝ不自由なる立場に比し艶羨の念は嫉妬の情となり憎惡の心となり遂に卑劣にも貸出制限と云ふ奇怪なる秘密同盟を訂約して同行を壓迫せんと試みるに至つたが、博識なる喜一郎氏、洗練せる信二郎氏、豪宕なる棟一氏等の腕揃ひの同行何條是れしきの痴け威しに怯むべき、堂々其本分に據つて動かぬ所から、彼等は今更其効めなきに驚き呆れたるも此處にて手を引くべきに非らず更らに今度は陰險にも同行を中傷しやうと掛つた、適ま昨冬同行と深き關係ある倉庫會社の爆破事件に結び着けての流布せる如何はしき噂の立つのも皆な彼等一派より起した波動であつた、然し
△邪は正に克たず、眞理は空說に掩はるるものでない、同行の採る正々堂々たる業務方針の立派にして銀行定理に適して居ることゝ、其內容の設備整齊して一點指摘すべき缺陷無きことは官民の共に認むる所となつて、彼等が折角の畫策も悉く徒勞に歸したのみでない、反動的に彼等の奸策を惡み同行に同情を寄するに至つたとは左もあるべき筈である、是に就て記者は更に同行の奇禍的悲慘歷史を語るべく記憶を喚起せずに居られぬ、去る四十年頃であつたらう、某惡德紙が同行の中傷的記事を大行に書き立てた結果として、忽ち本支店全行に亘る大取り付けとなつて數日間に數十萬圓の拂出しに大混雜を極めたが、眞相の知るゝや預金者は其輕擧を耻ぢ、世間の義憤的同情となつて、今度は反對に拂出しに倍加の預け入に數日の大混雜を來したのであつた、當時同行の態度の莊重で、沈着で、敏捷であつて、其の取揃きの鮮明で、適中で、無疵であつたのは世人をして嘆賞措かしめなかつたのである、爾來燒け廣がりの譬の通り、益々好調に發展して基礎彌々堅實に貯蓄銀行を併せ二百萬圓の資本に豐富なる準備金を保有し、預金無慮二千萬圓と云ふ、蔚然たる大銀行と爲り理想的銀行として內外の信望を繫ぐに至つた。

左右田銀行營業室

△喬木は　時に狂風の犯す所となり易きを常とするも、良土に培はれたる健全なる根幹を有する名木は軈て亭々として群を拔き、千壽を保ち神木と崇めらるゝものである、記者は同行が三十年の發達史に省み猶ほ前途に幾多の妬風も起らう嫉雨も來らうと豫想すると同時に、其の將來に囑望する丈け夫れだけ期待の大なるものがある、而も此の未來ある銀行が先代金作氏の巨腕に創立せられ育成せられたる偉績は、今更絮說する迄もなく、之を繼紹して現在其經營に當つて居る所謂同行の

△幹部たる、嗣子喜一郎、信二郎、棟一氏の一族を始め、鈴木左馬次、合田普君等の才能、識量、人物の如何を勘査するに何れも適任たる材幹であることを發見する、喜一郎氏が學殖富贍たる法制、經濟學の博士にして既に斯界一方のオーソリチーたることは、洽く世人の知る所で一銀行の頭取たるには餘りに其貫錄が重過ぎる程であるから茲に月旦する迄もないとし、信二郎氏の洗棟したる手腕と圓熟せる人格は曩に本紙の詳叙したる所であつた、就中棟一氏は四十二歲の男盛り赤門法科出身の新知識に滿ち〳〵たる腕を自由に振り廻はしての經營畫策振りは、將に全行を脊負つて起つて居る觀がある、氏は性質豪放華落にして細事に拘泥せず、常に大綱を握る的の將器を有し、而も斯る大器に動もすれば生じ易き缺點である粗笨、逸埒の跡が見えぬのは畢竟氏が修養積學の德であらねばならぬ、實に鬼に金棒的の人物とは氏の如きを指稱するものではあるまいか、或る人は氏を未成品と評したが、這は單に年齡の上より見た皮想の評斷で採るに足らん、記者の觀察にては氏は其天禀の素質、修養克棘に渾熟たる一人物に組成せられたるジエントルマンであると斷案を下すに憚らぬ。

（新六、八、五、）

◉左右田銀行（下）

△特立獨步にして理想的▽

△商賣上手にして平民的▽

幹部の人材揃なることは、前々號より叙述せし記事にて略ぼ盡した樣だが、更に同行に見逃すことの出來ぬ適材として記者は現在貯蓄銀行支配人にして本行の庶務課長を兼る合田晋氏を擧げざるを得ぬ、氏は高商を出ると直ぐ同行に入つたのだが、其稟脫せる識才は蚤くも同行創業の元勳だる故金作氏の烱眼に見出され、倏ち儕輩を拔いて重用せらるゝに至つた、適が金作氏程の傑物に擢拔せらるゝ氏が頭腦の明斷と手腕の冴えは歲と共に燦燿たるものがある、氏はまだ三十六歲の血氣盛り其灑落たる風貌の內に雋鋭の氣を包み、記者を本行の應接室に延ひて語つた『左樣少しく語弊があるかも知れませんが、當行の採る方針とも云ふべきは平等主義……商賈本位……ですな!!曾て先代金作氏が銀行業を開始するに方りまして、國立銀行の名に囚れたのでもありますまいが、銀行は宛然郵便局で貯金を取扱ふと同格のものと誤解しお役所風……お役人風を振り廻はしたものです、それは出入する人も官尊民卑の弊習蟬脫せざる當時ですから少さくなつて居たものです、金作氏は早くも此の弊風に着眼し行員一同に訓戒して云ひました、――抑も銀行業なるものは單に金融界の機關と云ふ所より見ると、

普通一般的商賣と少く趣を異にする様だが、銀行夫れ自身の側より云へば純然たる一個の商賣である、如何となれば金を貸して利息を取り、預金に依り利鞘を得るから營業がなりたつて行くので、結局利益を得るが目的である、然らば出入する預金者は勿論借人でも大事の御客様と云はねばならぬのである、已に御客様とすれば之に對し相應の禮遇と歡待をせねばならぬ事は自明の理であるにも拘はらず、動もすれば銀行家は役人でもあるかの如く倨傲自ら居るは誤れるの甚きもの也、況や銀行は官公署に非らず、行員は無論一平民にすぎざる哉である、假に官公署であつたとするも、官尊民卑は正理に非らずして我國の弊習に過ぎざれば進んで之を打破せざるべからず、自今行員たる者此意を體し、貴賤老幼男女金額の多寡に拘らず、等しく御客様に於て擇む所なしとの觀念を忘れず行務に従はざる可からず云々――と此訓諭が當行不文の憲法と爲り主義と爲つて今日迄一貫して來たのですから、若し當行の行風特色は何んだとも問はれたなら先づ這麼な所でしやうがな?』……貸出は何う云ふ風だと問ふのですか『當行は前にも述べた通り何處の方面にも平等主義が適用せられます、他行の様に當行には副業的事業の繫累がなく、其力に資金を運用する必用がありませんから、金力を擧げて無差別的に無階級的に當行の見て確實と決定したる御客に貸出すことが出來るのです、』『某行が某の機關なりとの非難ですか? 正乎夫んなこともありますまいよ、然し生絲とか羽二重とか特種の資金に融通するを主として一般貸出を副とすると云ふ風な傾のある銀行がないとも云はれませんが金融機關の本則とし

て面白くありません様です、若しそんな銀行があるとすれば預金汲收も限局せよと云ひたくなりますではありませんか』……『左様々々當行が市内の要所々々に支店を配置するので預金壟斷策でも行ふかの如き非難があることが事實です、然し當行の眞意は決してソンナ狭い汚い考へで行つたのでは無いのです、畢竟青い眼鏡の觀測ですな、私共の銀行は前にも數々申しました通り客本位の平等主義を一貫する信條に依りまして零砕の預金者が遠方迄態々來る勞苦を察し各要所を選み支店を設置致しましたのですが、單に利益のみを計算上に置くと多少の預金者を殖すとも收支上餘り香しきものではありません、要は一片預金者に寄せる同情心より起りました企であるのです、』……『行員は學校出が善いか、小僧上りが可いかと云ふのですか――夫は一様には斷言出來ません、要は忠實を第一義とし行務に熟練するを第二義とする點から見ますと、給仕上りでも中學程度位の學歷あるものでも結局同等に役立つ譯なのです、本行には此の主義に依り行つて居ります、元來銀行業務には大した學文や技術を要するものでは無いと云ふことを御了解になれば直ぐ此問題は解決せらるゝ様ですな』と何處迄も惡遠慮もせねば知つたか振りもせぬ所に氏の中庸性が灰の見えて嬉し、氏が銀行員資格定義? 少なくも下給行員の採用標準として頗る肯綮に中りたるものと云ふも過褒ではない、記者は左右田銀行が理想に近き行務振りを認めては居つたが、今茲に責任ある合田支配人の裏書に依り益々我言の誤らざるを確保したのである、同行は自已の進運と、社會の趨勢に伴ふ計畫として、近き將來に資本金、五百萬

圓の大銀行たらんとの準備中なりと聞く、記者は其實現の一日も速かならんことを饒望して已まざると同時に、錦港に於ける模範銀行たる實を益々發現して、我銀行界の弊竇を芟除すべき急先鋒たるべきを信じて疑はぬのである。

（六、一〇、六）

◉左右田信二郎君

銀行界一代の巨腕家左右田金作氏と云へば、小學一年生でも豪い人と直に首肯する程聞えた人物だ、氏が數十年間苦辛慘憺努力奮鬪の末、築き上なる堅き々々礎に白煉瓦、鐵筋コンクリートの左右田銀行は、金作氏物故の後は嫡嗣喜一郎君養子の棟一君と君の三名が共同經營として益々隆盛の域に進んで居る、が取り分け君は其の中心人物として左右田家の柱石たる觀がある、實際嗣子喜一郎君は法學博士の稱號を荷ふ程の博學者又棟一君も東大出の法學士ではあるが、實業界の實際智識と天稟の商才に至つては到底君に企及すべきではない、君は越後柏崎の左右田七右衞氏の二男で、故金作氏の家系とは、本末の關係がある、君は不幸にして十二歲の時父君を喪ひ、家業を繼紹して其少さい肩に重荷を負ふては、京阪地方に吳服太物を旅商をしたのであつた、十八歲に及んで奮然笈を負ふて東京に出で今の中央大學に法政經濟の學を修め廿年業を卒へたるも、世の學生等が學文の爲に學文をすると云ふのでなく、實生活の資に供する爲めに學文する君の意志は

左右田信二郎君と筆蹟

尋常普通學生等が卒業後方途に迷ふやうなへまはなく、直に保險事業に從事し廿二年横濱に來りて羽二重賣込商の傍ら、左右田銀行の前身なる左右田商店に盡瘁し明治廿八年には左右田氏の經營せる東京松野屋株式店の整理に方り之を釐革して合資組織として今日の基礎を造つた、又同年八月君の献策により左右田商店を改め、堂々たる左右田銀行の銘を打つて名乘り上げ君は其代表社員兼支配人と爲つた、三十三年一月別に株式組織たる左右田貯蓄銀行を設立し又其取締となり、逐年信用を高め進展の域に達し、今や有數の大銀行として我金融界の重鎭を以て目せらるゝに至つたのは故人の聲望と其の餘勢にも由るべきは勿論なるも、又君が献策と努力と籌計とに至大の關係ありしは沒すべからざる實相である、毎年花咲鳥歌好節を選び左右田家にては銀行の取引者預金者千有餘名を老松町の本邸に招宴するを行事として居る、其際場内を幹旋して萬遍なく如才なき應接振りを見せる一個の灑落たる好紳士を視るであらう、其引着けるやうな目元、輕快なる動作の內に重責を双肩に荷ふ的の深き思慮を心底に藏する人が即ち君であるのである、君は銀行業の外横濱商品倉庫、利根運河株式會社、横濱衞生株式會社等の重役とし、其眞摯誠實を兩信條とする重役振りは至る所信望を博しつゝある、是亦錦港に於ける未來ある有爲の實業家の一人者として記者が本欄に推賞するに至つた所以である。

（新、六、六、五）

◉田中茂君

錦港事業界の一人として當欄に見通し難きは、銅鐵器械直輸入の巨商たる田中茂君である、君は弱冠にして昌平黌に學び、維新の際横濱に來り修文館に漢學の技師となつて傍ら英語を修めた、恐く事業界の元老株にして君の如く流暢に英語を操つる人はあるまい、漢籍の造詣は固よりお手のもので漢詩は既に大家の域に達して居る、資性剛邁志し經世濟民にありしも中年大に時勢の遷移に感激する所あり、翻然志を決して劍を賣つて馬に換し程の勇斷を以て財界に一身を委ぬるに至つた、然し昔者の俤の閃きが牙籌の間に現はる、若夫れ時弊を痛罵し詩論を闘はすが如きこともあらんか、堂々として談論風發の概があるは爭はれぬものである、今や君は横須賀商業銀行、日本殖民株式會社、石川島造船所等の重役を兼ね、財界一方の雄鎭である、特に今回の大戰に乘じての商略圖に當り、一擧巨萬の利は君のポケットを賑はしたのである、世間君を貶して偏狹の人と云ふが、横濱邊の輕浮なる商人氣質の眼に映ずる君は偏屈人とも見えやう!? 頑强の人とも視ら

田中茂君

れるであらう!?然し記者は却つて其處に君が人格の平凡ならざるサムシングを發見し得ると思ふ……修養があつて一見識を有する君が横濱の軟風と同化せんのは寧ろ當然であらねばならぬ、君が峻峭豪宕の氣性は其眉宇の間に現はれて居る、誰れかゞ田健其儘だと評したが當らずと雖も遠ふからずの様だ、君商海の荒浪に棹してより四十有餘年日常境町の本城に立籠り寸分油斷なき商略に耽けつて居るが、寸暇を偸んでは閑寂なる保土ヶ谷又は大磯の別墅に俗塵を避けて浩然の氣を養ふのである、『鐘盡東雲帶曉光。小園節後菊猶香。雅貧殘果穿林去。昨夜新寒微有霜。』の近什も此別墅生活襟懷の一發露である……茂君と擔石先生……別個の人物たる觀ある所に田中君の大價値がある!!!

(新、六、六、五、)

◉奥村三樹之助君

神奈川縣政友會支部幹事として現に横濱市に居住する奥村君は、這次の總選擧に鄕里愛知縣郡部より名乘り出で華々しき戰鬪振りを示し、遂に初陣ながら敵の老武者共を蹴落して首尾能く凱歌を奏した勇將の一人である、實は記者の寡聞がは知らんが君は實業界では兎に角政界に於ける君の名は初耳であつたのである、實際記者の寡聞のみでなく君は政治家たる素養こそあれ表面舞臺上の役者となつたのは這度が初てゞあつた、君を一見すると色白な目付の淸しい柔和な貴公子然たる一個の紳商であるが、一旦其緊き締りたる口を開くと雄辯滔々政治も論じ法律も議し財政でも經濟でも何んでも御座れと云ふ風に捲くしたてる、其れが決して駄辯でなく、陣笠論でないから豪い、…而も君は愛知縣人に似ず粘及々々齒切れの惡い臭味を脫し、江戶つ子風に潑起々々して居るのが嬉しい、聞く所に依れば君は愛知縣下の塞村荒子村の一水呑百姓の家に產れたが、嚴父は一風變つて鋤鍬採る餘暇に和漢の書を涉獵し淸貧に甘んじると云ふ風な奇人であつた、斯る嚴父であつたから君をして蛙の子を蛙にするやうな平凡な育て方をせずして、蚤くも附近の生布村と云ふ所の某禪寺に弟子入をさせ、行末は天晴善知識として衆生濟度の高僧たらしめんとした、然し君をして一生を抹香に燻ぶらし禪坊主に終らし

むるには俵廠にも其稜々たる氣骨と滿々たる覇氣には適合せぬ企圖であつた、果して君は十八歳の春一書を師の坊と嚴父に遺して飄然東京に出中央大學の學窓に法律を研鑽する身となつた、而も半錢の學資供給者のあるではなし三ケ年の苦學は勞雪錐股はものかは、車も輓たのであらう、新聞も賣つたのであらう!?廿一歳優等の成績を以て卒業の後も彼は活舞臺の試練を先づ警視廳巡査でやつたものだ、固より蛟龍の永く池中に潜むべきではない、現今實業界の怪傑淺野總一郎氏の烱眼は早くも此の青雲兒を槽瀝中より見出して、茨木炭礦の事務員より重役に拔擢し、後ち東京石炭株式會社の取締役に重用せらるゝに至つた、彼當時未だ三十歳に達せざる少壯者にして早く已に實業界一方の將たるの位置を占むに至つたに見るも其識才の凡ならざりしを知るべしである、彼が横濱燃料株式會社専務取締として辣腕を振ひ且つ横濱實業界の利者と稱せらるゝに至つたのは今より十一年前即ち彼が三十四歳の壯年時である現下引續き燃料の重鎭た

奥村三樹之助君

る外木綿染色株式會社長、名古屋コークス株式會社長、横濱晝夜銀行重役等重要なる事業に關係を有して居る……併し牙籌の間に沒頭し銖錙を爭ふのは彼が畢生の望でない、彼が廿有六年前青雲の志を抱いて郷關を出でて以來の修養も利財も後日天下國家の經綸に預るべき、資料の充實であつたのである、果然時機は到來した卅八議會解散後の總選擧は彼が勃々たる覇氣を載せて遠く愛知縣郡部の逐鹿場に送つたのである彼れ素より兵糧彈藥の準備充分にして軍用金にこと缺くやうなことはなかつたのであるが、彼は飽迄叩頭、買收等の卑劣戰を避け、堂々言論の理想戰を採り最も激戰の時は一日二十三回も演壇に現はれ其雄辯を皷したと云ふことである、玆に一場の美談がある、奇骨稜々たる君の嚴父も寄る年波に勝たれず現時眼力衰へ手足不自由なるに拘はらず、君が政見を督勵すべく人に扶けられ路の遠近を問はず君の現はるゝ會場に必ず臨席して靜聽し歸來是非を批判し次會の資に供したりとのことである、嗚呼此親にして此子ありと云ふべきであるではないか、記者は君が氣魄識見雄辯は、政界に其經綸を實現すべき將來ある好個の一人者として多大の望を囑するのである、自重せよ自愛せよ。（新、六、五、八）

◉木村庫之助君

負けず魂が心の眞底に潜んで居るが、其處が伶悧な腦味噌の重量で强と押へつけて容易に鋒芒を露はさず、世間の誰彼を啓はず、家族店員に至る迄萬遍なく其豊麗な姿體より愛嬌を振り蒔いて、夫れで態とらしき輕薄な世辭と見られぬ所に君の貫祿が充實して居る、君は知名の紳商木村寧靜翁とは伯父甥の間柄で幼少の時より翁に鞠育せられ明治廿五年には其養子として、木村家に入籍したのであつた、爾來家業の生絲貿易の驅引は勿論實業家として修養と天禀の才能を發揮して内外囑望の的となつた、本年一月の初旬であつた、記者は所用あつて寧靜翁を辨天通の本店奥まれる翁の部屋で交談して居ると四十五六歲と見ゆる容姿端麗なる一個の紳士が徐に扉を排いて入り來り翁の先師なりと云ふ飯山と落欵せる七絶を書したる尺八紙本の一枚の捲りを、某知人より贈與し越したりとて翁に手渡した、翁は之を披見するや先師を追慕するの情に堪へざるものゝ如く、熟讀諦視稍々久ふして、非常に滿足の表情を以て寄贈の厚意を感謝する旨を述べた、其瞬間君の『御滿足で結構でした』の一言は千萬無量の情味が溢れて、双者の心核に觸れたるインスピレーションの閃きは、記者の腑にも深き印象を刻ましめたのであつた、當時翁と紳士の應對動作に因つて、其紳士を君であると推知せしめたので、

記者より初對面の挨拶を述べ夫れより晝餐の饗を受け交讙したことがあつた、君は饒舌家ではないが的切潑起とした辯舌を持つて居る、イコノミー的知識は勿論お手のものであるが、我紙『サートエンバイバー』を解し居る所より推して文學的素養をも有して居ると思はせた、聞く所に依れば君は多くの紳士の夫れの如く折花攀柳の風流と低唱微吟の艶事を耳にせんが、書畵骨董に趣味を有し且つ其鑑識に一隻眼を有する、特に棋局烏鷺の技にも長じ岳父寧靜翁の二段に對し先番で打てる程の手腕があるとのことである、加之に君は漢詩も解すれば書も達者と云ふ風に多技多能だ、記者は君の如き有爲の士を政治舞臺に現はさゞるを惜むと述べたるに對し一言『又々私の樣なものが』と笑つて他を云ふ奥床しき謙遜もある、曾て記者の知人製鋼株式の專務石塚彥輔氏と談偶々橫濱市のフースヒーに及んだことがあつたが、氏は頻りに君の人格、識量を激賞し一流の人物と評定した、這は英雄を知る者は英雄と云ふ筆法かも知れん、君今や橫濱電氣工業會社、相模紡績會社、日清製粉會社、橫濱商業銀行、東洋護謨會社、橫濱製綱會社の重役として實業界重要の地歩を占め令聞嘖々たるものがある、未來ある斯の好紳士は寧靜翁の築き上げたる堅礎を彌が上にも堅固ならしめ、一朝風雲の乘ずべき期到來するも近き將來にあ

木村庫之助君

りて、其雄材偉策の社會國家の上に實現せらべきを期待する。

（新六、七、十、）

◉日本化學染料株式會社と丸山助二郎君

微々たる少資本に憑り、而も遠大なる企圖を持し、百折不撓十年殆ど一日の如く專心一意斯業の爲めに身心を委ねて他を顧ず、世間よりは山師と嘲けられ、親近者よりは變人と疎まれ、一時は非常なるヂレンマの境地に陷つたこともある、日本化學染料株式會社の創立者である社長丸山助二郎君は、眞に橫濱實業界の一奇傑であると同時に、當世立志傳中の一頁を飾るべき一人者である。……勿論君が宏遠なる意圖よりすれば、今日の成功？の如きは其の千里の道程に就くスタートに過ぎぬかも知れぬが然し僅か三年前に五萬圓の少資本を卸し貧弱なる工場に燻ぶつて居つたのが、資金が十倍以上にも運轉し、三ケ所なる大規模なる工塲には數百名のワークマンを使役して猶ほ足らずと云ふ盛況を見ては慥に少くもオブジエクチーブの成功と稱してよい、……世間の人は動もすれと成功の徑路に紆餘曲折の存するを閑却して、一概に其結果のみを見て幸運と速斷するやうだが、夫れは極く少數の例で、成功にはさう容易にハツピネスの伴ふものでないことを知らなくてはならぬ、丸山君の成功？には、忍堪、努力、克己、奮鬪、勇氣の下したる天の賚ものである、其進路には荆棘も橫はつた、峻坂も攀ぢた、千仭の溝壑にも臨んだ、猛獸毒蛇とも戰つて漸く頂巓に達することを得たのである、凡そ戰に

勝つは勝の時に非らずして勝の前にありとは、强ち文士の街ふ菅詞虚辭とのみ云はれない、丸山君には有らゆる前の道程を踏破して今日あるを得たのである、細かいことは此處には書くの遑はないが、君がサンエンス的に染料の研究に従事したのは、遠い〳〵十五年前に始まつたのである、君が鑛石を甜めたり、樹脂を嗅いだり、試驗管を睨んだりして、本業の材木商を妻君と番頭に任せて居た狀態は、他人より見ると殆ど氣でも狂ふて居るやうであつたのである、此處に至ると妻君も豪い、普通の婦女であつたなら、丸山君が家業を餘所にして目途も着かぬ研究三昧に耽けるのを見ては默まつて居る譯に行かぬのであるが、妻君の達見は良人の研究を助成すればとて決して、抗議を申し出たことなどは無かつた、故に君も後顧の憂無く自由に其鴻圖に向つて邁進することを得たのであつて、記者をして公評せしむると君の成功の一分は妻君にも頒つべきものとしたいのである、君の成功談の詳細は追々と紙上に紹介すべきも、記者の知る範圍にては左の數種の染料は立派なるルーデア的君の研究の產物である、……硫化染料一式、酸性染料三種、化學工業藥品三種、ア、、染料

丸山助二郎君

事業如何に將來に有望であらう、而も君がオリヂナリチーに依る製作品が未來に齎らす公私の貢献力の甚大なるを推し測つて、君及君の經營にプレッシングす。

因に云ふ、君の努力の給ものは事業發展たる自然の功果となり現はれ、關西事業界一方の覇たる岩井勝次郎君の顧問に因る、十萬圓株式會社と進み、重役には米田鶴吉、中村新吉、荒木芳三郎、安野讓、内山彌左衛門諸君の顔觸れにて、君が統卒の下に去る七月一日より變更せられたのである、丸山君は謙遜の態度の内にも得意滿面の有樣にて、斯ふ云た。

成功……とんでもないこと、成功所か素志の萬一にも達しません、最も成功と云ふ事には程度がありませんですからな、唯だ僕が密に幾分の滿足を矜るにはあらざるも、既に研究時代を去つて實用期に進みたるもの、數種を贏ち得たることゝ、岩井氏等の有力家に知己となり、事業進展上頗る便宜を得し一事です、是等を以て成功と認むるなら夫れ迄ですな……アハヽアと覇氣ある豪傑笑一番の後に、側にて頻りと事務に鞅掌せらるゝ岩井氏の股肱として新に取締役たる安野君を指し、君ネー斯う諸君が働いて呉れるので、僕は安心して研究やら經營やらに沒頭することが出來るのですよ、僕は一旦信を置きし人には徹頭徹尾打ち任すと云ふ方で、所謂專業的に各社員に分擔して貰ふ方針を採つて居るのです、……と

何處迄も丸山式の所面白し。　（新五、十、五、）

◉横濱生糸界二權威

△小野商店ご
△原合名會社▽

我國貿易輸出額の最高位を占め、而も生産力の豊富にして、國を富まし民を利することの至大なるものを擧ぐれば、先づ生絲に指を屈せざるを得ぬ、彼の米穀の如きは産出價格二億を上下するより見れば生産物としては、高位を占むるの觀あるも、這は內地に於て消費することと其十中八九にして、進んで貿易品として加工力をも有し將た利鞘其他の收益より打算すれば甚麽しても生糸が一番である、加之生糸の歲々生産力を加へ、且つ需要高の增加するは爭はれぬ正確の統計が吾人に明示して居るが、扨て生糸商の成功者は怎ふだと云ふと、寧ろ悲慘の末路を踏むものが比較的多いやうである、其原因は今玆に言明するの累を避け、我國貿易港の第一位で而も生糸に最も優勢なる地位にある横濱にて、其成功を矜るべき巨商、否な我大日本の富豪たる人を擧ぐれば、單獨經營者としては小野光景君の主宰せる、小野商店……原富太郎君の統卒する、原合名會社の二と云ふてよい、而も各其營業振りの溌溂として生氣橫溢せる內にも、同じ辨天通一丁目に其の營業所を置く小野商店は土藏附日本風の奧床しき一大構內に御自身始め四人の令息之を補佐し、店員には宮下久太郎氏を筆頭に數十名が牙籌を採りて大車輪の商戰振り、又其鼻の前なる三丁目に店舗を開く原合名會社は堂々と萬事會社風と云ふ行き方を採り、主腦の原君は時々チヨイ〳〵顏を出すのみにして主任三澤房夫氏等が陣頭に立つての奮鬪振りは、既に錦港の一大偉觀であると同事に好コントラースである、之を細に解剖して兩々對比して見ると、其陣形其ものが已に之を代表して居る如く見えるも面白いオブヂエクトである、……斯くて小野商店が家族的なるに對し原合名會社は社會的である、……前者が平等的であるに對し後者は階級的である、……一方が健實であれば一方は華美である、……善謀善戰と、機略從橫、……健鬪奮擊と、危計百出……機山と不識庵……ロスチヤイルとクルツプと云ふ風に孰方も各々特色と長所を有して居る、更に之を主腦の人物に比して見ると一層の興味がある、小野君は福德圓滿なる長者の風あるに對して原君は機才百出する才子肌の人である、小野君が武士の家庭に人となりたるに對して原君の前身は敎育家である、小野君が謠曲園藝の趣味を有するに對し、原君は書畫骨董を翫賞する、小野君が、多少禪的傾向あるに對し　原君は日蓮崇拜の氣味を有する、小野君の大谷戶別邸がローマンス的に一種のサブライムを感せしむるに、原君の三の谷別墅がモダーニズムで輕快を與へると云ふやうに、其性格修養趣味迄截然異なつた行き方をして居る、兩店が隆々對峙し並行して繁榮の域に進みつゝあるは寿出度し。　(新五、十一、五、)

◉石塚彦輔君

前に横濱鐵道株式會社の支配人として、能く不振の社業を整理し明治四十三年政府に借上げらるゝに至つて、其折衝の妙腕を遺憾なく發揮して、令問嘖々たりし君は、新潟縣の人慶應三年生れと云ふから五十歳の分別盛り性沈毅果斷能く辯じ能く斷し、實業家たるの素質を具備する典型的人物である、現時横濱製網株式會社の支配人として、依然たる快手腕を振ひ社運隆盛昨年後半期の利益配當は實に二割五分と云ふ盛況に至らしめたるは、一に君の神謀鬼策の妙腕が與つて然らしめたのである、嗚呼『事業は人に依る』本社の主張は君に由つて證左とせられたる觀ありてある、君は小粒ながらピリツとした山椒風の人で、底光りのせる眼球に明敏なる頭腦の所有者たるを表象して居る、其揭悠迫らざる態度と明快なる辯舌は、對客をしてチームせしむる一種の魔力であるかの樣に感ぜしむる、君は決して輕快浮泛なる幇間的の人で無く、寧ろ沈痛壯重なるべき紳士である、が彼の妄に遺幅を飾り自ら威容を衒ふやうな當世僞紳士氣質を微塵も有せぬ所に君の貫錄が重いのである、記者は一日君の二ツ谷の邸を訪問し、和洋折衷の灑洒たる應接間にてコーヒー啜つて交歡の內に、君の時局觀やら經濟談を聽かされたことがある――當時寺內々閣が所謂秉公持平主義を標榜して新に成立し世論囂々の際で

あつた、君は之に對し斯麼意義の批評を試みた＝超默內閣と云ふ意味は、政黨內閣無用論と云ふことになるとすれば、些と變に聞えますね、正乎寺內伯とも云ふ可き人物が立憲政の下に政黨を無用視する程固陋ではあるまいと思はれますな、私は素より政黨には何等の關係を有しませんが、憲政治下の內閣が政黨を離れて政治を行ふと云ふ理論を發見するに苦みますな、思ふに超然內閣の榜榜即ち秉公持平或は善政主義なるものは、旣政々黨の何れにも倚據せず純寺內黨を以て內閣を組織し、各政黨に對する態度は一視同仁にして、政治は自己の視て善なりとする所を遂行する意義に外ならぬことゝ推測します、果して私の推測する如ぐんば一部政容の非難する如く、寺內々閣の超然主義とは政黨無視に非らずして旣成政黨の何れにも偏せず、自己即ち寺內黨の主義政策を遂行せんとする趣旨であると解釋すれば、別に立憲の大義にも反せぬ樣考へますが何んなものでしやうな＝私の理想的政府の樹立は固より政黨內閣論ではありますが、是も時と場合に依ることで强ち一概に理想通りに行くものでありません、殊に私の最も遺憾とするのは地方自治の上に政黨の關係を結び着ける現時の狀態にあります、貴紙で拜見する後藤男の自治團組織の深旨も此處に存するやう思はれますが、追が先憂の士たる御企圖であると敬服して居りました＝我横濱市なども大處に着眼して蝸牛角上の爭を止めて貰ふには尙且政黨關係より離脫する自覺の期が來で、眞に愛市の念に富む有力家が自ら進んで其局に當るやうにはならねば駄目です＝左樣、マー木村庫之助君あたりの人が出て吳れる樣に、ならんければいけません

な……ナゼ君等が出て刷新の急先鋒となり、改革の曉鐘となりませんかと逆襲を試むると……隙さず何うして私共一個のビヂネスマンが斯る大役に方ることが出來るものですか!?然し時機は近き將來に來るでしやう……と謙遜の内にも深き期待の閃きが側の見えるのであつた＝サー戰後の財界豫測!!如何にも困難な問題ですな?戰爭の終了、戰局の如何さへ豫測出來ぬ今日ですからな、勿論戰爭當込の企業勃發雨後の筍の如しで、中には怪しき所謂夢幻的企業もありましやうが、大體に於て日清日露戰役の苦き經驗を履んで來たせいもありましやうし、夫れに這回の事變は實際彼の時と大に趣を異にする點もありますから、大した恐慌などは來ませんやうに考へて居ります、或る觀察者が論ずる樣に戰後各交戰國が經財挽回策に畢生の努力を傾注するより、自然生産力增加を來すべきを以て我勃興せし企業界は其生産過剩を招くべしとの杞憂を抱くのは同感ですが、而し警戒と云ふ調和劑を脫して掛ると左程憂患とする程の問題ではなく、且つ交戰國が戰時の大創痍を回復するに汲々として、他を壓倒する迄生産力增加の餘力あるべきや甚だ疑はしく、尙は事業に依りては需要が增加すればとて俄に減退するやうのことはなかるべしと信ずるものありて、戰後の財界を私は左迄悲觀せんのです、現に私の從事して居る製網會社の事業は主として船舶を目的とし、戰爭に依つて需要の劇增せるは事實なるも、戰後と雖も船舶は益々增加すればとて減少する筈なきを以て我社の生産物に大なる影響を受くべしとも思はれんのです＝と紛叫せる戰後財界の謎に一道の光明ある解說を試みた。

（新五、十、五、）

◉渡邊造船所と渡邊忠右衛門君

矗々天を摩する大烟突、吐き出す不斷の黑烟の下!!勇しき鐵槌の響き!!!宏壯なる幾棟かの工場と一個の大船渠には、數百のワークマンが希望と歡喜に滿ち〳〵ての其の働き振りは他より見ても羨ましいやう……何の此處に限り、不平?不滿?其の不の字すら見られるものか!!!現今歐米各國の經世家、學者、論客等が腦味噌を腐らしての研究對議も、餘り馨しき名案も出ずして苦しんで居る內、早くも我國にまで、飛火してヤレ治安警察法だ、ヤレ工場法だと騷ぎ出しても、猛火の煽りは昨日三井炭抗騷擾……今日は橫濱船渠の同盟罷工と、絕間なき物騷談を耳にせざるはなきに、左りとは此處吹く風と春色の雍容が漲つて居るは不思議!?……が能く調査して見ると不思議でも何んでも無い、寧ろ當然の事由を見出すのであつた、幵は當工塲主たる渡邊君の統御と使役とが尋常一樣のやり方とは見られぬ手腕、否な德分を含んで居るからである。

翩而瘠軀ビヂネス服に身を固め、簡素なる所長室にて無雜作に傳票にスタンプを押して居るかと見る間に、輕快なる體軀はいつしか工塲にと運ばれて居る、蓋し其の運ばれたる體軀は、嚴重なる、惡態なる監視の風なく、寧ろエンジエルが福音を傳へに來し如く、嫣爾たる其口元より御苦勞……御苦勞

……と同情の羈絆を放つて立ち去るのである、亦仕事の忙しき時などは規定の賃金割増は無論として、無言で渡邊君の衣嚢から攫み出された銀貨の一片は、職工の衣嚢に移し入れらるゝことがある十數年來同工場に働いて居る一老職工長は記者に斯く語つた……眞に渡

渡邊造船所及所主渡邊忠右衛門君

邊所長の、御苦勞々々ほど私共に對し嬉しく聞える言葉はありません、實によく出來た方です……彼の方なら献身的に生死を共にしても働く氣にならずには居られませんな……とは僞はらざる代表的告白である、サー這處の一呼吸だて……凡暗の會社重役等が眞似の出來ぬ所は!!!

全體渡邊君とは甚麼な經歴を有する人だろう？……米利堅の黒船が來た浦賀灣に姿を見せぬ前から、早くも海運の前途を観破して、事業は造船也と決意し、千葉縣君津郡戸田村を飛出して江戸石川島造船所の一職工と爲りしは、未だ十四歳の青年であつたのである、固より大志を抱く君は尋常普通の職工の比ではない、其奮勵と努力の賜ものは忽ち儕輩を扳くの技能を現すに至り、慶應二年六月には拔擢されて横須賀海軍造船所に派遣せられた、此處には御雇佛國人バスチアン氏の在るありて、君が技を磨くには大に便宜を得た、技愈々進むに隨ひ重く用ゐられしも、小成に安んせざる君は更に明治三年には横濱居留地六十六番英國人ウエドブール鐵工場に入り、進んで東京築地海軍兵營寮に轉じ御雇教師英人サツト氏に親炙して研究する所があつた……君が非凡の技は世に知られ、三菱やら、横濱製鐵所、郵船會社、横濱鐵工所より引つ張り凧となつて互に厚遇の條件にて招聘せられたものだ、君が鴻圖と大望は幾ら優遇を受くればとて、一技師を以て甘んずるを容さぬ、明治卅一年一月を以て横濱高島町に造船及諸汽機鑄造並に船舶修繕業の獨立旗幟を樹つるに至つた……百錬の技術と千磨の經營倏ち名聲内外に響き渡つた、早くも明治四十年には舊神奈川臺場の北方海面三萬坪埋立の許可を得て、渡邊町と命名して同所にコレック式三層樓の住宅を中心とする數棟の工場、三千坪の大船渠は築造せられたのである。

君が斯くして素志を達せられた成功は忍耐、克己、努力、奮勉等諸德の結晶で、其結果は當然に來つたもので怪むには足らぬが、僕が驚嘆に堪へぬ一事は其の精力の絶綸を生み出せる健康其のもので

ある、見渡す所の體軀は特別に立派では無い、寧ろ矮小で而も痩せぎすの方だ、左ればと云ふて平素の養生法の如きも常人と異なる點が無い、酒も飲めば煙草も吸ふ……然し其處にトランセント的因が無くては叶はぬ、大にあり!!大にあり!!!曰くダイナミックウイル……不斷のアクチブガ、凡ての惡魔をして侵入するの隙なからしむるのである。君は嘉永元年生であるから、最早古稀の齢を超へて居り、後嗣には敬太郎氏が横商出の俊才にて箕裘を襲ふに足るにも拘はらず、猶は矍鑠として事業に鞅掌して倦む所がない、君常に人に語つて曰く『私は死迄活動するよ』斃而後已むのさ』と是れなんめり、君の成功と健康とは。

（新五、十、五）

◉野崎貞利君

野崎貞利君

相生町二丁目に、野崎商店と和洋兩樣に黑塗金文字に現はす鮮かな看板に僞りなき堅實なる取引振りを見る人は、之を統宰せる奥床しき主人公が如何なる人物であるかを知らんと欲するであらう、野崎君は舊幕臣で萬延元年玉川上水に產湯を遣かつた生粋の江戸兒である、少壯大藏省に五斗米の爲めに屈膝したことがあつたが、敏慧なる君は早くも時勢を達觀して其眼底には商業なる二字が映寫したのである、明治廿年官途を去り我國貿易の中心地たる横濱を選み彼が發祥の地とトしたる着眼點も凡でなかつた、君が鵬翼を收め暫く大平商店の一店員に安んじたるは尺蠖の伸びる前の寸屈であつた、廿六年日清の風雲急を告ぐるや烱眼隼の如く銳雋なる君は機逸すべからずと蹶起し吉田町に特立店舗を開始し一擧に巨萬の利を攫取した、而も彼は決して斯ばかりの小成に安んずるものでなかつた、廿九年中故辻孝平及河合、小西の三氏と資を合して『日本貿易商會』なるものを住吉町一丁目に起したが、戰後の反動的經濟界恐慌の影響を受けしが一因でもあつたらうが、寄

り合身代は兎角意見の支吾を招き取引の敏活を缺き商機を逸するの弊ありて思はしからざるより、期年ならずして合資組織を解體して更に獨立獨歩の自由財界に乘り出したのである、隱忍十年大に英氣を養ふ所あり機運の到來を待て居ると卅七八年日露の戰役と爲つた、彼が縱横の機畧は殆ど神謀鬼策の形容語其儘に振はれた、神戸、桑港、上海等に支店を設けたのも此時であつた、其堅礎は既に此際に築き上げられたのである、歐洲大戰!!皮革業の權威者たる君が巨を得ざる筈なく、膨脹せる彼が事業は皮革はは勿論天產物、雜貨と共に露、支、南洋方面にも擴大して居る、斯く記して見ると君は只だ營利一方に銳き平專的の人物のやうであるが親しく君に接する者は其溫情に富む好紳士たるを意外とするだらう……君は友愛の情深く新戚故舊等の落魄するものであると自ら進んで救援するが、彼の恩を售り名を衒ふ樣な僞善家とは違ふ、近頃根岸別莊地の小學校改築費數千圓全部を單獨にて出捐して毫も矜る色なく當然の義務を盡したのですと謙抑する擴梅は、到底當世成金輩の眞似の出來ぬことに屬する、能く利し能く散すとは君の如きを指稱すべきである、滔々として我利、僞善虛術の行は當世實業界中此の眞紳士を得しは頗る人意を强ふするに足るのである、特に當港に於て然りとする。

（新六、八、四、）

◉菅　川　清　君

△橫濱紳商の　典型的人物を物色したる內に、老人、中老、壯者の三階級を通じて二十人を得た、菅川君は其一人者である、記者の定めた紳商標準は至極簡明で、而も平凡で何人も異議なしと獨り極めした左の四ケ條である。

（一）品性の高潔
（二）學殖の富贍
（三）識見の卓拔
（四）相當の富力

が夫れである、蓋し（四）相當の富力に但金離れの綺麗なることゝ附加してあることも承知してもらいたい、君は

△文久三年生れ　と云ふから既に五十の坂を一寸越えた中老組に編成すべきで、紳商階級中では一番名實を具備するクラスに屬する一人である、記者は每號人をフースヒーする嫌な役目に就て居る、昔し陽明と云ふ學者は人を月旦する資格を論じ、且つ月旦すべき標準を議して、此資格なく尙ほ標準を

逸する時は忽ち災禍其身に迫り、其の終りを完ふすることが出來ぬと戒めだが、記者は勿論陽明の定めし資格も無く、且つ標準の埒を破ることもあるから、何時災禍が來るも圖り難く實は之を思ふと空ら恐しくてならぬが、役目の手前致し方なく嫌や〳〵ながら筆を採つて居るのである、唯た記者が自ら慰むるに足ると思ふのは、虚心坦懐秋毫も此間に私情を挾まぬと云ふことゝ其人の閲歴を精査して主として大綱を摘み、日夕の小動作小消息の如きは參考の一資料とし、勉めて大善を擧げ小惡を捨つべしとの陽明戒告の一部を實行することである、菅川君にも此筆憲に則り先づ其の

菅川清君

△閲歴を語る　を順序とする、君は若い時代に平田篤胤や中村敬宇の兩先生に随て和漢洋の學文を修めて、後ち今の高商の前身たる一橋商業學校に入つて學んだのである、當時既に君の機鋒は時々現はれて儕輩に重きを置かれたものである、特に今より考ても頗る卓見であつたと思ふのは、時勢の趨向を察し商業大學設立の必要を唱道し同志を糾合して、縷々數千言の大文字を聯ねたる建白書を當局に提出した一事である、是を見ても君が一流の凡暗書生でなかつたことが分る。

△高商卒業後　外務省の御用掛と爲つて海外視察にも出掛けた、馬關、名古屋、神戸の商業學校長も

勤めた、市俄古萬國博覽會の事務官と爲つて米國に渡航し、其儘有名なる紐育メーソン商會に入つて忽ち其手腕を認められ横濱支店長に推され大に好成績を擧げた、明治卅三年には

△獨立して　海岸通り四丁目に菅川商會を開き、絹織物、刺繡、レース、花莚、段通等の直輸出を營むに至つた、勿論君が蘊蓄せる該博なる商業高等知識を以てして成果を見ざる筈はない、倏ち當港輸出商界の重鎭となるに至つた、君は商業の秘訣は商機を捉ふるの遲速にあり、商機を捉ふるには世界の大勢を知らざる可らずとの信條に根據し、他の紳商等が新聞や通信やに因つて運策し、而も其多くは番頭や雇人やの手に一任するに反して君は自ら親しく數々海外に航して其實況を視察して、時に處し機に應じ所謂神謀鬼策を恣にするから。

△萬に一失　が無いのである、去る卅七年聖路博覽會には日本出品協會の理事として渡航し偉績を擧げ同總裁より優渥なる感狀を受けたを始めとし、公私の爲め歐米南洋等に視察調査の爲め渡航せしこと前後幾十回に及び、常に席の煖まる暇がないと云ふ、絶倫なる精力を斯業に傾盡して居る、世の懐手をして好運の到來を空待みする惰弱なる東洋流の實業家に少しく君が爪の垢でも煎じて飲ませてやりたい程である、君常に座右の銘として自他を戒省する語に曰く『機運は進んで求むる者に招徠せられ、幸福は活動家と握手し、福音は職分に忠なる反響也』と以て如何に君が進取の人、活動の人、忠職の人であるかの一班を窺ひ知るに足らう、今や山下町の最中に宏壯なる營業所を建設して之を根據

とし、紐育、龍動、濠洲加奈陀、南米等の海外要地其他內地殖民地にも十數ヶ所に支店及び代理店を設け數十名の店員を驅使して其聲譽隆々として內外に響き渡りつゝある盛況を呈して居る、而も君は我利一方の當世商人氣質とは大に其選を異にする點がある、公私の分も明瞭に解し、義理も人情も知了する好紳士の典型的人物の選に入る程の價値ある人であるのである。

△能く集め能く散ずることは君にして始めて當るべき讃語であらう、君は是迄直接又間接に公私の爲めに出捐醵出したる金額も尠少ではない、而も其出し方が如何にも綺麗だ、時折り交際等にて茶屋遊にもゆくが、其の遊び振りも澹泊にして金離れも頗る良く、爲に大持てに持てると云ふことだ、斯る遊振りと持てる所から、岡燒連から睨められ飛んだ艶聞を流布さるゝことがあるが、這んな瑣事で君の人格は斷じて缺損せぬ、切に好漢の自愛を祈る。

（新、六、八、九）

●高島嘉兵衛君

△土木請負の巨頭▽

豪懷巨膽横濱港稀觀の快男子嘉右衛門君高島の嗣繼者に選ばれたる丈けありて、嘉兵衛君も尋常凡骨の亞流ではない、君は或る點に於ては養父嘉右衛門君以上の識才を有することがある、君は豪懷の內に細心あり、急調の間に緩音ありと云ふ呼吸は慥かに養父君以上の長所である、君は養父君の衣鉢を受け土木建築請負を本業として居るが、彼の土工上りの請負師とは大に毛色を異にし、常に公共的利害如何を勘查し後ち始めて引受くべきや否を前提として自己の利害を圖り、唯だ何んでもやみくも儲りさいすれば宜いの主義を採らない所に君の豪い人格が現はれるのである、君の偉績の大なる一二を擧ぐると、彼の有名なる高島町埋立工事の完成、京濱運河の主唱等は眞に百世の後迄消えざる偉勳であらねばならぬ。

君は公職としては横濱市參事會員、瓦斯局長、商業會議所議員、港灣調查委員として貢獻する所あり決して陣笠又は伴食の匹儔でない、又營利方面にては愛知セメント株式會社長、横濱電氣株式會社取締役、横濱電線造製株式會社監查役等の要職にある、特に嘆賞に値ひすべきことは、前年市場取締

規則の改正せられて、市内に一ヶ所以外の市場設置を許さゞりし制限を徹廢したるに乘じ、開港以來の古き歴史の上に築きたる港町市場に對抗すべく、彼の拜金宗の頭目として我利是れ事とする外眼中何物も有せざりし平沼專藏は得たりや賢しとばかりにて、遂い目の先の扇町河岸に新市場を設けたのであつた、君は此の横暴の處爲に憤慨して巨額の私財を投じて港町市場の設備萬端に資し、飽迄之に抗爭し猶は經營者を諭して株式組織として其基礎を堅固ならしむる等極力援助の功を奏し、益々同市場の聲價を昂めしめ今日の隆昌を招徠せしめたのである、這は一片君が義俠的公共心の迸りにして市民の永く其德に服して忘れざる美擧の一として數へらるゝも由はれなしとせざるべしではないか、記者は名門高島家の後が君に依つて益々光輝を加ふるを喜んで已まぬのである。

◉太田與市君

△越前屋呉服店經營者▽

由來横濱と云ふ所は見え坊の地で、九尺二間の裏店生活を營む熊公の嬶も外出の時は銘仙位の時服を纒ふと云ふ風で、中流以上の生活費の大半は衣服調度に消え失せて仕舞ふのである、されば呉服店の如きは此の狹い土地に比し數の多いこと、驚くばかりにして、就中越前屋は鶴屋、野澤屋、相模屋と並稱せらるゝ大店株である、そも越前屋の前身はと尋ねると、現主與市君の父君が、越前勝山町より來て吉田町に貧弱なる店舖を開きしは去る十六年頃であつた、其堅實なる營業振りは漸く世人の信用を博するに至ると共に、機を見るの敏なる將來伊勢木町が市の中心點たるべきを看破したる彼は現在店舖の地を相して移轉を決行したのであつた、數々火災の厄に逢つたが彼の精力と忍耐は倏ち快復したばかりで無く、益々燒太り的に膨脹したのである、卅年現主か箕裘を襲ふや、新鋭の氣に滿々たる彼は時運に伴ふ各種の經營振りを發揮して滿都の繁昌をして同店に

越前屋呉服店

集注せしかの觀を爲さしめた、四十一年には工學士遠藤於菟氏の設計にて、最新式の鐵骨白煉瓦三層の陳列場建築に着手し、十五ヶ月にして竣工した跡を見るに、其結構の雄大設備の完美なる、殆ど間然する所なく、デパートメントストアー式を横濱に創立したのも此店であつた、同店は獨り呉服に於て名物たるのみならず、化粧品、西洋小間物、雜貨類に至る迄精良の品質を選んで適當に排列し顧客の便を圖りて快く巡覽し、自由に其の選擇に一任せしめ、無暗に惡る奬めをして嫌惡の念を起さしむやうの事をせぬ所に此店の特色と長所を認むる、先づ此店と比肩すべき他の三大店の短所を見るに、何れも日蔭町風に惡る奬めでもせられはせぬかとの懸念が起り居心が善くない、此店が早くも斯の弊を除去して顧客を引き着けるに至つたのは豪いと云はざるを得ぬ、太田君は春秋尙は壯で更に於以上の奮發と計畫があるやうだが、調子に乘つて血氣にはやるのは大に戒めなくてはならぬ、殷鑑遠きに非らず、德島屋の末路に看よである、終に臨み君の前途を祝福すべき一事は、君が人を見るの明ある結果として店員の孰れもが、理想的に所謂適才が適所に於て活躍して居ることである。

（新、六、七、五、）

◉神奈川縣郡部選出代議士の惣評

戸井、赤尾、小泉、松元、小塙、中川、の六氏を選出せし神奈川縣今春の郡部に於ける逐鹿戰は華々しくも亦頗る激烈を極めたものであつた、當時の戰況及刻々に起りし關係の事件等は得るに隨つて我紙上で讀者に報道を怠たらなかつたのみでなく、其結果に就ても逸早く特に社說欄にて惣評を加へ置きたれば、今玆には其善謀健鬪の殊勳者として得た名譽の月桂冠を其頭上に翳して揚々議政壇塲の人となりたる六氏の個々に向つて聊か短評を試みて見やうと思ふ。

憲政界の戸井、小泉兩氏は何れも永らく政治舞臺に登つて其腕を磨き上げた老功の强者で、其戰塲に於ける駈引進退の巧妙なるは云ふ迄も無いが、共に舌鋒の鋭利なる點に於ても確に一方の雄將である、小泉君は早く既に日比谷の檜舞臺の役者となり、數々得意の寸鐵的警句や砭骨的奇語を使つて大見得を張り大向を唸らせ、院內幹事と云ふ大役を落ち無く勤め、最早斯界に於ける陣笠圈を脫せんとする階級迄進んで居る、戸井君は檜舞臺にこそ這回が始めての登塲ではあるが、田舍舞臺では百錬千磨の大立物で、其洗練せる辯舌を日比谷舞臺に振ふに至つては、決して小泉君に勝るとも劣るべきでない。赤尾君は縣下政友會唯一の闘將で、一度武裝して戰線に立つての武者振りは、恰も虎髯を逆立

て青龍刀を提げて長板橋上に魏奴目に物見せて與れんずと曹操十萬の軍を睨み返したる燕人張飛の勇姿を偲ばせる、記者は屢々横濱市會や裁判の法廷にて君の獅子吼の狀を實見したが、其態度の獰猛なる口邊より吐き出す辯舌は火焔となりて敵手を焚殺すかと思はるゝ程猛烈を極むる、市會で戸井君を向ふに廻はしての舌戰は好對照で傍聽人を歡ばせたものだ。代議士鈴木錠藏君から或る時議場心理と云ふことを講釋して聽かされたが『議員が議場に於ける最大苦痛は鹿爪らしき態度で眞面目腐つた演舌をダラ〳〵行られるのを謹聽することで、其瞬間に赤尾君の如き猛烈なる野次が起り、反駁演説でも始まると、ホッと息がつかれ蘇生の思をするのである、實

戸井嘉作君

赤尾彥作君

小塩八郎右衛門君

小泉又次郎君

松元剛吉君

中川隣之助君

に議會には君の如き人は無くて叶はぬ要素の一である、と又以て君が議場に於ける活動の一班を窺ひ知らるゝであらう、實際君は鈴木君の評する如く、現下沈滯し銷沈せる我議政壇裡に無くて叶はぬ一要素たる人物と記者も裏書して置く、松元君は神奈川縣官僚系に屬する唯一の代議士である、山菽的小粒でピリッと辛い方で、田遞相が本縣に警察部長たりし當時に高等主任の警部を務め、田氏の眷寵一方ならず、田氏の影には松元君の離れし事なく、現に遞相の秘書官として其辣腕を振つて居る、君が腕の冴の非凡なる事は是迄官邊に游泳する傍ら、愛知、茨城、神奈川縣等より選出せられ議會の一椅子を占め居るに見ても分る、君は戸井、小泉、赤尾三君の如く、戰線に立つ闘士ではなく、所謂帷幄の謀士であるので、餘り表面華々しき活動はせぬが、其裏面に於て籌畧書策の躍動は寧ろ闘士以上の働きであらねばならぬ、今回新政會組織の隱れたる殊勳者の一人であることは記者が椀大のスタンプを捺して保證する所で、小塩、中川兩君と共に卒先して同會に參加し、一擧本縣に三名の代議士を羅致し得たる手際は驚嘆に値ひするだらう。小塩君は喚發せる才氣に加ふるに豊饒なる資力を兼有する鬼に金棒的の人である、別に今日迄政界に名を爲して居らぬと同時に、何等政治的地盤をも有して居らぬに拘はらず、卒然起つて逐鹿場に出陣したのであつたが、山宮、川井の兩勁敵を對手として綽々として餘裕あり、政友中川氏の援助やら、松元君に聲援やらをやりやがら、二勁敵を蹶落し二戰友と大勝を得て悠々凱歌を奏するに至つた偉大なる勢力には今更ながら驚嘆に堪へぬ、將來本縣に於け

る三派鼎立の曉憲政、政友の畏怖すべき剛敵は此人であらねばならぬと思はる。中川君は町長、縣會議長などを永く務めた經歷を有する、極めて地味で着實な方の人で松元、小塩兩君の女房役として新政會扶殖の功果を收むるに頗る有要の一人者である。

（新、六、十二、五）

◉臺灣銀行

△特種業務も取扱ふ▽

資本金貳千萬圓積立金五百八拾萬圓と云ふ素敵な大銀行の出張所が此春突如として我錦港の一角山下町百八十一番地に顯出した、而も此銀行は預金貸付、割引等の普通行務を採る外に、外國爲替、信託預金と云ふ特種の業務をも開始した、外國爲替は從來正金獨占の業務であつたが、今日財界の狀勢特に外國貿易の勃興に伴ふ爲替取扱の增劇と利益は正金の獨占を容さぬ、住友、興銀、本行と云ふ大銀行は續々特許を得て此行務を執ることゝなつたは左もあるべき時勢の產物である、然らば其の信託預金とは如何なるものであらう。

△特質……預金を臺灣、支那、南洋等に於て確實有利なる方法に依り適宜運用し、其利益中より所定の信託料を差引たる利益全部を預金者に配當する方法である、△金額期限……一口五千圓以上期限二ヶ年以上、△運用配當保證……本預金を運用する一切の責任を負擔し、且つ預金者の純所得に對しては、三ヶ年未滿の預金は年五分五厘、三ヶ年以上の預金には年六分を配當し、而も運用利益は如何なる場合に於ても各割合より低下することなく、と云ふのが本預金取扱の梗綱であつて其特質中の特質

は相當利子の外利益配當を受くる點にある、今や支那南洋方面に資金供給に伴ふ事業勃興の有望にして喫緊事なるに方り此種の計畫は頗る機宜を得たのみでなく、預金者を利するの良法であると云はねばならぬ、臺銀が蚤くも之に着眼して他行に先鞭を着けしは慥に財界新歩の機運を促進したる先覺者として推賞に値する、同行は基隆に本店を置き、東京、大阪、神戸、横濱、倫敦、紐育、孟買、カルカッタ、新嘉坡、スラバヤ、サマラン、香港、廣東、油頭、厦門、福州、上海、漢口等の世界の至る所各要所々々に支店出張所代理店を配布し、其豐富なる資金を巧に運用して殆ど世界的銀行の信用を發揮して居る、當港は當然其選定の資格を有する一として今年春出張所を設けたのであるが、さて其成績は何んなものであらうか、之を吟味するに最も捷徑なるは其主腦者の識量を計算して能率を測定するのに限るのである横濱出張所支配人は法學士荒木正次郎君で、同君は働き盛りの四十男人品も宜し才能も充分であるやうだ、曾て本店詰にて創業の際に其手腕を認められ、神戸支店創設と同時に支配人に拔用せられ益々其敏腕に裏書せらるゝに至つた、本年四月横濱に出張所設置せると同時に更に簡拔せられ其支配人に据はつたのであるに見ても君が凡庸の人でないことが知らるゝではないか、一體事業と云ふものは凡て創始が最も大切なるもので且つ之が策畫經營の任務も困難で重大で面倒であらねばならぬのに、君は同行の爲に終始創業的事務に當て而も良績を擧げつゝあつたのである、思ふに歷史は繰り返すものであるとすれば、此主腦者を有する當出張所が好成績を收むるは當然の歸結とせねばならぬ、記者は同行を推賞する意味に於て以上の如き抽象的文字を臚列したが、若し或る商賈敵の中傷觀を拔きとして、更に具體的に其成績を數字の上に現はさむと望む人でもあるならば無論雜作なき仕事であるから其要求に應ずることを否むではないが、夫んな月並的記事が若干同行の信否に拘はるべしと推認することが出來ぬから、先以て貴重の紙面を惜むの意義にて玆には掲記せぬことゝしたが、唯だ一事記者が直覺的に同出張所が他行に比し、其營業振りに快感を與へられたる事實を記して見たいのである、記者は近來銀行でも會社でも自己の立場を忘れ客人に對し甚だ不親切を極むるの弊が加はるやうに見受る、特に大銀行大會社に成れば成るほど其弊も又大となるやうである、甚しくなると不親切を通り越して傲慢不遜の態度で婦女や勞働者などに接するものすらある、彼の御役所然たる構内に勤務して、日常巨萬の金を手掛る所より自然心傲るに至るものと見え、身窶らき扮裝でもして少額の金錢でも出入せんとするものには、アー面倒だと云ふ風をしてイヤ印形の押し樣が何うの、イヤ受取の書き樣が斯うのと、七面倒臭き誤託を陳べて突き返すはまだしも、内には其押し方書き樣等を聞くと、ぷか〳〵煙草を燻らす閑隙のあるに拘らず、忙くて其んなことに構つて居る隙がないと突慳貪に規則書を見よとツンと後向になるのである、勿論這んな奴は受付書記の末輩に過ぎんが畢竟主腦者重役等が監督不行屆の罪があるのみでない、主腦者重役等が業に己に曩見違を爲し自身に於て何銀行何會社の權威で技倆人で、最高知能であるかの樣に自惚れ日常動作の内に株主でも御客で

も眼中にないかの樣な傲慢をなすから、自然末輩共迄是に見慣ふのである、特に此風の劇しきは本縣にては某銀行某會社を最とするか、暫く其覺醒に期し今回は筆誅を容るし遣はすことにした、……此點に於ける臺灣銀行出張所は流石荒木支配人の下に立動く行員丈けあつて、凡て開放的で、平民的で、簡捷で、輕快で、其上親切で、出入の人に快感を與ふる呼吸は商買上手なものであると敬服させる、出張所が僅々半年足らざるに嶄然儕輩を拔き名聲隆々たるに至りたるも宜べなる哉と思はれた、洋々前途多望なる同行の爲に祝福の辭を吝ない。

（新、六、八、八、）

◉依田彌助君

快潤不羈、豪宕磊落、任俠敢爲等の快文字を冠すべき實業家を横濱に覔むれば、先づ元山下町甲九十番の洋織物引取商たる君を僂指する、君は關八州の精を萃めたりとも云ふべき、精悍蕩逸の中心たる上毛藤岡の出と聞ゑては成る程と合點せるゝであらう、當港輸入商青年會々長としての活動は、遺憾なく日清、日露兩役の際の志氣皷舞事業に就て發揮せられたのである、讀者は記憶するであらう、君が幾千の壯年者を引卒して、馬

依田彌助君

上寛に指揮旗を振つての提燈行列大將振りの勇壯にも華々しかりしことを、君は常に青年や壯年者の懦弱心を矯正するの範を身を以て示す、是が爲には卒先して短褐輕裝徵塵の靈飾を加はへず、豪壯なる運動會の先陣に立つて三陣を叱咤することもある、若し會員中不心得の徒があつて、苟も怯儒柔弱の行爲でもあらうものなら、熱涙潜々訓戒至らざるはなく、尚は侮悛せざるが如きことあらんか、螺蠑の如き鐵拳は彼が頭上に下るのである、君在つてより當港青年の氣風靡然として改まる所があつたのも當然である、君は此外種

々の公共的事業に繋つて居るが、南睦會、上州會の牛耳を採つては、上州男子の眞骨頭を現はし他の團體に對し一異彩を放つて居る、現今橫濱の花形役者、未來の大立者として囑望せらるゝ一人者である、好漢旃を勉めよや。

（新六、一、九、）

◉熊澤甚太郎君

熊澤甚太郎君

神戸、長崎、浦塩斯德、ブラコウエチエンスク、齊々哈爾、哈爾賓、滿韓等に支店を出し、美術、雜貨、絹綿織物、絹織物、絹布加工品の輸出を營業とする、立志傳中の一人者である君は、尾張國の一農家に生れたるも、苟くも身を立て國を益するは商業にありと覺り、弱冠にして鄕里を辭し橫濱某商店の丁稚に住み込み身を粉にしての働き振りは主家の認むる所となりて儕輩を拔いて重く用ゐられ、數年の後ちは獨立して一廉の貿易商として立つに至つたのである、財界の常として時に逆風襲來、店內に吹き荒むこと數々あつたが、堅忍奮躍一難來る毎に勇氣百倍の槪を以て邁進し、遂に今日の富を成すに至つたのである、然し君尚ほ春秋に富み其雄偉なる抱負と素懐が達成せらるゝは今後數年の後にあるであらう。

（新、五、十、五、）

◉大日本人造肥料株式會社

△横濱工場の整備▽

取締役會長元警視總監安樂兼道、專務取締役平田初熊、堀内明三郎、其他安部、益田、村井、室田等の諸名流を重役とする東京府下南葛飾郡大島村に本社を置く大日本肥料株式會社は其名グレートジャッパンを實にする我國肥料界の權威である、資本金千六百六拾萬圓積立金九拾萬九千圓の堅礎の上に築きたる搖るぎなき完全肥料、過燐酸肥料、硫曹肥料等を製出する産額巨大にして優に輸入防遏の功果を竊し、或る意義に於ける國家的事業と稱せらる、其偉大なる肥料産出の場所こそ同社の生命であらねばならぬ、――讀者は京濱間を通過の際神奈川名所の一に數へらるゝお伽噺玉手箱のヒーロー浦島太郎の棲家であつた其名も浦島町海岸に、轟々として天空を摩する大煙突より濛々不斷の黒煙を吐き出す赤煉瓦幹壁に鮮明なる白文字を以て『大日本人造肥料株式會社』を彩色せられあるが目に映ずるであらう、之れぞ同社の全生命たり經營の源泉とも云ふべき横濱工塲の夫れである――文明最新式のサエインスを遺憾なく應用せられ、山なす原料が機械と化學作用と人手にて立どころに粗ら上げせられ、中製せられ、精作せらるゝ、其階梯と順序と變化の整調で敏活である狀は寧ろ不思議の樣に

感ずる程だ、事務員、職工、人夫の數百人が此炎天にも怯めず憶せず一身不亂の活動振りは他の工場等に多く見られぬ會心の圖だ、記者は其原料、器械名、製造の方法等の一通りを知ることを得たるも、少く憚る所があると思ふから此記事には拔きとしたが、素より同社から賴まれたのでも、何んでもない、――彼の幾棟かの大倉庫に山と積む原料やら、生産物が數十人の人夫が斷切なしに、黒くなつて出したり入れたりする繁忙が、必然同社の繁昌と隆盛を表徵して餘りあるのである、――年産八百萬圓の厖大なる産出額は……聽て間接に吾々生活體の資源となることを思ふと、同業は一面社會的公益事業とも云へる、斯くして得たりし巨額の各種肥料は、內地は勿論殖民地、露國、印度、支那方面まで供給して人間衣食物の滋養分となつて之が成育の源泉となるのである……此偉大なる工塲を直接擔當して居る人は誰であらう?、工場長兼技師長小田中正彥氏である!!!、氏は事務的才能に富むのみならず技術的老熟者として此場を双肩に荷つて居るのである、氏は眞摯なる內に圓滿を有し、强堅なる意志中に溫味ある感情をも含むと云ふ風に、多數の職工人夫等を使役する上に無くてはならぬ要素を有する適材である、前に他工塲に見られぬ活動振りを記したる發源地を讀者は茲に至つてナール程と合點がゆくだらうと思ふ、氏たるものは益々自重して將來の大成を期せられたいと望むは、獨り記者のみではあるまい。

（新、六、八、四、）

◉新禮助君

明治廿六年中より經營の古き歴史を有し、滊船製造修繕、並に製絲機械、暖房製造等に特異の聲名を馳する横濱眞砂町二丁目の新鐵工塲主新禮助君とは如何なる人であらう、君の素性を尋ぬると頗る興味ある歴史的の資料がある、君は武州高麗村の人で君が墳墓の地には靈龜天正の高麗王族の古墳があり、君が家系は七十五代を重ねたる舊家であることは、其家譜に徴し慥に高麗王族の歸化人たることが證明せらる、君が姿體風丰の魁偉異常なると造船術の殆ど先天的知識を有するとは、益々尋常一樣の素性を有する人でないことゝが含領せらる、君は明治四年の生れ猶活氣横溢の概があり日々自ら職服に身を固め多數の職工に伍し奮闘指揮する勇壯振りは、益々彼の事業の前途が多望なるを思はせらる。

新諸機械製造所

（新、五、十、五、）

◉安部幸之助君

世界的糖界の權威者、立志傳中の第一人者たる安部幸兵衛君の人と爲り等は世已に定評の存するものありてあるが、嗣子幸之助君にも其脉管一杯に父君の血を流動するかの如く、沈毅、果斷、慧敏、博聞、寛裕の美點を併有する所父君ソックリだ、前掲の木村君は養嗣子としての俊才なるが、君は嫡出の偉材であつて、此處兩々對比して錦港の双美たるを失はぬ、君は明治二年の生れで蚤く既に商業の學術的方面と實地的知識とを並修し、父君を助けて今日の成を効したのである、特に横濱製糖株式會社の創立に際しては親く英國に渡航し精密なる視察を試み、最新式製糖機械を購入して後ちの我糖界に一新紀元を劃するに至つたのである、其後も數々歐米南洋等に航して生產、消費の實況を視察し且つ一般貿易上の新智識を吸收し、我實業界に貢獻する所尠少でない、君に最も敬服する一事は、物に動せぬ据つた膽玉を所有する點である、近世實業界の怪傑故平沼專藏氏は膽界絶大を以て名ありし人であつたが、夫れでも相塲等にて一時に巨額の利益或は

安部幸之助君

損耗でもあると直ちに喜憂の情交々表に現れて、儲けた時は莫迦に躁喜いて天井々々と呼び下婢廁者の末迄おごつたものだ、之に反し損でも仕樣もなら御機嫌頗る斜で側近の者を閉口させたといふことだが、其處にゆくと安部君は平沼專藏氏に對し看板が一枚上の樣である、君は一擧に何十萬の利益を見ても左程に嬉しさうにも見えぬければ、又損失しても些しも不機嫌でない、偶々君の氣象を知らぬ新米の店員などが『お芽出度とか、お氣の毒だとか云ふものがあると、君は平然として之に應酬して徐に其者に向ひ、勝敗は兵家の常なるが如く、苟も身を實業界に投じたる以上は利益に狂喜し損失に落膽するやうでは一日半時も斯界に安定する能はず、寧ろ商業の如きを斷念し、他に生活の途を求むるに若かず』と諄々訓諭するさうだ、君は現に大阪化學肥料株式會社長、中央倉庫、滿洲製粉、横濱製糖、其他有名なる大會社數種の重役を勤め、市會議員學務委員等の公職にも就き絶倫の精力と非凡の手腕を隨所に發揮して居る、而も其金力智能地位に於て横濱第一流の紳士たる君は、些末も尊大驕矜の態なく、常に店員の中に伍し活動を續けて居る、嗚呼斯親にして斯兒あり記者は萬幅の誠意を以て阿部家の萬歲を祝禱す!!!。

（新六、七、五）

◉横濱銀行界の四天王!?

△山川勇木君……山縣量次君……森謙吾君……川本多吉君▽

山川勇木君

川本多吉君

横濱市内に數ある銀行家中で正金の山川勇木君、第二の山縣量次君、七十四の森謙吾君、戸部貯蓄の川本多吉君は、確に四天王の列に入るべき人物であらう!? 山川君は石川縣士族にして安政二年生れた、少壯實業界の人となり、正金銀行創立以來の功勳者である、倫敦支店長より累進して總支配人として同行の重鎭たるに至つた、其謹嚴にして敏活なる行務振りは、眞に理想的銀行家の典型たるべき人である、山縣量次君は舊山口藩士河上三郎氏の二男で、萬延元年の生である、一度理科大學に學窓の人となつたが、感ずる所あつて中途にして實業界に身を投ずるに至つた、謹直と親切なる美性は同行支配人として内外に信望を繋ぎ、行運をして日に月に隆昌の域に進ませつゝある、森君は舊大村藩士早く父を喪ひ賢母の手に鞠育せられ、勤勉正直

の性を陶冶した、少壯にして沖縄縣の會計課長に任せられ能吏の名を爲した、七十四銀行の行務紊亂に際し、頭取茂木惣兵衛氏の請に應じ官を辭して同行に入り、大に健腕を振ひ着々整理の績を擧げ、現に今月の盛を致すに至らしめた、君は行務に臨むに快刀亂麻を斷つの概あり情弊を刷新して顧客に便宜を與へ、現大谷頭取を助けて信望内外に馳せつゝある、斯界の一權威者である、川本君は安政三年戸部村に生れた生粋の横濱兒で往時戸部役場時代より、今日の市制時代まで、自治的公共事務に鞅掌し、專ら金融事業の發達に盡瘁し、自ら卒先して戸部貯蓄銀行を創立して、特に戸部方面の開發を圖る等市政、經濟界に貢獻する所少なからぬことは既に定評がある。

（新六、一、九）

●大日本ヴェニア製造會社

△木材の成金▽

神奈川下臺の埋立地に新に出來たヴェニア製造會社とは何んなものかと讀者から數々質問を受くるが、實に記者もお恥しき次第だが其答に當惑して居つた、百聞は一見に若かずと此炎天の下をてくつて實見と出掛けた……往つて見ると實に驚かされたね、文明の機械力と技術の進歩には……丸で天工を奪ひ自然を征服するとは懸値なしに此工場で見る事が出來る、從來薪炭の材料となつて竈の下に燻ぶる外能のないものとなつて居た、檜や櫟の惡材が倏忽の間に欅の玉目にも化け黑檀の珍木にも變する……其の化け樣變り方の順序を簡單に書て見るとザット恁うである……先づ澪中に浸してある雜木の丸太がトロッコで引揚げられると、ギリット一廻りの上無雜作に蒸氣仕掛で大鋸の下に据へられる、此處で自由に挽き切られて直ぐ側に沸つ／＼煑くりかへつて在る二百度以上の湯槽内に移されて五六時間煮られると灰汁が拔ける、そこで今度は滑車で釣り上げられ梁をガラ／＼と傳つて剝られた場所に行くと、煑上げられた木材は手も無く煑餅のやうに薄く薄がれる、極薄いものは百四分の一時まで剝がれるさうだ、此の薄紙のやうな剝板が百枚位づゝ重ねられて更に乾燥室に送られる、

乾燥室では待つて居たと云はんばかりに、心になる板の兩面に薄板が膠で密着され更に壓搾機に掛けたものが即ち一種の化け材料たるのである、後とは仕上げ機にかけるので玉目も出來れば黒檀にもなる、此化け了ふせたものが床板にもなれば卓子にも出世する、單に斯く裝飾的に使用せらるゝ外、此化け材料は絶體狂ひが來ぬと云ふ特徴を有する所から熱帶地方を通過する茶箱や護謨箱はブイニヤ材料に勝るものなしとして其需要も頗る多いとのことである……是で漸とヴエニヤの本性明白となつた譯だ……同會社は創業日尚ほ淺きも、新奇の試みで他に類例なきと原料は豊富で、需要の廣汎なる爲め、大々的利潤あり且つ將來頗る有望なりとは何より結構〱。

（新六、八、五）

◉橫濱の警察（上）

△各主腦の分析

△大里戸部警察署長

【上】

同業萬朝子は過日の紙上に地方行政の治績擧らざるを慨して、其の原因は郡長、警察署長を任命するに近來多くは學校出の無經驗者を以てするに基由すとし、是等直接人民と交渉深き職掌にある下級行政の主腦たるものは、別に深き學殖を要せずして能く地方の人情、風習等に通曉し、其利弊の存する所を洞觀し、法令の容す範圍に於て裁量の自由ある手腕を有するものを第一要義とし、所謂老熟圓轉の活識あるものを之に充て此不治績を匡救すべしと痛論せるが、適が時弊を見るの一隻眼を有すと自他のゆるす萬朝子の言議なりと敬服に値する、吾人が聊か此欄を設け題名の下に論評的爭を下さんとするも此意に外ならぬのである。

戸部署長大里警視は岩手縣の出身ではあるが、既にヅウー〱の去つた圭角のとれた滑脱圓轉の良警官の一人である、年齡も慶應元年と云ふから最も好適齡である計りでなく、既に卅年の永き本縣の警察事務に鞅掌したのであるから、警察の活字引の稱ある程精通して居るのである、一體警察界に永

く居る程の人は談が一定の型內に固まつて了ひ、不融通の木强漢となるやうだが、君は此定型を逸脫して居るから嬉しい、と云ふのは素養又は修養の如何に歸するやうだ、君は旣にヅウー〳〵の訛りが去る程、若い時から出京して學窓の人となつたのであるから比較的素養もあり、奉職後も世の進運に後れざる心掛けを以て讀書を始終やつて居ると云ふ風に修養も怠らぬ、君は今こそ彼な眞面目に鹿爪らしく濟して居るが、若い時は劫々變殼で覇氣滿々たるものであつたが、秀麗なる姿態の德は溫柔な人とのみ世人より思はれた、君が微醺を帶び春雨を踊る內は可いが、醉が廻ると變に目を据へるが最後、醇言を卷き千丈の氣焰を吐き遂に亂暴をする?!、藝妓の橫面を撲り三味線を折ると云ふ出來事は數々あつたのである、卅年前後の伊勢原や松田邊に流竄せられし時が、君の失意と不平と自暴は絕頂であつた、併し蛟龍は永く池中のものでない、今の湯淺警保局長が警部長時代に僅に頭を擡げ出し、警務課長より警視に拔擧せられ、君が多年の薀蓄は用途を得るに至つたのである、君は天禀の美質に加ふるに、百錬の修養を積みたる結果として、能く情義に深く、友交に厚く然諾を重んじ、而も部民や部下に對しては只管悃欵の情を傾倒し、叱るよりは諭し、罰するよりは誨ふの方針を以て臨み、自然の間部下部民の信賴と脫服を買ひ治績を擧げつゝあるは他に匹儔することの出來ぬ萬朝子の翹望せる理想の良署長たらねばならぬ。

（新五、八、十四）

◉佐久間三代人君

△奇傑傳中に入るべき一人▽

人は棺を掩ふて見んければ其正邪善惡の評定は下されんものであると古人が云つたが、世間には隨分這んは例は澤山ある、近く我橫濱では平沼專藏氏の如きも生前には極惡無道の者の樣に云ひ囃されたが、死後に爲つて見ると劫々惡人所でない、陰に陽に國家の爲に傾盡した一大功績者で比類稀れなる偉人であることが分つて來たのである、大小はあるが佐久間君の如きも此仮崎に入るべき人で世間より誤解を受け易いが、記者の知る所では君も一奇傑傳の?中に加ふべき人物であると思ふ、君は舊三春藩典醫の家に生れたのであつたが、父君は戊辰の役に陣沒し祖母の手にて鞠育せられた、爺婆育ちは三文安いて坊チャン育ちの君は遂に放蕩兒たるを免れなかつた、藩中屈指の富者であつた君が金庫を空乏にしたのは餘りに早きに過ぎた、君が三代人と稱する所から世人は唐樣で書く三代目などゝ冷罵したものであつた、が然し君は幸に其全身に滿々たる天禀の才氣と膽力とは何人にも奪はれずして、昂々然として燕雀何ぞ鴻鵠の志を知らんと平然たるものであつた……偶々廿五年の總選擧は所謂吏黨民黨對戰で全國到る所大激戰を演出した、就中福島縣第三選擧區では民黨の旗頭河野廣中君の本

城を構える所とて一層の激烈を極むるに至つた、敵將白井遠平氏も千軍萬馬の間を馳驅したる驍將ではるか如何せん、多年扶殖したる河野氏の鞏固なる地磐を崩すは容易の業ではなく形勢日に非なる狀勢であつた、玆に於て白井派は謀議を凝した末、機略縱橫勝を千里の外に決する的の良參謀を得て回瀾の奇功を奏する外途が無かつた、遂に白羽の矢は君に立つた、君當時尙ほ廿七八才の若輩にして此大任を受くるに至つたに見るも、其成否は兎に角別として尋常一樣の人物に非らざりしことが推知せらるゝではないか、衆目の視る的は違はぬ、

佐久間三代人君

君が白井派の帷幕の内に參畫するや俄然形勢は一變した、遉が河野軍は狼狽一方ならず決死隊を組織し自盡自刄を閃し拳銃を放つて狂暴脅威の蠻行を敢てする修羅場を演出するに至つたのは此時であつた、棚倉で巡查が壯士を破り殺した……白井氏一行が拳銃の雨を浴せかけられた……演說會場劒戟相接し銃丸飛交ひ碧血を演壇に立つた……勿論佐久間君の身邊を襲ふ危險は刻々に迫つて私服巡查は君の影に添ふて始終保護すると云ふ狀況であつたが、君ば平氣なもので悠然として神算鬼策を自由に周らして敵をして益々窘迫の窮地に陥れ殆ど施すに術なしと迄悲觀せしめた——一夜大雪交通全く不可能の前夜である、白井派は大勢より打算して各陣營は歡呼の聲に滿ち祝盃を擧げ安堵の夢を結んだ……之に反し河

野派は機會到れりと奮起し必死の活動を此一髮の間に施した——げに油斷は大敵である、石川、白河の二戰線は此瞬間戰に敵の奪還に逢つて見ンごと、翌日の決戰に河野派に、勝利を占めらるゝに至つた!!!、君は戰後同志を糾合し田村國民協會を組織し今後の對戰策を畫して地盤の散逸を防いだ、續て中央部に献策して政黨組織を促進し西鄕伯品川子を頭領とする其名稱も自已の選べる國民協會を產出せしめたのも君の努力が預つてあつた——君一日喟然として嘆して云つた、嗚呼、金力?!人間金なかる可らず?!と後事を同志に托して飄然大抱負を其滿腔に疊んで橫濱に出でたのは、正に明治廿六年君が廿八歲の春であつた……先つ君は世情を知るの方便として身を卑ふして山手署の一巡查と爲り間もなく巡查部長に拔擢せられ、更に警部の候補者と迄進んだが、素とより一警吏に甘んずべきでない、三年の後職を辭して實業方面に活躍し始めた……金貸……無盡……相場……一起一倒奮闘を續くること三十星霜……今日では押しも押れもせぬ斯界一方の覇者となり巨萬の富は君が素志の萬を一充したのである?! が更に、於以上の富力を增殖し、素懷を達成すべき期待は此處數年の內にあらん、然り人力……と運命……の闘爭!!此人にして見るべく記者は數奇の眼を睜りて筆を收め置く。

（新六、十一、二十）

◉三宅八郎君

△本牧の雷爺……實は大阪事件の志士……▽

本牧の一名物男……雷爺とは音に聞えては居るが、記者は什麼な人物かを知らなんだのであつた、一日探檢旁々訪問と出懸けた、本牧電車終點の右手の稻荷サンの隣地に端的した一構の奥の座敷に招せられ彼に逢つた、成る程一寸變つた人間には相違ないが、世間で囃し立てる樣な頑屈な爺でない、寧ろ或る意味に於ては酢も甘も知り貫いた、云はゞ世間を愚にするほど悟道徹底した一人物である、其辯舌と云ひ態度と云ひ、一寸俗人には變に聞えるであらう!?雷爺こそ誰れあらう!!大阪事件の志士誠軒……我亦醉庵主人……三宅八郎……其人であることを誰も知るまい?!明治十七年大井憲太郎等が朝鮮に事を起し内政の革新を圖らんとの陰謀を企てたる當時、三宅君は大阪鎭臺の參謀部に勤務して居たのである、陰謀事件の花形役者たりし新井章吾と君は竹馬の友たりし關係より、其陰謀に君も參畫し所謂一味徒黨の一人となつた、のみならず君が軍事智識は陰謀團に取つては唯一の參謀官たらざるを得なかつた、新井が京城に先づ事を擧ぐることにも、氏家直國が志貴山夜襲の計畫も皆な三宅參謀の畫策に出てたのであつた、特に有名なる『自主之國也』の檄文は山本梅崖起稿して君が淨寫校修したるもので、激越の詞、慷慨の氣、筆端より血の迸り出づるかの感がある、陰謀露現大阪の獄起り

續て盟主大井を始め志士は擧て國事犯を以て罪を問はるゝや、君は軍籍にあるの故を以て軍律を以て大阪衛戍監獄に禁錮せられ、後ち大赦の恩典に浴して出獄するに至つたが、君が餘憤は却々冷却することが出來なかつたものと見え、再擧を圖つたが是亦失敗に終つた、當時單身劍を杖て鷄林八道を蹂躙すべく將に發するに臨み同志の一人米津晋氏詩を作つて其行を送つた『梟々風和白日悠。雨餘春色晤催愁。江頭新柳力猶弱。不爲離人綏去丹』と猛士の俤髣髴として易水の悲劇を偲ばせるのである、後ち日清間の風雲急を告ぐるや機會は來れりと蹶起して自ら進んで要路に求めて或る重大の特別任務に就き、數々危地を蹈み偉動を奏した、間もなく臺灣に航し黑旗軍の總統劉永福を說伏せんと大膽にも敵地に入る途中捕はれて殘忍なる敵の毒手に身首所を異にする斷末間に迄及んだが、天も此志士の志を愍んだものと見え、一士官の同情にて僅に身を以て逃ることを得た、腹部に殘る大創痕こそ當時の慘劇を追憶する記念章である、曾て時事に感する所ありて山縣公に一書を贈つた其一節に這麽事が書てある、『閣下已に老ゆ然れども此の盤根錯節を訴り國家を泰山の安に置き帝室をして萬世に尊榮ならしむるもの我之を伊藤公の文飾に求めず又之を大隈伯の辯巧に徵めず實に木强朴訥なる閣下の至誠に求めんと欲す云々』と君が半生の行藏は先づザット斯う

三宅八郎君

云ふ風であつたのである、君使々たる腹を撫でながら『イヤ昔のことを省ると夢のやうです――然し這んな意氣……亂暴な奴も時勢には勝たれませんな、頓と覺る所あつて今では柔順猫の樣な爺と化けましたよ、アッハッハアー』其悟道徹底的な言語動作の内にも何處やら昔時の一死皇恩に報る的志士の俤が側の見えた、雷爺の由つて來る所斯の如しと、筆を擱する。

（新、六、十一、二十）

◉上野吉二郎君

横濱電氣株式會社は六月十日を以て勤續二十五年間の功勞を表彰し金杯壹組に金七千五百圓を添へ専務取締役上野吉二郎君に贈呈した、君は緻密なる思索と勤勉の行爲と縱横の機略を有し、又一面交際上手で人に接して障壁を設けず極めて快活に談笑する程の德量をも有する當代得易からざる紳士である、君は幼時藤田素堂翁の門に入り後小野修一郎氏の薫陶を受け大に修養を積みて人格を磨き上げたのであるから翩々たる當世灰殻式の輕薄才子ではない、同社が今日の盛大を誘致し横濱の燈光權を獨占して市郡間に雄飛するに至れるは彼の力の多大なるを認めねばならぬ、而も彼が巨腕を揮ひ今日の位置を贏ち得るに至れるは其原因がなくてはならぬ。

上野吉二郎君

君は曩に川村傳兵衛氏の第卅三國立銀行に入り後ち同行の三井銀行に合併するに當り、川村家の財産を整理し秩序整然其成績の大に見るべきものがあつた、夫れが遂に社長木村利右衛門翁の知る所と

なりて此大任を托せられたのである、士は己を知る者の爲めに死す的に木村社長の知遇に感激し明治廿五年入社以來献身的に傍目觸らず會社の爲めに働いたのも由れなきに非らずだ、實に君の奮闘振りと經營の才の尋常ならざりしことは驚嘆すべきものであつた、神奈川電燈の買收、箱根水電の合併、若しくは瓦斯に對する料金引上げの決行、或は地下線の計畫、共同電燈、箱根水電の二社合併等數え來れは其手腕に依り社運の發展需要者の便益を計つた、其功績は殆ど枚擧に遑なしである。

顧みれば開業當時資本金參拾萬圓の會社が今や千五百萬圓に增資するの盛况を呈しつゝあるは要するに、畢竟社長木村利右衛門、取締役若尾幾造、同渡邊福三郎、常務取締役たる君等が二十五年間の長年月に產み出したる功績に歸せねばならぬ、左れば今回會社が四氏の功勞を表彰したるも當然である、尙特筆すべきは上野氏を擧げて其重任に當らしめ、其識見と靈犀なる巨腕に信賴して其最善を盡さしめたる木村社長が人を見るの明にも敬服に値すると同時に、翁が君を跋躍重用し、君亦翁の知遇に感激し、其附托に背かざらんことを期し、全力を會社の爲めに傾注したる呼吸の合致が今日の名譽を贏ち得たる所以であることだ、君は栃木縣の人安政六年の生れと云ふから今年方に五十九歲の男盛りで其前途には尙はより多き成功の光が輝きつゝある、好漢の自重を切に祈る。

◉川崎銀行支店と不動貯金銀行支店

△双方に特長あり▽

横濱に於ける新進銀行として羽振りの能き兩銀行には夫々異なる方面の特色を有し、何れも潑剌たる生氣を以て活動振りを示して居る、川崎銀行は昨年秋始めて當市に支店を開始したのであるが、其營業振りの健實と親切とは忽ち信望を買ひ隆々旭日の勢を以て數ある他の先輩銀行を壓倒する好況を呈するに至つた、前に温順老巧なる市川正爾氏が創業の支店長として名聲藉甚たるものありしが、更に新銳の敏腕家たる少壯の福島恭二君を以て之に代へ行務を刷新して一層發展の步を進めつゝある、福島君は高商出の俊才であつて、東北地方の支店長として縱橫の敏腕を示し、今回拔擢せられて此重要の任に就かしめられたのであるから今後君の活躍振こそ刮目するに足ると期待する。不動貯金銀行は豪宕放膽的の所に其特長が現はれて居る、同行が大正四年市內本町に支店を設置し、柳下欽之助氏支店長として大に其辣腕を振ひ、据置貯金開祖を以て鳴響き、本年六月常盤町四丁目當港目貫の地に峨々たる三層總煉瓦の一大建築竣成を告げ移轉したる急進的大發展を爲したのである、柳下君曰く『各位の御引立を蒙り望外の信用を博し、近頃は世間の景氣の能き爲めもありませうが當行貯金の激增著しく殆どお預り切れぬと云ふ盛况です、今後一層精勵努力此の眷顧に報ふべく、自分始め社員を督勵

轆轤致して居ります」と謙遜の内に其得意の嬉びと、満々たる覇氣の包み切れざる閃きが見えた。

（新六、七、五）

◉九谷燒海外輸出の創始者綿野吉二君

靑繪九谷燒として現下海外輸出品の重用品目に數へらるゝに至つたのは、君が明治六年に墺國維也納の博覽會に出品して世界に紹介せしに始まる、爾來四十餘年の久しきに亘り、或は陶法の改良に或は釉藥の使用に或は描畫の選擇に殆ど一身を犧牲として研究したる功果は空しからずして、今や世界的美術工藝品として持て囃さるゝ隆運を迎えたのである、何事業に依らず一事業の成功の裏面には悲慘なる犧牲を抱くもので、君にも數々重大なる犧牲を斯業の成功に拂つたことは云ふ迄もない、君は一面に品質の改善と技巧の進歩に盡瘁すると共に、一面には販路の擴張に甚深の努力を費した、之が爲には自身海外各國を視察し其狀況を蹈査すること前後幾十回に渉つた、彼は郷里石川縣に早くも模範陶窯景德園を設けて名工を養成し、又陶業組合を設けて互に警告奬勵した、一方には資金融通の目的にて群立社を組織し、運輸の便を圖りて加能汽船會社を創立する等、斯業全般の施設と經營に盡力せし功績沒すべからざるもの少なくない、更に明治十年神戸に支店を開始し、十三年には横濱に本據地を定め中央舞臺に活躍して遂に今日の成を告げたのである、其の功勞の表現は廿八年敕定綠綬褒賞の下賜となり、横濱商業會議所議員、區會議員、日本貿易協會理事、横濱美術工藝品七商組合會頭

等公共團體に於ける榮位を贏ち得たのは、君が必然招徠せしめたる應報であらねばならぬ。

◉蠶絲貿易と上甲信弘君

君は愛媛縣宇和島の人で明治四年生れと云ふから、四十の坂を六ツ丈り越た男盛り、第一高を卒業すると蚤くも實業を以て身を立てんと決心し、蠻煙瘴雨の立ち騰る南洋の孤島カルラキアイスラントに航して雜貨貿易を開始したのは明治廿三年彼が未だ廿歳の青年時代であつた、止ること八年の永きに亘り大に獲物を提げて横濱に歸り蠶絲貿易に從事し、四十一年に矢野氏と資を併せ矢野上甲合資會社を組織して斯界に一大雄飛を試むるに至つた、其學植！其經驗！其年齒！其膽力！彼が將來も多望なるかな。

◉本邦膽寫版の開祖眞川(スナガワ)三郎君

簡便なる膽寫器を發賣して我寫字界に一大革命を與へた元祖たる君は眞摯着實なる横濱實業界稀觀の一人者である、彼は伊勢の出身明治十一年生れて、早くも出濱して製茶石油の業に貿易商の素地を養ひ、廿三年より米國加奈陀方面に陶磁器金屬彫刻等の本邦美術品の直輸出を試み、更にスタンダード會社との特約機械油を販賣して聲名隆々たるに拘はらず、謙抑苟も人に傲るが如き態度なく、日夕黽勉精勵して公私の利益を圖つて居るとは頼もしきことである。

◉細田石鹼製造所長細田勝市郎君

一年の産出一萬噸一百五十萬圓と云ふ巨額に上り歳と共に旭日の隆昌に趣く、東洋石鹼界の權威たる、横濱市中村町六百二十七番地の細田石鹼製造所主細田勝市郎君こそ眞に我國近代の工業成功者の一人である、而も戰時の僥倖に萬一の奇利を博したる、夢幻成金の俛儔を離れ其努力より絞り出したる額の汗と、其薀蓄したる多年の刻苦より流れ出でたる、實力の結晶が勝ち誇るべき此偉大の成果を齎らし來つた點に吾人が敬服の價値がある。

細田君は埼玉縣北足立郡石戸村に生れ、年少にして志を立て東京に出で某石鹼製造工場に入り、刻苦勵精斯業の研鑽に身を委ねること多年、十年以前横濱市南太田町に徼々ながら先づ獨立の一工場を創設して、其絶倫なる精力と共に超越せる精良品の製出に忽ち『細田石鹼』の名聲は喧傳せらるゝに至つた、間も無く現在の中村町に移轉しての後の君が經營振りは實に目醒るばかり華々しきものであつた、始め四十坪の工場が膨脹して第一工場二百五十坪、第二工場四百坪と云ふ破天荒の大擴張を招來し、堀割川の兩岸に天を摩する大煙突より不斷に吐き出す黒煙の下、十噸炊三枚一噸炊十五枚の竈より日々二十噸の石鹼、即ち游水用石鹼、洗濯用石鹼、精棟石鹼、藥用軟石鹼、化粧石鹼、洗滌曹達、

廣利私林、ヘツト、里斯林等が産出せらるゝものである、今や丸エツキス印石鹼と謂へば、內外に其名を知らざるものなき盛況を呈し、月額十五萬圓の收入あると聞いては其成効に驚嘆の聲を發せざるを得ぬではないか。

吾人は細田氏が斯く迄に努力したる産物の報酬を寧ろ當然と思ふので、決して氏をして時代の幸運兒などゝ稱揚はせぬ、代はりに『事業は人に在り』の深旨を現はさんとする本紙が當欄を設けたる意義を最も適切に表現すべき代表的人物の一人を得たるを以て衷心の欣快とする、尙ほ我橫濱港が振興策を畫すべき輿論たる商工併進策、否な寧ろ工業招致策を喫緊事とする今日、細田石鹼製造所の先驅的大成功を見ては人意を强ふするに足る一吉兆として祝せざるを得ぬと思ふ。

細田勝市郎君

細田君は所謂力行主義の人で、セルフヘルプ、即ち『天は自ら助くるものを助く』を以て信條として居るが爲め、如何なる逆境でも順調でも、氣を腐らしたり意傲こつたりするやうなことがない、如何となれば逆境の場合には我力足らずと反つて自奮力を増し、順調に處しては我力を神の認むる所となりたりと愈々奮起心を鼓舞するからだ、世の齷々たる小才子等が忽ち悲觀するかと見れば掌を飜す

が如く俄に樂觀する、大小の失敗者成金家等と大に其選を異にする、君が終始一貫的に研究生時代の一貧書生より、成功の大家の紳士たる今日迄、三十有餘年一日の如く早起晩退細田石鹼工場の一ビジネスを以て自任し、技師や職工と伍して切々活動して居る、總員五百名の使傭人が能く節制を保ち、主公が手足を以て嬉々快々然として靄々裡に立ち働く狀態は到底他の工場等に見ることの出來ぬ圖だ畢竟身を以て衆を卒ふる眞心を天の助成するものであらう。

細田石鹼の製品販路の概要を摘記すれば、丸エツキス洗濯石鹼中、白色の分は主に西洋洗濯店に需要せらるゝ外橫須賀海兵團の御用品に買上げられ、赤色の分は練製にして第一及第二艦隊の御用品たる名譽を有し、海水石鹼は其名の如く海水に使用する一種の特質を有する所より、各瀛船會社等に愛用せられ、軟石鹼は食器洗滌用として料理店及家庭の臺所に無くてならぬ必要品として好評を博し、郵船會社のみにて一ケ年二十萬磅を需要すと云ふに徴するも、其盛名の尋常ならざるを窺知するに足るであらう、精練製石鹼は佛國式にて內地各機業場及富士紡績幷に支那各地に重用せらる、船渠用ヘツトは浦賀船渠、橫須賀造船所等に供給する數量莫大に上り、其他丸三ツ星洗濯石鹼、純白浮石鹼、牛脂製練石鹼等內地は勿論支那南洋方面の市塲に外國品を排退せしむる大々的聲價を發揚するの盛觀を呈しつゝある、而も君は之を以て尙足れりとせず、一進一歩の向上心は更に改良と精選の方法に餘念なく、近頃第二工場の一地域に、細田化學研究所を創建し專ら之が研究と創見に努力して居るので

ある。

嗚呼、國力の充實、横濱の振興……與に共に口の議論問題に非らずして手の實行問題たる今日、我横濱に君の如き實行者の先鞭を振つて好鑑を示すに至りたるを欣ひに堪へぬ、今や將に市會議員候補者物色中と聽くに方り、君の如き手腕家の出でゝ我市政の上に貢献して貰ひたい、切に君の出馬を望む。

◉羅紗商の權威早川松太郎君

養父林平氏が明治の初年蚤くも時勢を達觀し、黃金咲く笹の荒波を蹴て、佐渡が島を出て此の横濱に來たり元町五丁目に雜貨店を開業し、二十三年國會開始の歳に羅紗商に轉じ嶄然斯界に頭角を現はすに至つた、此間の奮鬪努力も左ることながら、氏が本領の成功秘訣は誠實の二字にあるやうだ、當時外商が本邦商人の幼弱なるに乘じ横暴を極めたのも事實であるが、彼れ外商と唯一の取引市場たる横濱には諸國の破落漢同様の奸商人入り込み、大功は細瑾を顧みず的に隨分いかゞはしき手段を弄して、馬の目ならぬ碧い眼を拔いたものであるさうだ、其處に鷄群の一鶴たる氏が一貫せる誠實主義は特に外商等の信用を博し今日の大を爲した理由だ、氏は今や功成り名遂げ養嗣子松太郎君に箕裘を襲はせ、自己は專ら慈善事業等の公共方面に盡瘁して居るのである、松太郎君は三河の人で弱冠にして東京に出で洋服裁縫を研修し、其技殆ど神に入り、林平氏に見出され養嗣子となつた、一時石川町一丁目に轉居せしが今や山下町百六十番に宏壯なる店舖を新築し、羅紗及び毛織物の直輸入幷に洋服裁縫業を益々擴張し一層の名價を揚ぐるに至つた、君も養父の見出した其眼識に違はず、唯利是れ念とする我利商に非らずして、奉公慈善の心に富み人格を重んずる立派な商人である、日露戰役の後援事

業に五千圓を投じ、凱旋兵を招いて一大園遊會を開いて之を犒ひたる如き美談は人の知る所であらう、君が斯業界に重を爲す例證は、横濱洋服商同業組合長、京濱羅紗商同盟會幹事長たる重要なる位置に推され居るに見ても分る。

◉皮革業の巨頭關戶重太郎君

横濱皮革業組合長……合資會社櫻組業務執行員として斯業界に重を置かるゝ君は、辨天通三丁目に店舗を有し靴、鞄、其他の皮細工製造販賣を營み、其堅牢と優美と耐久の製品は內地は勿論、歐米各國濠洲、香港、上海より注文續々引きも切れぬ繁昌を呈して居る、日清戰役以前迄は我國の陋習として皮革業に從事する者を賤業者として輕侮したもので、一般に斯業を忌避するの風があつた時代關戶氏の炯眼は早くも將來を看取して、明治十六年鄉里靜岡を出で、當時有名なる東京櫻組に一身を投じ孜々として店務に鞅掌すること三年、君の献策に依り櫻組は異狀の成績を擧げしのみならず、自他の卑下せる斯業の陋態を一變し、積て横濱支店長に榮進し、更に卅二年には獨立して一店主と爲り、卅七八年の日露戰役起るや奉公心の盛なる君は奮躍して軍需品の最要部を占むる皮革製品の供給を飽充しゝ軍國の大事に貢献すると同時に、斯業界の地位は卑下すべきものに非らざることを、我國の上下を覺知せしめた恩人であるのである、君を以て我國皮革業者の先覺者と稱揚するも決して溢美の言でないと信ずる。

◉長與程三君

△茂木家の參謀長▽

茂木合名會社總務部理事としての君は、茂木家としての參謀長格である、茂木家組織の大體に就ては世間周知の事であるし、且つ當主惣兵衞氏の人と爲り等に就ては前に本紙上紹介する所あつたから、今更に之等に關する記述の必要はないが、長與君の立場を知らしむる上に多少書かなくてはならぬことゝなつた、元來茂木家の始祖？とも云ふべき當主の祖父に方る故惣兵衞氏は力行主義の人で、現代的灰殼は大禁物であつた、故に店員を選擇して重用するにも此筆法から出てたのであるから、小僧から段々經上り能く〳〵其性行を見拔かれたものでなくては、幾ら學識があつても才能が勝れても到底中途半端から入つたものは重用せられぬと云ふ狀態であつた、之は家憲の樣になつて今日迄繼承せられたのであつたが、當代惣兵衞氏は未だ三十才前の血氣盛り、其潑溂たる鋭氣に新智識の煽りは態ふしても舊家憲の全部を株主して居られぬ、左ればと云ふて祖父より傳はつて御家大事と勤め、別段の瑕瑾とてもなき白鼠連を片ッ端より放逐する譯にも行かず、依然として各要所々々の頭株は所謂惣兵衞氏の舊式の禿頭を以て占めて居る狀態であつた、然るに長與君は明治八年の生れ、有名なる當今醫界の功勞者たる故男爵長與專齋氏の次男ではあるが天才的實業家たるの素質を備ふる君は、父君の箕裘を長兄たる現男爵醫學博士又助氏に委し、蹶然起つて横濱生絲會社に入りたるは未だ二十歲の青年期であつた、之が抑も君が茂木家に重用せられ、實業界一方の覇者たる今日を爲したる動機であつて、又其素因であつたのである、早くも君の天稟的才能は先代惣兵衞氏の知る所となり、茂木商店の留學生と爲り米國紐育商業學校に研磨して名玉は益々光輝を放つに至つた、明治三十九年業卒へ歸朝するや直に佛國里昂の支店長に拔擢せられ、其敏腕に撚りをかけ甚大の功績を擧げた、四十二年には本店詰となり輸出部の大擴張を献策して用ゐられたと云ふ徑路を蹈んだ迄は、先代惣兵衞氏時代の行程であつて、重用はせられたが倘ほ家憲の羈束を脫して先輩を超越し所謂幹部たるの地位を贏ち得ることは出來なかつた、然るに先代歿後血氣の當主を戴くに至つて、種々の改革は行はれた、就中大正二年茂木合名會社を組織し銀行部、輸出部、地所部、倉庫部、總務部を分設するに迄及んで一躍して總務部長に擢用せられたのは、茂木家あつて以來の大改革であつて、又破天荒の任命であつたのである、恰度總務部の位置は我國陸軍制度の參謀部と云ふ格であるから、凡ての商略の策源地は此處に在る、即ち君は策源地の主腦たる參謀總長として、帷幄の籌を策するの地位を得たのである……果然豁達豪放なる少壯の當主惣兵衞氏と思慮周到頭腦明敏なる參謀たる君は無爲に過すべきでない、大正五年に巨資を割いて新に鑛業部を設け君をして之を兼掌せしめ、一時世人をして驚異の目を睜らせたが、後にはアッと感嘆の聲を發せしめた、豁達と明敏、豪放と周到の對照は鬼に金棒の觀があると稱して、

茂木家の隆興をトして居るのは獨り記者のみではあるまい?!斯く叙述して見ると君は才子肌の高襟風の人の様に聞ゆるが、實見すると如何にも謹直な温厚な君子風の人である、茲に於て記者は漢の張子房を聯想した、夫れに君は能書で能文で、おまけに和歌、園藝に趣味を有して居ると聞えては、其心根の奥ゆかしさも察せられる。

◉湯淺龜二郎君

△増田精糖部の重鎮▽

君は和歌山縣有田郡湯淺村の郷士で、土地の名を冠する程であるから舊家であることが判る、道理で君は商人ではあるが何處やら昔の武士氣分の奥床しき所かほの見える、聞く所によれば君が累代の資産も御多分に漏れぬ、維新後の士族の商買にて雲散霧消して仕舞、君が明治十八年二十歳の春を迎えたる頃は、君を驅つて北海道に送り出し、氷海に凍える手を忍ばしめて漁業に従はしめたのであつた、堅忍不拔の氣象に富む君は十年間と云ふ永き歳月を同業に一身を委し若干の資財を贏ち得て横濱に來り、先代増田嘉兵衛氏の知遇を得て同店に精勵する一人と爲つた、爾來二十年の長星霜を増田家の爲に渾身の犠牲を供し誠忠を捧げて他意が無いのであつた、士は己を知る者の爲に死す的意氣は、武士氣質の流露であらねばならぬ、増田家當代の主増藏氏も典型的紳商である、君が誠意に感激の情を寄せ、同家最重の家業たる精糖部主任に重用して其一切を委し、其名利を君に附與して居ると云ふことは共に當世の美談事ではあるまいか、君は頗る友情に厚く偶々舊知故縁のものが落魄でもして居るのを見ると、好物な酒料を代へても之を救出してやると云ふ美行がある、君は云ふ、金を儲けるのは之を有要に費すが爲めであると此一言君の全人格を推知することが出來るではあるまいか。

◉耶馬溪一貫齋君

易占と云ふと現今サイエンスの進んだ耳から聽えて何となく時代後れの感が起り、隨て之を業とするものゝ頭のかび臭きを思はしむるやうだが、君は一種色變りの周易家で一寸面白味があるから當欄に紹介することゝした、耶馬溪一貫齋の名から已に變挺であるが聞いて見ると、彼は有名なる山陽の詩にて知られたる耶馬溪出身である所から冠したもので、一貫齋は意志の一貫を重んずると云ふ意味を露はしたさうだ、而も彼が本名は七矢秀雄と稱して曾て市

耶馬溪一貫齋君

内翁町に私立小學校長として令聞のあつた男だ、彼が易者と爲つた理由は生存競爭の激甚に伴ふ煩悶者の激増日に加はり、教育や宗教の力にては之を救出することが覺束なくなつたので、周易なる一種の哲理を以て彼等の迷想を打開し之に指針を與ふるにあると云ふのである、流石相當の修養もある男とて其云ふ所も凡を逸して居る、彼れ一度筮竹を採り冥目一過するや、其過去を說き、現在を述べ將來をトすることゝ殆ど掌を指す如く、被占者を合點せしめざれば已まぬ、成る程是れでは煩悶も除去するであらうと

思はせるのである、世に神占と云ふことがあるならば、彼の行るのは慥に夫れである、彼は兎に角我横濱の一名物たるを失はぬ。

◉横濱新市會議員

新に當選の榮を荷ひ横濱市議政壇上に現はれたる諸氏が、如何にして將來の大横濱策を計畫せらるゝ乎は吾人五十萬市民の張膽刮目に値ひす、而も自治機關に政黨浸潤の一大宿弊を一掃せんとすべき意義が、最も重要の前驅たることを諸氏の賢明に省察せらる可きを欣幸とす、老練熟達せる二十二名の再選諸氏に配するに、新進氣鋭なる二十六名の新選諸氏を以て組織せる新市會が、能く時代の進運を制し全市の隆興に貢献すべきを信じて疑はず吾人は此意義に於て新市會に過大の翹望を繫ぎ、當選議員諸氏に多大の敬意を拂ふの徴志を表する爲め、左に諸氏の小肖を掲出せり、若夫れ小月旦を新議員諸氏に限りたるは、再選諸氏は吾人が數々或る機會に各種の形式に於て世に紹介せしことありて、重煩の嫌ひあるより特に之を除外せるものにして他意あるにあらず、敢て了解を望む。

△石井清一郎君

君は久良岐郡屛風浦の舊家にして、性温厚篤實公共心に富む、日露戰爭當時同村々長として後援事業に盡瘁多大の貢献あり、文久三年九月の出生なるも心身共に强健にして、尙ほ市政壇上に起つて活動す可き資力充分なり。

△石井政太郎君

資性温厚なるも才畧ありて政友派一方の重鎭たり、始め自治派の名士守屋氏が第四區二級より出でたるに對戰して之を破り一時同派の策戰を混亂せしめたるに徵するも、君が聲望の凡ならざるを知るに足る切に好漢の自重を祈る。

原專遺君　山川吉右衛門君　守屋此助君
柴田基二君　大山三四郎君　小岩井儀八君
赤尾彦作君　石井政太郎君　堀四郎君
今川幸太郎君　箕輪半藏君　田邊郷左衛門君

△伊東三省君

活氣旺溢、滿々たる覇氣眉宇の間に現はる、新議政壇上侃々の論議が政友派の一角より起ると見る

とき、君が熱辯は火と爲つて現はるゝの時ならん、儻に市會の名物男とし異彩を放つべき一人は君ならずんば非らず。

△今川幸太郎君

敬神奉佛の念厚く、多年國柱會に精神の修養に怠らざる程ありて、謹厚にして節義を尙び、當市稀覯の好紳士たり、出でゝ市政壇上に立つ市民の意を强ふす幾許たるを知らず。

△原　專　造君

君は前半生を兀々として實業方面に沒頭せるも、時代の要求は君を驅つて新生活に入らしむ、君たるもの市民の翹望に孤負して可ならん、君我市の二大事業たる瓦斯、水道に大なる抱負ありと、刮目して君の手腕に待つ。

△大貫榮太郎君

君剛直竹を割るの概あり、嘗て埋地義會を唱道し市民を驚して埋地鎭臺の名遠近に喧傳せらる、第二區一級より推され自治、中立の錚々人物を破り最高點にて選出せらる、將來の活動注目は値ひす。

△小野紫郎君

君はY校出の人其堂々たる風彩と、信用ある智識、財力は衆望の推す所と也、第四區三級に於て、政、中を敵手として奮闘せしが最大多數を以て當選の榮冠を戴くに至れり、君亦未來ある新市議の一人たるを信ず。

△大山三四郎君

淸廉潔白衆の畏敬する所たり勁敵田澤氏を斃したるに見るも君が潜勢力の大なるを知る、市政刷新の急先鋒を標榜する君にして始めて意義あり、須く奮闘す可き也。

上郎清助君　佐藤政五郎君　岡部菊太郎君
中山沖右衛門君　伊東三省君　大貫榮太郎君
鍔部朝之助君　湊野伊作君　川端彥三郎君
小林九藏君　高橋戒三君　上保慶三郎君

多年扶殖せる勢力と修養の効果は今回の市議戰に遺憾なく且つ容易に君をして市會に其抱負を發現するの機會を與へたり、機會は作る者の爲に與ふてふ眞理を君に依つて實驗したるを多とす。

△小川助五郎君

君は當市辯護士會の長老にして法曹界の耆宿たり、寧ろ其雌伏の永きを市民は怪しみたり、今回の市議戰に中立を標榜して起ち、政、自兩派が多年築造せる第二區の地盤を崩壞して悠然勝利を收めたるも怪むに足らず。

△太田莊九郎君

新議員異彩者の圈内に入る可き君は、羅紗商にして魯西亞通を以て聞ゆ、吾人は君の如き新鮮人物が續々我市會に入り、陳敗の空氣を排出するに至りたるを欣幸とするもの也。

△上保慶三郎君

△川端彦三郎君

君も亦政友派中新進人物の一人也、埋地を根據とし其颯爽たる英姿を陣頭に進め叱咤號令雌雄を一擧に決したる武者振を追想するも、骨鳴り肉躍るの感あり、偏に君の自愛を望む。

△堀四郎君

選擧前夜忽然として名乘り出でたる君は、迅雷耳を掩ふ暇を敵に藉さずして凱歌を奏せり、然れども是を以て單に神謀鬼策の適中とのみ斷す可らず、思ふに君が平索の修養殖德の致す所ならん。

△高橋戒三君

戸井嘉作君　矢野帖義君　小出鉀太郎君
織戸瀧之亟君　田邊幸七君　惣那惟次郎君
中瀨新八君　深澤治作君　和田家作君
田中八十吉君　太田莊九郎君　森市作君

前代德藏氏の殘したる巨萬の富を繼紹したる君は、法律學を研究して銳意社會國家の爲め貢獻せんと試みたり、衛生組合長の微職も爲に厭ふ所に非らず、左右田銀行の出張所主任も避けずとせり、吾人は君が忠實なる犧牲心あるを喜ぶ。

△田邊郷左衛門君

君は市議として新參なるも横濱村以來の舊家にして、蚤くも縣議として聲望隆々たる人、自治の根本たる市政の上に更に抱負を披瀝すべく立ちたる意義を壯とし、吾人は多大の望を君に寄與して已まず。

△淡野伊作君

福富町の淡野簞笥店、横濱名物の一なるを知る記者は、淡野君の人格、識量の凡ならずして、我市政の上にも更に一大名物たるを想はずんばあらず、淡野君たるもの、到る所可ならざるはなきを實現せよ。

△中瀬新八君

質店としての中瀬君は公人としての中瀬君たりや、蓋し少壯、氣慨、職忠等の平生は能く君の將來をトするバラメートルたらん、君たる者記者の觀測を過らざらしめば幸也。

△忽那惟次郎君

三年鳴かず蜚ばず的に、暫く實業の陰に身を潜め居りたる君は、時運の旋廻に伴れられ、更に公生涯に入るべく餘儀なくせられたり、思ふに君が資質と運命は到底平凡生活の持續を許さざる也天の與ふるものを取らざるば罪也、君奮起して可也。

△山川吉右衛門君

君は碍子の重鎮で土着の名望家である、資性剛直にして清廉、今の市議には珍らしき異物である、是又糙に新議中の異彩として輝を放つべき一人であらう。

三宅磐君　小川助五郎君　森田伊助君
川本多吉君　海老塚團議君　平沼亮三君
小野紫朗君　小西叠藏君　石井清一郎君
池田勝次郎君　清水清兵衛君　朝田惣七君

△深澤治作君

君は下駄商の巨頭所謂奮闘的成金の夫れである、意志强堅稀に見るの人也、君は例の家屋税輕問題等を提げて市議壇上の人と爲れり、思ふに其實際的經濟策の豐闊なる恐く君に優る人無からん。

△小西豐藏君

小西綿店の名は市内に喧傳せらるゝ舊舖也、君は軟かなる商買柄にも似ず、豫備陸軍中尉の肩書を有し、更に市議壇上に其唯辯を皷するの人と爲れり、動もすれば軟風競はんとする議場に、武人氣質の君を配する大に妙ならん。

△小林九藏君

横濱薪炭商組合長として共助互援の方法を講し、一面斯業者の宿弊を矯正するに偉動あり、所謂新市會の異彩者たる一人として吾人は其將來に囑望する所多し。

△朝田惣七君

君は當市成功傳中の一人たる故又七氏の嗣子也、其聰明にして敏活なる點は慥に故人の血を受けたる認をむ、蓋し公人として世に立つに至りし君の前途は多幸なりや、一に繫つて君が行藏趨舍を愆らざる腦髓の働き如何にありて存す、君夫れ一倍の自重なくして可なんや。

△三宅盤君

新選議員中の自眉たる君は、其雄辯に、其健筆に、其識見に於て新市會の花形として市民景仰の的となならん、記者は我同業者より選出せし君あるを誇りとするもの、君請ふ自愛せよ。

△柴田基一君

法學士辯護士たる君が敢て黨派的羈絆を脱し得て、市議壇上に其自由の抱負を披瀝し。無比の經綸を策畫するに於て、我市會塲裡に一段の一光彩を放つに至らん。

△森市作君

市內壽田に豪嘯して中島信行、松田正久等の名士と交り盛に民權論を主張したる、故市左衛門氏の嫡統たる市作君の血管內に流動する血液は、ヤハリ市左衛門君の血液が混じ居るの觀あり、君が同情

友愛、義侠の美德が軆で恁麼に發露する哉。

◉臼井伊三郎君

△溫厚篤實なる請負師▽

土木請負師?! 聞くから既に倶利伽羅紋々の粋俠な肌に、大縞の褞袍を想像させるが、是は又意外にも變則なるべき一人を我橫濱に發見したと云ふのは餘人でなく、當港切つての大立物として高島、原木の兩君と比肩する臼井伊三郎君其人である、君は福富町河岸に赤煉瓦の堂々たる事務所の奥まりたる一室に何時も清灑したる地味な扮裝に端然と身を堅め、其福德圓滿にして嫣婀たる委體を安樂椅子にもたれて技師や事務員を指揮する大將振りは、恁う安價に見濆しても從五位勳四等貴族院議員某位の品位と貫目を有する好紳士であつて、徹塵正則の請負師肌を見られぬのである! 夫れも其筈で君が前身は由緒ある武士の流れで嚴格なる家庭に人と爲り、靑表紙披いて、輪講の席上チャンと袴の上に手を控へた修養の齎らせる効果であらねばならぬと思ふ、君が斯業に從事して已來二十有餘年大工事に成功したるもの枚擧に遑ないが、最近僕が親く見聞したる工事中で昨年未竣成したる花咲町の難波病院の夫れの如きは工費と設計と出來映との關係に寸分の申分なく君の手腕を領頸かせる一證であらう、君は他の請負師のやうに一六的に多賣主義を取ることなく、貪らざる代りに損せざる信條を一貫する所に特色があるので、世間一部の盲目者流が頑壁過るとの非難は請負師の弊を知らない淺薄

の批判で取るに足らん、僕等は君が堅實主義の一貫を極力歡迎すると同時に、君を吾國請負業者の模範者と推賞するに聊かも躊躇せぬ。

特に君に敬服すべき事は、能く儲け能く散じ、餘利あらば、慈善的若しくは公共に關する事には卒先して淨財を投じて吝まぬ、彼の成金輩が自己の虛榮と耽樂の爲めに一夜に千金を擲つが如き無益の散財をせぬ代りに、灰吹的主錢奴の樣に唯溜主義に陷らざる所に君の完全なる人格が現はれるのである、畢竟君は職業に似合ぬ人格を保有するは武士的修養より來りし重義心と、日蓮宗の堅き信念より出發する慈悲心不退意の流露したものであると思はる、冀くは好漢の自重を望む。

◉永田秀次郎君

味噌の味噌臭きは眞の味噌でない、其味噌臭を脫した所に甘味があるとは、某禪宗坊主が悟つたらしい言分だが、僕は今の官吏社會で而も最も官臭の紛々たるべき位置にある、永田現警保局長こそ其臭氣の少ない人の一人者であると見た、僕が君を知るに至りしは極く最近ではあるが、其障壁を設けずして快談を縱橫する所全く官人とは思はれぬほど、廣寬で大量で平民的で博識で、有趣味である、僕が或時足下は近き將來の次官の候補者であるとやると、彼は呵々大笑して『君人を馬鹿にしてはいかんよ？ 吾輩恁ふ見えても明治見だよ次官の樣な女房役の隱居仕事が出來るもんかねー、僕は一屬僚でも一局の責任者を以て任ずる方が寧ろ面白いと思ふねー、蓋し國務ノ大臣なら此限りにあらずかね?!アヘハー、と云ふ調子に大きく洒脫した所がある、僕の見渡す限り或る程政黨にも官僚にも學者にも大小大臣の卵は澤山ある？が然し夫れは皆孵化の出來ぬ未熟か腐敗した卵であるやうだ、然らざるも纔迄行つて斃死しさうなヘナノヽ卵丈りで深く囑望は出來ん、昔者唐人が一將は得難く萬卒は得易しと云つたが、慥に苟も一國の大臣而も未來の宰相大臣の器を物色すると劫々帶に短し襷に長しで適任者を得る事は難いやうだ、彼が鷹揚て小事に躊躇せぬのは家計が豐で唯一サラッーを當てにする、

所謂生活の爲の役人と異なる懸隔があるにも依るであらうが、又氣宇の大と器局の宏との天質に出るものと思ふ、彼が今春の總選擧に臨むや頗る興味ある筆法を以て各地方官や警察官を督勵して取締らせたものだ、先づ彼の言辭を収縮して見ると斯ふである『政府が議會を解散して信を國民に問ふと云ふことは取も直さず選擧に於て政府の與黨を多數に得ると得ざるとにある、故に政府は自己を辯護し自己を理會せしむるに全力を傾到すべき

永田秀次郎君

は勿論であるべきであるが、其手段方法には一定の法則と不侵の畛域があることを忘れてはならぬ、由來政府の干渉とか非立憲的とかの非難を蒙りし跡に顧ると内には的外れの非難も少なくないが、又當局者にも缺陷が無いと云ふ譯にゆかぬ、況や直接法に依り取締の任に服する地方官吏たる純然たる事務吏に於て哉、政府が秉公持平主義の標榜は一に懸つて地方官吏の行動如何に依り貫徹せらる云々』之が當時警保局長の大臣格訓示として有名なものであつた、彼が官僚畑の異物たる獨り日常の言動のみでなく、其經歷に於ても異材である、彼は當然法學士たる肩書を有する運命を捉へて居りながら、其名を棄てゝ其實を取るべく既に高等學校時代に大學以上の學力を得て高等文官試驗に及第して早くも社會活動の人と爲つたのである、彼は學校を出ると一時鄉黨の懇請を容れて銀行の取締役と爲つて新智識を遺憾なく發揮したこともあるのである、夫れに彼は學生時代より文學趣味を解し、雅名を靑嵐と號し今の虛子等と盛に新俳句を皷吹したので斯界の一方の雄將たる資格を有して居たさうだが、官吏生活に入るや斷然作句を廢絕したとのことである、其廢絕の理由は斯うだ——嚴格生活と風流事何うも反りが合はんからね——嗚呼未來の大臣切に自愛せよ。

（新六、十二、二十五）

◉安藤市長と語る

市會議員の選擧を目前に控へ、且つ市長自身の任期も此處三月に迫り居る、横濱市長安藤謙介君昨今の消息を知るべく記者は一日市廳に訪問した、恰度サンデー時とて君は仕出屋二十錢給位の辨當を喰く付最中であつたが、野人禮に嫻はぬ記者の事とて無遠慮に市長室に通ると、イヤ失敬ドーも此役所に食堂が無いので誠に這う云ふ塲合に來客に對し失禮すると、記者の陳ふべきことに先鞭を着けられたには圖々しき記者も聊か恐縮の氣味なきにあらずであつた、羽織袴の質素なる扮裝ながら廣面巨眼儼乎たる態度は流石昔し取つたる杵柄の檢事正たる俤が偲ばるゝが地方長官と爲つて數々野武士共に苦しめられたり、市長となつては駄々子の世話を燒かせられたる經歷が自然圭角を擦り落して別個福德圓滿なる人格を形成したるかの觀がある、……給仕々々お茶を上げろサーこちらへ……何うですな此節は節季、政治シーズン、君等の畑でしやう……何に市會議員の選擧！市長任期滿限！に就ての感想ですか?!と追が自己に關係深き問題に逢つては開き直つて『光陰矢の如し我輩市長に就任して滿四年の任期を餘すこと僅に三ヶ月となつた、此間比較的市政の上に大問題も起り、特に歐洲大戰より受くる經濟界機處の指導等の大任務もありたるが、兎に角大過なく今日迄漕ぎ着け來れり、始め我輩

の就任するや主として政友系の人々より推選せられたるより市民一般の感想は我輩が政友派の爲に働くものと見たるは無理からぬ推測ならんも、我輩が一度市長の椅子に据はるや毫も一黨一派の爲に偏倚せず、市民に接する一視同仁極めて秉公持平主義を以て終始したるより甚だ豫想に違ひし感に打たれるならんと思ふ、然れども靜思沈考すれば敢て我輩の態度を怪むべきに非らずして寧ろ當然の皈趣である、語を換へて云へば平凡の順路を踏み來りたるに過ぎぬのである、我輩素と黨人に非らざるも政友系には深き緣因を結び居れり故に我輩をして中央政治の上に於ける色彩如何と問ふものあらばオフコース政友派と事を與にするならんと答ふるに躊躇せざるも、政黨關係と地方自治とは自ら別個の問題たり、之を混同するの弊毒は從來我國の一大病患たるを知る我輩は横濱市長たる自治機關たる以上此弊患に陷るの愚を敢てするに忍びんやである、元來我輩は何事に依らず自己の理想は出發して自己の立塲と職責に省念するを常とする、一時の毀譽褒貶の如きは何かあらん、人爵重祿元より望む所にあらず、所謂人事を竭して後天命を知る的の覺悟を有せり、曾て我輩外務省の一屬官たりし事あり當時某顯官我輩を拔いて工部內の奏任官に推挽するありたるも、我輩は永年露國に遊學し外國事情に通ずべき多少の知識を有したるを以て外務省の屬吏に甘んじたるも、更に無知識の工部省に轉官するは、一身の榮達を望む上には好都合なるも責任觀念より我輩の忍ぶ能はざる所として謝絶せしことあり、又我輩當市長として輕井驛の邸宅より登廳するに馬車に乘じ往復するを常とするが途中供待の車

夫や人足共の勞者働は素より小學通の兒女等迄敬虔の體にて禮をするに對し一々丁寧に答禮するを例とせり、傍人より見れば一種の虛禮とするものあらんなれども、我輩を以て見るに、無智の勞働車無邪氣の兒童と雖も市民の一分子にして、而も其市民が保姆の役目を帶ふ市長に敬意を表するに逢ふ慇で歎んで之に應答せざるを得んや、我輩の責任觀念と一視同仁の理想は斯る場合にも表現するのである、我輩多年俸祿に衣食したるも子孫の爲に美田を買ふやうな念を起さぬ、生計費に餘裕があれば何等か公益に爲るべき方面に投じ自らは淸貧に甘んじて居る、天地は宏遠で世界は悠久である橫濱の一小天地何かあらん、況して市長の椅子執着するに足らんやである、我輩は職責は重んずるが位置には執着せぬ、若し我輩の市長たる四年牛涯にして市民の歡迎せられざるものとせば夫れまでのこと、我輩の繼續すべきや否やは一に我轟の意志と市民の意志が合致すべきや否やに因つて岐るゝの外はない我輩は敢て求めもせねば又拒みもせぬのである』と意氣頗る軒昂たるものであつた、記者が失禮ながら貴下は其經歷より推すと官僚畑の人と思ふが政友系と緣を結ぶに至りたる原因如何との間に、善哉々々問也と云ふ態度にて『彼の三十七八年日露戰役に當り愛媛縣に露軍の俘虜を收容した、其時我輩は檢事正であつたが時の內相芳川伯より、俘虜取扱の良否は將來我國の信否に關する重要事なり、宜く露國の國情に通ずる適任者を得ざる可らずとの理由にて、我輩に同縣知事たる懇命あり、我輩も多年官費にて露國に遊學せる國恩に報ゆるは此秋なりとの意にて之に應じ司法官より行政官に轉するに

至つた、然るに戰事々務は幸に大過なく終了したが、扨て戰後の經營と云ふ大問題が橫つて居るのに氣付た、我輩は同縣に最先施設せねばならぬのは、交通機關の完備であると大に考案を周らし殆ど、成案せんとする間際に桂內閣が瓦解して、山本內閣が成立し原敬氏か芳川內相に代はつたのであつた、我輩は直に原內相に會して我輩の戰後經營案を具して陳述する所あり、且つ附言して愛媛縣下の狀勢は政友、進步兩黨の軌轢甚しく縣政の凡てが黨略の具に供せられ、其理非利害の如きは措て論せす政友會の是とする所は進步黨之を非とし、進步黨の賛する所は政友會之を否とすると云ふ有樣なれば、今回我輩の書策する交通完成案の發表するに至らば何れか之に賛し何れか之に反對すべきを豫想するに難らざるを以て、此發案には我輩大々的決心の存するものあり、閣下は政友會の黨首たる關係上縣下政友會が我意見に反對することもあらば如何なる處置に出づるや』と問ふた、這が原氏であつたよ!!!言下、地方長官が自己の權限にて施設書策することに中央政府の干涉すべきものではない、況や政黨關係を自治の機能に及ぼす如きは余の甚だ欲せざる所也、須く君は君の與へられたる權能に依つて充分其職責を盡して可なりとの』言質を得たるを以て我輩は彌々之を縣會の問題とせしなり、果して輿論？否黨爭は此問題に依つて起つた、而も幸か不幸か同縣に於て勢力あり縣會議員數に於ても優に二名の多數を制する政友會は我輩の起案に賛成し進步黨が反對するに至つた、素より一方の反對は豫期する所であつたのでドン〳〵其計書を遂行すべく努力中、再び內閣は交迭せられたのであつた、然る

に我輩を政友會派のものと視たものと見え、大隈内閣は能く其眞情をも調査せず交迭と同時に我輩を馘首した、是れ地方官を内閣交迭に際し免黜したる嚆矢である、其後同内閣の瓦解するや原氏は再び内相の地位を得ると與に我輩を推擧して知事に任命したのは我輩が曩に政黨關係者と誤認せられ大隈内閣の爲に馘首せられたるを氣の毒に思ひたるならんと考るのである……斯る事情の徑路を經て我輩を更に政友系の人と見たものか、同派の市民より推薦せられ當市長に就任するに至つた譯であるから、我輩は決して政友會員では無いが又萬更緣故がないでもない、特に我輩も血性ある男である、芳川伯や原氏の知遇には感激の情あるもの、安藤謙介としては所謂知己の先輩として仰ぐが故に、出京でもすると兩氏を最先に訪問するを常とするのを見て、黨人等がいやに邪推して芳川の乾兒とか原の腰巾着とか云ひ囃して居るのである、結局我輩は奇なる運命にて政黨嫌でありながら政友會の爲に舁ぎ上げられた姿となつたものである云々』とは君が僞はらざる公明なる告白であるやうだ……『市會議員の選擧に對しては素より公正にして不偏と云ふ外何等語るべきものがない、前にも述べた如く市長としての我輩が市民を視る貧富貴賤の差別かあるべき筈なく況して黨派の爲に羈束せらるゝ樣なる薄志弱行の我輩でないよ』と滔々盡くることなき眞摯にして飾りなき談話に記者も遂ひ引き入れられ飯期を失し居たるに、給仕が參事會開始を報し來りたるを機として辭去した。が記者が別方面より探査する所に依ると、實際彼は其人格と云ひ、經歷と云ひ、識量と云ひ、我市長として寸分申分なき適

北彊文集

任者であることを知得したのである、君は熊本の微賤なる百姓の家に生れたのであるが、當時階級制度の嚴重なる際に方り十八才の歳に同藩の藩校に敎鞭を取り十分以上の取扱を受くるに至つたと云ふに見るも、尋常一樣の男子でないことが分る、而も彼が遠大の志望は斯る位置に滿足すべきでない、十九才の時に出京して有らゆる苦學を積み、遂にニコライ教會に入つて魯國に遊學し宗敎家となつたのである、思に彼が意志の强堅なると同時に慈悲心に富む今日の素地は宗敎的修養の然らしむる所ではあるまいか、彼は元來勝海洲に師事し之に私淑したやうだ、彼が書生時代眷々服膺した敎訓は有名なる(1)菩薩(2)蝮(3)枳殼の三條で今に其感化が大を爲す素地となつて居る、彼が一面に剛毅跌宕の氣あるに反し、一方に慈母的仁慈の心に富む美德もさうである、彼が直近者は云ふ『實に安藤市長は豪い、マー古今の英雄豪傑に比すると伊達正宗でしやう、其豪放にして細緻、其機智にして眞卒、其果斷にして眞直、其傲驕にして仁慈なる點は實に獨眼流ソツクリである、誠に一橫濱市長としての人物には惜しき人である云々』と記者は其過褒であると否とを吟味せぬが、兎に角彼は橫濱市長として當今得がたき傑物であると認定して憚らぬのである、論より證據彼が就任以來到底人眞似の出來ぬ功績を擧げて居るに徵しても分る、彼は當市の多年の懸案たる市の運命に繫る程の重大事案五つを成功した、第一には外國人の市稅徵收を處置した、第二には築港問題を處理した、第三には水道瓦斯の難關を決議した、第四には水源地百年の大計書を斷行した、第五には英國の輸入禁止令を解除した、是の五大

事業の善果を收めた彼が偉績は市民否な日本國民は如何なる强辯を以て之を拒まんとするも、事實と具體が證明して許るさんのである、記者は敢て彼に恩怨もなければ緣故も無い、唯だ此場合彼が市長としての適否を勘查するに公平無私なる立場を維持する記者が、公平無私なる觀察を彼に下すべく此記事を爲したに過ぎぬ。

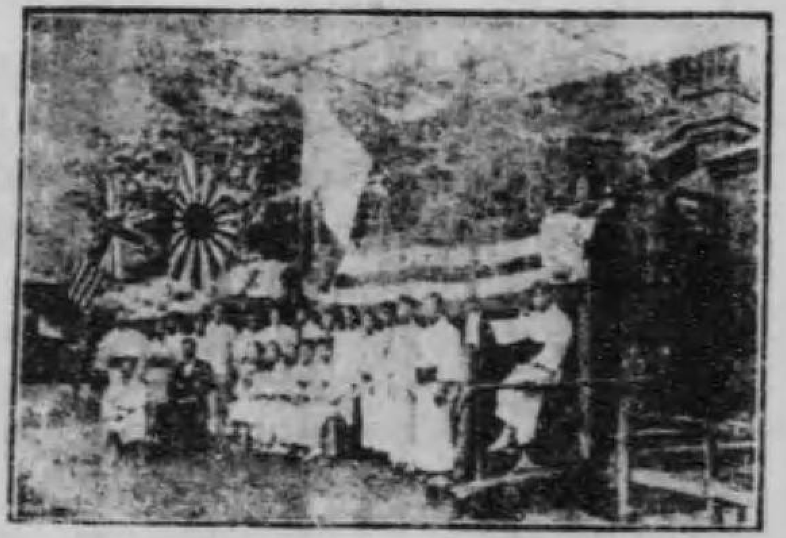
◉吉田豊吉君

『良き品を廉價に賣るが名代とて、人も洋酒は尾張屋の店』とは六石運人が吉田君の經營せる、尾張屋洋酒食料店を其の輕妙なる筆を以て表現し盡したものである、實に同店は横濱での老舖で綿々として盡きざる信用を持續するのは、六石運人の所謂、良き品を安價に賣ると云ふ商訣より出づる、同店の繁昌記の一頁であらねばならぬ、君は明治十六年生と云ふから未だ不惑にも達せざる血氣盛り、而も夙に横濱商業學校にて新知識を養成した丈けありて、老舖に免れ難き守舊の氣分微塵もなく、潑溂たる生氣を常に全店内に滿たして居るのである——大日本麥酒會社代理店、サンラヘール葡萄酒の特約輸入元、其他ウヰスキー、ブランデーの如きも知名の外國釀造元と特約輸入する手廣き營業を一身に引受け、更に山下町に雜貨店を特設しての八面六臂的の活動振は實に目醒しきものである、夫れに父祖時代より店員を遇することの厚いのも同店の一美習で、旣に店員にして其庇護の下に名を成したるもの尠なからずと云ふことだ、未來ある君が前途は誠に洋々とし春海を望むの觀ありと云ふべきである、君たるもの大に自重して可なり。

（靑、六、十一）

◉岡澤辰次郎君

君は當港の名士故脇澤金次郎氏の二男で、本邦西洋洗濯業者の鼻祖たる伯父に當る故岡澤勝五郎氏の養嗣子として伯父の箕裘を襲ひ最も完備せる施設と確實なる經營振りを以つて盛大に營業を繼紹して居る、特に君は父君の血を受けたる明敏なる頭腦を有する外に、道が名士の後たる高潔なる人格は獨り斯業界に重を置かれ居るのみでなく、立派なる紳士として市民の景仰を受けて居るのである、現に同業組合を組織して惡風の矯正、相互の親睦等に盡粹して其組長に推され、又元町外三ヶ町區會議員、元町小學校商議員等の公務にも就て居て、縣市會議員にも慫慂せらるゝこと屢々あるも謙柳して先輩に讓ると云ふ風に、終始紳士的態度を失はぬのである、蛙の子は蛙と云ふことがあるが、名士の子はヤハリ名士であらねばならぬ、眞に職業の貴賤は其稟性を傷くべきでないことが知られた。



岡澤長次郎君及店員

（新、七、四、）

刀圭界の部

◉醫學博士大野禧一君

【上】

由來横濱市には醫學博士として獨り難波博士あるのみであつて、大都市の横濱としては物足らざる心地せしが、玆に先月十六日を以て發表せる新博士中に君の名を出したるは快心に堪へぬ、君は熊本縣士族であるが朝山ドクトルとの深き緣故を以て當市とは離れ難き關係を保ち現に横濱海員掖濟會病院長として本牧町七百番地に新邸を建築し永住的根據地として居る、且横濱市肺結核療養所が近き將來に設けらるべき其所長の最適任者として候補者に內定したさうである――而も世間にては、今日まで隱れたるこの新博士の技倆人格に就て知つて居るものは誠に少い。記者が今日迄知り得たる範圍に於ては醫界に於ける相當の人格者であり拔群の技倆を有する醫者兼實地家である、君は當年四十一歲の男盛り三十五年帝大醫科卒業後比島總督タフト氏に聘せられ、比律賓總督府國立研究所部長に任せられ、總督府病院及ビリビッド、監獄病院臨床部長を兼掌して令聞があつた、四十五年歸朝後大學院に入學して肺結核及熱帶病の治療に關する研究に專從し、大正三年横濱掖濟會病院の囑托を受け傍ら實驗治療學を研究して居る。博士は語る……『多數の人は診斷が困難であつて診斷さへつけば治療は

デキ出來る樣に思つて居るが、これは非常の間違ひで、診斷は聽診する打診する獨診する、尿便喀痰血液の化學的顯微鏡的微生物學的檢査を施し、これに更ぬるにX光線透射を行ふ等近世醫學檢査の總てを盡せば（其の人の耳と指先きとの感覺が普通より少し善く且つ慣れて居れば）近世醫學の及ぶ丈けの診斷はつくもので、若しつかなければ新しき疾病の發見となる譯であるが、實際は診斷がついても如何にして如何樣に治療するかゞ問題で、個人の體質疾病の併合具合、心藏腎臟膓胃肺や神經、腦の弱り加減、老齡に於ける血管の硬さ加減等に於て者量を拂ひ巧みに治療すべきであつて、これが亦非常に六つかしひのである、頻死の病人にしても、ソレ〳〵の藥品と治療とを與へて、生死を自然の經過に任すといふならばイザ知らず、自分の親の樣に念ひ、子の樣に思ふて是非治ソオとしてこそ、そこに非常の努力が顯はるゝ譯で、臨死期病理の上よりすれば頻死の病人でも半數は回生の方法があり且つあらねばならぬ譯である』とは博士の固い信念である、博士が發表せる『臨死期病理學の組織』の大文字こそ其信念の發露であらねばならぬ――其の人格の卑しからざる一證左とも云ふべき美談は得意の起死回生の妙手によりて治癒したる幾多の患者が謝恩の意にて現在の家屋を建築して寄贈せんとせしに、博士は之を固辭したるも再三の懇請に已むなく其厚意を受くるも無償にて贈與せらるゝを屑しとせず、建築價格五千圓と見積り之に相當利子を副へ月賦にて讓り受けることゝせば、其厚意にも背かず且つ自己の志を完ふする兩全の策なりとし斷しが釃り、今に月賦の義務を果して居ると云ふことである。

（六、八、四）

【中】

前項に於て博士の閲歴、技倆、人格の大體を叙述する所あつたが、該記事中『臨死期病理學組織』に關する一項は醫學界破天荒の大問題たるのみでなく、實に人間の延壽長命に繫はる重大案であるから、訪問記事を爰に記載することゝした。

大野禧一君

本問題に入るに先だち一言叙述せんければならぬことは、博士が立派なる内科醫であるか上に、一方には血清學の大家であり、又一面には黴菌學界のオーソリチーであると云ふことは、博士の内科醫たる價値に於て人の評判を誤らして居る樣であるが、這は恰も森鷗外博士が一大文藝家である爲に、衞生學上一大博士であることを世人より知られて居らぬと同樣である、博士は元來の素地か内科醫であるは勿論だが、博士の天才的博識と其努力の產物として血清、黴菌の兩面にも内外に喧傳せらるゝ程の名手となつたのである、左れば京都の内科より轉じて内務省傳染病研究所に入るや、黴菌學專攻の傍ら疫痢病室の主任と爲りたる際の如きは遺感なく其の妙手を發揮し、該室の患者は一人も死亡せしめなかつたと云

ふ一事は當時所員を驚嘆せしめたのであつた、次で比律賓總督府研究所の血清部長として招聘されたが、博士が内科的技倆は此處にも現著して忽ち擢んでられて、總督府病院及監獄病院の臨床部長を兼任せらるゝに至つたのでも分るし、又歸來横濱海員掖濟會病院の内科を擔任するや部下醫員等は其該博なる學識と實地の妙術は嘆賞の聲を吝まざるのみならず、忽ち其實力は遠近に喧傳せられ、未だ開業はせぬが、或は開業醫たる主治醫の紹介に依り、或は諸種の縁故を辿つて來つて治を請ふもの殆ど斷り切れぬ有樣であるに見るも、博士の内科的妙腕の一班を窺ひ知ることが出來る、記者が實際に探り得た難症瀕死の患者で主治醫より駄目だと死の宣告を受けたもので恢癒根治した數も夥多ある、中には其報恩の意義にて巨資を投じて博士の爲に一大病院の建設を乞ふものがあつたが、博士が燃ゆるが如き熱烈なる研究心を支障するとあつて之を謝絶して、專心結核、熱帶病、老人病、臨死期病理の研究に沒頭して居る。

記者は一日『臨死期病理學組識』の何たるものなるやを聞かんが爲め、本牧の新邸を訪問した、書齋兼應接室とも見るべき一室に通されて、先づ驚かされたのは書架と云はず、卓子と云はず、和漢洋の書籍や雜誌が堆高く室内所狹しと積み重ねられてあるは、マー學者の書齋として良いとして、仔細に夫れに目を通すと歐文の方には英、獨、佛の醫書の大部分を占めて居るは勿論だが文藝、哲學、宗敎に關するものも少くなかつた、特に目を惹いたのはオイケンやベルクソンやトルストイの哲學書と

縮刷大藏經に自治軒古文選、曾國範文集等であつた、能くも這んなに目を通す餘裕があつたものであるとほと〳〵感心してしまつた。

後で聞くと博士は英、獨、佛、西の四ヶ國語を研究し特に英文には得意であるのみならず、哲學の造詣も淺からぬと云ふことだ、博士はでつぷりした體軀に落ち着いた動作も調和して學者らしく、始終愛嬌ある眉目を記者に注いで諄々として語るのであつた『臨死期病理學の組織ですか!?ソウですな是は御說の通り重大問題ですが、簡單にいへば凡そ病氣の原因には種々ありますが、其原因の爲に死を招くには共通したる點があるのです、此原因の本體を究明して患者を死の魔手より脫せしめるのが所謂私の主張せる臨死期病理學の目的なのです、普通民間に知らる死の原因は(一)心臟麻痺(心臟の永久停止)(二)肺臟窒息(呼吸の永久消失)ですが、醫學上に於ては死は斯く簡單なる原因で行はれるものではないのです、彼のカンプル注射の如きは死期に入る最期の手當に過ぎませんので、臨死期病理の司る所は夫れより遙に前にあるのです、結局身體をして死期に至らしめざる努力であるので、結果に對する處置で無く原因に對する手當であるのです、統計によりますと本邦人の平均死亡年齡は三十五六歲で、人生五十より少きこと十四五年とは心細き限りではありませんか。

今臨死期病理の闡明によりまして假に十年長生するといたしますと、五千萬の國民にて五億年の日子を贏ち得る勘定となり國民經濟上甚大の利益となりますのです——此臨死期の病理學の應用を完た

からしめんが爲には、一方には老人病學を展開し且つ一般の健康狀態其他異常體質等の本體をも明にして應用の固きプラットホームを得る事も必要です、老人は壯年者と違ひ其體質として容易に疾病に仆るゝのでありますから、此の老人病學を精査展開しなくてはなりません、又普通健康狀態と稱するものが頗る不安のものが多いのです、故に其狀態の檢索が民族の死亡率を減少せしむる上に非常に大切のものであるのです、私が患者を治療する塲合に於て、單に疾病を治療するのみで滿足せず、患者の健康程度を增進確保して再び疾病に罹らぬ樣にすることに注意を加ふるのです、是れ醫學の眞髓は病を治するよりも、より以上に病に罹らせざるにあるからです、斯くして本邦民族の健康程度を增進するには普通一般より建康なりと自認せられつゝあるものゝ缺陷を研究し之を平時に風俗習慣攝生營養の方法等に精査を加へ心身兩つながら健全優良なる大和民族を構成せんとする希望を懷き、專心其研究に從事して居ります、少くも從來の死亡率を半減し得らるべき確信を有し其成果を期し奮鬪を續くる積りです云々』と說き了り晴々しき博士の顏面には少しく緊張を見せ、深き決心と確信を藏する口元より敷島の紫煙が盛んに揚つた。

博士が技倆の非凡なる內外斯界の認る所であつて、昨年長崎醫專內科敎授に任命の內交涉があつたが、博士の抱負副はざりし爲め拒絕したとのことである、近き將來には帝大醫科に新設する講座を擔任するだらうとの風說もあるが、記者は斯の稀代の名醫を橫濱の地に留め新設せらるゝ肺結核療養所長として其手腕を發揮せしめ、傍ら內科の博士として市民と縣民との爲に起死回生の妙手に浴せしめて貰いたのである。

◉醫學博士難波要君

學問あり、技術も備はり、其上經營の才にも富んで居る、所謂三拍子揃の醫師は誰れ？との問あらば先づ何人も難波博士!!、と應ふるに異議はあるまい、博士が外科的手腕の優秀なる、醫學智識の深邃なるべきは今更評するの野暮天たるべく、遂ひ二三月前に有名なる野毛山病院より移轉したる、花咲町十丁目の改稱難波病院の結構佳麗にして、設備萬端の拔目なき他院の到底企及すべきでない、其建築に八萬圓の巨資を投じたと聞いて成るほどと首肯せる、

醫學博士難波要君

博士が帝大の出で野毛山病院を經營したのは僅々十三年に過ぎぬに、斯く偉大なる發達を來したのは固より博士の技倆凡ならざるに由るべきなれど、又其半面に經營の識才にも超越したる點が存することも認めねばならぬ、大概學才と世才の伴なはぬを常態とするのであるが博士に於て此のレコードを破られしやうである。

(新、五、八、五)

◉横濱刀圭界判評記

近來例の獨逸醫學士加藤時次郎と云ふ變哲者の經營に係る、救療所の爲めに大恐慌を來し、排斥演説だヤレ取消請願だと、哩々騷ぎ廻はつ居る蚤翠丸連の中心が横濱なりと聞いては、日本隨一の開港場の手前面白なきやう感ずるが熟々考ふると醫者と雖も一種の營業、門前雀羅を張るを厭ふは當然の人情で、商賣の敵の救療所排斥に顧顳靜脉を脹しての騷ぎは寧ろドクター社會、取るべき適切の手段とも思はる、醫は仁術など、云ひしは十八世紀唐人の囈語である、何んでも當世はウンと賣りウンと贏けるに限ると云ふのが、垢拔のした開港場式の醫者氣質とも謂ひ得る、横濱には所謂勤醫者と開業醫師とを問はず扁鵲と筍とを論せず、大小頭顱の數三百有餘ある、厚薄深淺の差こそあれ、多少なり開港型を發揮せざるはない、いざや是より此開港型の先生方を片つ端より剖見して短評を下して見ようと思ふ。

【一】

△飾らぬ男　長者町喜樂座裏の高橋五男也は、曾てペスト摘出療法を行て一時に名聲を知られた男、非常に研究心を有し且つ勤勉家だ、常に綿服の上に白の消毒衣を着て、兀々として患者に接して居る、

特に感ずべきは多忙の日時を割て、毎月一回自宅二階に於て傳染病の講話をやり、市民の衛生思想喚起に力めて居る只此男の缺點とも云ふべきは頑固で世辭に乏しい爲め、時々患者の我儘を云ふが如きことでもあると、容赦なく叱咤罵倒して假借せぬと云ふ風なので、技術の優秀で然も勤勉なる割合に、流行せぬやうである、しかし追々と商賣上手となり、開港型に嵌まりゆくに到ること請合なり。

△佛頂面の瑞碩　眞金町の樂眞堂の御大日高瑞碩は縣の警察醫や東洋汽船の船醫を勤め、花柳病と耳鼻咽喉科の技術には長けて居る、有名な佛頂面で薩摩兵兒丸出しと云ふ風に常に蠻聲を張り揚げ患者に接して居るが、其外貌の割にどこか親切な所があるものと見え、前の高橋に比しては繁昌する、此男を呼んで世人は廣漠といふ、記者は其何の由たるを知らぬ。

【二】

△無慘な殺し方　立川方鈴は大學別科の出、技術も滿更でなく頗る精勤者である濟生團神奈川縣支部院長として令聞があつた、然るに今回突然二百圓の涙金で追拂を喰つた、何の缺點もないものを俄に免とした縣廳の方針を世人は疑つた果してよく探つて見ると此男官海游泳の術を知らぬ結果と云ふことが知れた、其れは數々課長殿の門に伺候せぬ罪であつた、此立川に反し其位置を占めた竹村茂藏といふ男は、金澤醫專の出で技術に於ては前者と甲乙がないが、圓轉滑脫當世向の才子肌にして純開港型と云ふ噂さだから定めし課長殿のお氣に召すだらうと思はるゝのである。

△**現在式の男**　例の得田裁判醫の仕込だから、そつの無いのも無理ではないが、常に頭髮を刈立の杉垣が雨に逢つたやうに、綺麗に梳き分け藥籠中には懐中鏡に「コスメチック」に「バイオレット」水を缺かしたことはなく、其れにお世辭がよく腰が低く、風雨深夜の厭ひなく車に乘らず必らずテクで往診する、至極の御手輕主義と來ては技のどうの齢の若いのと論する迄もなく、門前市をなす現代式流行兒は伊藤小三郎と云ふ灰殼醫者である、記者は決して御手輕主義を擯斥するものではない、寧ろ商賣上手のやり方と稱贊の辯をドクトルに呈するに躊躇せぬが、ドクトルの如き若き未來ある人は、日進月歩の醫術に後れず、研鑽砥勵博士の論文でも提出して自己及社會の益を增進することにも、些と心懸けて貰ひたいと思ふのである。

【三】

△**見遁し難い人**　津久井の藪中から身を起し、從五位勳七等奏任待遇眞金町病院長と經上つた清水遂二は、此評判記欄內に見遁すことの出來ぬ一人である、此男年齢既に耳順に近いが頗ふる壯健で、色が黯く締つた口元にイガ栗頭を振り立て滔々辯ずる所を見ては什麼しても、醫者とは思はれぬ、夫れも其筈で曾て鄕里に居りし時分は永く村長を勸め郡會議員ともなり、津久井郡政界の牛耳を採りし中心人物であつた、隨て本職の醫業はそつち除けと云ふ有樣で、大分家產を揩り減らし遂に彼は一萬圓許りの借金が出來たが平然たるものであつた、親族組合等の止むるも構はず、ドシ〳〵傳來の山林田畑を賣飛ばし、綺麗に借金を方附け飄然として鄕里を辭して去つたのである當時彼の借金に對し藥價診療代の貸金も優に之を償ふに足る程あつたのであるから、之を整理すれば何んでもなかつたのであろうが、彼が氣質は貸金督促等をなすに餘りに不適當であつた、稜々たる俠骨は彼が生命であつた、身を殺して仁を爲すは彼が主義であつた、今に壹萬圓の貸金には振り向ても見ないと云ふ所に彼が眞骨頭が現はれて居るではないか。

【四】

彼は斯る氣風の男であるから人に頭を下げるのを嫌いだ、故に卒然逢ふと甚麼にも傲慢不遜の者と見える、彼は斯る氣質であるから開業醫には無論適せぬが、左ればと云ふて本職の研究を等閑にするやうなことはない、傳染病研究所に入り、帝國大學の講習生にもなり、孜々として研究を忘れぬのである、持に虎眼(トラホーム)の檢診治療には獨特の技を有し、近來斯界に於て最も困難とする、檢梅法に新機軸を出し貢献する所至大であると云ふことである、由來眞金町病院には弊毒充滿して居た、此硬骨に俠血の通ふ院長を得て始めて廓淸改善の緖に着くに至らん好漢自重せよ。

（靑、四、五、一）

【五】

△**野毛山病院**　市立十全醫院とは僅に數十歩を隔つる、野毛坂の中段より老松町の高丘に、巍然とし

て發ゆる幾棟の建物に、雅趣に富む宏壯なる庭園を繞らせる一構に、野毛山病院と標札鮮かに掲げ、市が巨萬の經費を投じ經營する、十全病院に對抗して毫も遜色なきのみならず、或る點に於ては寧於以上の設備あり實力ありて、門前常に市をなす盛況を呈するは、抑も誰人の腕になるものであろう、是れなん醫學博士難波要が獨力經營に係る金港無比の全盛病院の夫れである、一體難波博士は容貌を見ては、張子房の夫れならねど婦女子の如く怎にも温柔そうであるが、却々一癖ある氣骨を有するそうだ、稜々たる氣骨容易に人に下るを欲せず、一旦言ひ出したることは邁二無二押し通すと云ふ風である、特に權貴に阿附し五斗米の前に膝を屈する如きは到底彼の欲する所でない、博士が晩酌三杯耳熱するの時手拍子打つて會心の歸去來の辭を高誦するのが唯一の娛樂とすると云ふ一事に徵しても、略ぼ其心事意氣の一端を知ることが出來やうではないか、當然灰殼たるべき彼が或意味の蠻殼であることは、鳥渡變挺のやうであるが其處が彼の彼たる所以である、彼は確か三十二年の赤門出で四十五歲の男盛り別に是れと云ふ道樂もなく、孜々として業務に精勵して居る、大學を出てから直ぐ野毛山病院を經營し、三年前獨逸に留學し昨年歸朝後直に「人體精囊の色素並に彈力纖維組織に就て」と云ふ論文を提出し博士號を得たのである、故に官邊の經歷を有せず、始めより獨立獨行を以て貫きたる所に博士の偉い所がある、全く世辭のない所を云ふと博士は氣の人である、世人博士を因業人と評するが博士の因業こそ全く博士の眞價値である、博士は外科の名手である、實に切割剖開刀の冴え美事

のものである、技神に入るとは博士の手腕を稱して決して溢美でない、記者は曾て親友の直腸に腫物の出來たのを、魔醉劑をかけて手術を施したる立會人となり其の實際を見て以前大學病院にて同種の手術に妙腕を揮ひ名聲を博したる、某博士の夫れの實見に比し、遙に上乘の技倆あるを認めたのである、實に博士の外科は記者の淺見かは知らぬが殆ど古今獨歩のやうに思はるゝ、日本の一大通弊たる官尊民卑の見地より、勅任教授とか軍醫總監とかの肩書なき一平民たるより、案外技倆を認められぬのは時代とは云へ博士の爲め殘念に思ふけれども、飜つて士博自身に於ては夫れが反つて本懷かも知れぬ、無冠の帝王實力の覇者を以て任ずるのが、博士の眞意であろうと思はる、夫れに同院には本田、梅田、早川等の學士が、潑溂精鋭の氣を皷し院長を補佐し一歩も他に讓らないの意氣込凄まじいものである。

【六】

△**續清水達二**　前號記載の如く清水は鐵腕を揮ひ、弊毒の內外に充滿する眞金町病院の一大廓生を以て自ら任じ、山崎琴、水野鐵次郎、渡邊流策の三敏腕家を醫員とし、着々內部の改善を圖り渡邊を外科水野を內科、山崎を花柳病と、夫れ〲適材を適所に配置し、新に試驗所を設け血液檢査を創始する等、最新の學理と設備を怠らず其努力の功果見るべきもの鮮かである、只だ此處に清水の鐵腕も施すに由なき一大遺憾の事がある、夫れは前年縣制改正の結果として病院と檢診とを全く隔離し別個の

監督の下に置くこととし、檢診醫は衛生課直屬として病院より特立し、兩々對峙して讓らざる制度としたれば、檢診醫に其人を得ば精弊打破の良仕組たるを得べきも、例の定離發動課長のことなれば骨の硬き木曾を藤澤病院長に祭り上げ、清廉なる清水泰二を大分縣に追ひ遣り、後釜に揃も揃つて盲の杖なりとの評ある、東井、遠藤、石黒を据えたからたまらない、折角苦心の良制も清水の期圖も滅茶々々にされるやうだ、現に昨年一月二日の初檢診の時に北野課長立會にて行つた内に、一月樓の某娼妓を有毒と決定したるも、更に有毒の徴候なきより或開業醫に再診して貰ひたるに全く無菌なりと診定したるより樓主は大に立腹して北野課長に説明を覓めたるに剛腹なる北野も是には少々面喰ひの體なりしが、僅かに疑ひあるもの云々の規定あるを楯に其鋭鋒を避け得たることあり斯く不當と認むる程嚴密に規定を應用するかと見れば、某娼妓の如きは立派なる陰蝨あるも五回も見逭しの寛典に浴したりと、自ら吹聴し居るものもあると云ふ事實に徴すると、何が何やら由の分らぬと遊廓邊りにとり〴〵の噂は高いのである。

【七】

△**鵜君**　衛生試驗所主任の大川國五郎は聊鵜的な所はあるが好人物だ、其職務に忠實にして毫も衒氣がない、明治三十四年海岸十二番地の佐々木ヨシが、始めて本縣の黒死病（ペスト）患者と認められてより、其後數十回の同病發生に彼のたづさはらざるはなく、恐らく經驗家として將た熱心家としては天下一品だらう、或人『君のやうに毎日一室に閉ぢ籠つて顯微鏡覗きばかりして居ては隨分苦しいだらうねえ』と問ふと、彼は平然として『さうさねえ樂でもないが苦でもないよ』と答へたそうだ、何と面白い禪味を帶た言ひ分ではないか彼は嘗てペスト菌試驗中過つて試驗液を口中に吸ひ込んだことがあつた、道の彼も萬事休せりと思ひ、其罹病を豫期し自ら隔離所にて潜伏期間を徐かに過したと云ふ奇談もある、萬事のやり方が鳥渡瓢逸したる點が見える男である、彼は職務に對しては斯く眞面目に忠實であるが、一杯やると吃々と雄辯を振ふ、興至ると突拍子手な聲を張り、詩吟もし都々逸も唄ふ、前の北野とは性格全く雲泥の差がある。

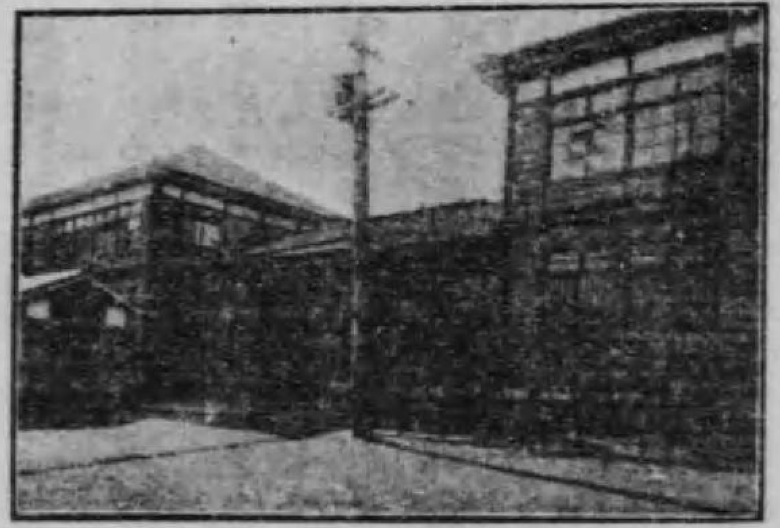
△**呟ヨカ**　末吉町五丁目に開業する柳田太之治は警察醫や東洋汽船會社の船醫を勤めた經歴を有する鹿兒島出身の俠骨ものである、丹次郎然たる名を持ちながら容貌は却々以て怖い、然し怎なる工夫のあるものやら、お職業柄小供には些とも嫌がられぬ、眼科と小兒科が得意で技倆も相當に認められる、夫れに此男俠氣に富み貧乏者であると一面識なきに拘はらず、藥價などに頓着せず呟ヨカヨカと快く投藥してやる、澆季の當世特に横濱斯界に實に得難い仁醫だ、界隈の貧民共彼を呼んで呟ヨカ先生と神の如く崇拜する由れなきにあらずだ、德孤ならず必ず隣ありとは斯う云ふことだ、彼が未來に益々幸多かれと記者は祈つて止まぬ、彼年未だ四十に達せず春秋甚だ壯なりだ、能く此上にも人格を磨き技術を練るに綽々として餘裕がある、彼の將來も又多望なるかなである。

（靑、四、六、一）

北　強　文　集

【八】

△市立十全病院　這が年々九萬圓の經費を投じ經營する公立病院だけありて、諸般の設備も充分に行き届いて居る、夫れに這回三萬餘圓の巨費を以て最高地點に在りし、雜然たる古建物を取り壞はし新に百名の患者を收容するに足る、惣二階建西洋館の病室を建て増し、此七月には落成すると同時に凡ての規模をも擴張整頓すると云ふことであるから、同院の前途は大に見るべきものがあろう、實は同院に就ては世間兎角の批評を試むるものがあり、一時病院廢止論さへ市民の聲として發せられたことがあつた、記者が公平なる觀察にても極端なる一部の中傷説は別として、是まで同院には滿足の出來ぬことが往々あつたのであるが、夫れは既往の事實で近來は其缺點又は弊害と認めらるゝ部分は、追々除去せられ改善せられつゝあることは又掩ふべからざる事想である。三年前同院改革の第一歩は書せられ、山根文策を院長に湯淺正義を事務長に改任せられたのが、抑も改善の曙光で進軍の初喇叭であつた、由來何れの團體的事業にも免れ難い一つの弊風がある。开は技術者と事務家との偏執より起る反目である。現に鐵道院にて此が爲に紛爭して世の嗤笑を招いて居るではないか、十全病院もお多分に洩れず醫員と事務員の間、兎角圓滑を缺き内紛を事として居たも



横濱十全病院

北強文集

のだ、然るに同人の就任と同時に此一大通弊は芟除せられた、這は湯淺の眞摯誠實と山根の寛厚容人の双美徳の然らしむる所であるが、亦兩名が病弊と自覺と責任を理解せる頭腦の明晰に歸せざるを得ぬ、湯淺は事務家として敏才たるに止まらず、經營者としても確に一隻眼を有する人物だ、論より證據で湯淺の就任日尚ほ淺きに拘はらず、七萬有餘圓の經常歲出入を均等し全く獨立の經濟を實にし、尚ほ優に舊債殘額三萬圓を向ふ五ヶ年賦にて償還の途を立つて餘力がある。新築の經費三萬圓の財源は不用地諸舊建物の賣却代金に依り鐚一文も借金等を爲さず、立派に遣つて行けるのであるさうだ、湯淺の事務的才能に勝れて居る一事は、病院にての通弊として其矯正に最も困難とする、看護婦の横着及醜行を屛止し、受附下足番の末に至るまで來客に接する驕慢の態度を矯めて一意親切叮嚀に遇せしめ、本年四月より賄を改良し前日に献立書を提出せしめて之を取捨裁決を與へ、其献立と實際を照合し一々嚴重なる檢閲を行ふ規定を設けたる等、其事績の見るべきもの枚擧に遑がない、然し湯淺は這麼事績を以て衿りともせねば無論滿足もせぬ。進んで山根を助け醫務藥局の改善を期圖し、積弊の牢として拔けざるお役所風を矯正し、患者の娯樂場を設け逍遥地を拓き防火避難の方法を講じ必成を期して居るのである。

【九】

△山根院長　は十九年帝大の出身北里博士と同期生で學士仲間の先輩である、醫術も益々老熟して若

手の如く危氣なく、兀々として街氣を離れ職務に精勵して居る、或人が云ふには論文でも提出して博士號を得る技倆はあるが先生自身は左る虚榮に憬がるゝ程の街氣に乏しいと或は然からんである、山根は一見する所では白髪童顔の好々爺然として居るが、あれで却々侠氣ある硬骨漢で、頽廢に傾きし十全病院を湯淺事務長と共に脊負つて起ち、着々實績を擧げ將に隆昌の域に進めし其勇侠の氣にも敬服せざるを得ぬ、所謂頽瀾に既到に回へす的の功績は、病院史の一頁に特筆すべき價値がある。目下同院には增築前にて患者を收容し切れず八十名の滿員を告げ、外來は日々二百名を下らぬ盛況を呈し居るに徵するも、怎に山根の信望の深いかを證するに足るではないか、記者は横濱唯一の市立病院に好個の兩主腦を得て、前途に矚望し得たるを喜びに堪へぬ、同院は內科部長として院長之を兼任し其老熟の手腕を以て信望全院を壓するは勿論、松岡、伊東之に助手として功績を擧ぐ、外科部長には大藤學士之に當り技神に入るとの評あり大藤は帝大の出永く同院に勤續せられ現に副院長の要職にあり溫厚なる學者肌の人院長の補佐として最も適任である、森、久保の兩醫員助手として令聞がある。

【十】

眼科耳鼻咽喉科には仁保學士の下に常田圖を控へ妙技を顯はし、小兒科には入江學士の下に中島あり、婦人科には足立主任の下に五味の幇助するあり、藥局には齋藤紫明主任の下に五名の藥劑師調藥配劑に忙殺せられんとす、事務局には前記湯淺事務長の下に六名の書記が、敏慧なる眼敏捷なる指を揃へ、計數登記に煙草一服する暇をも惜む働き振り勇將の下に弱卒なしの觀がある。看護婦は同院にて養成したるもののみ採用する、看護長は殿上ゆきと云ふ安政三年生の中老である明治十九年廿九歲の時より醫科大學に勤め二十八年中轉勤し來り、由來獨身生活を操守し曾て醜聲を聞かぬ一種の女丈夫である、記者は一日同院を參觀したことがあつた、當時女丈夫は瀟洒たる服服に身を固め、六十餘名の部下を手足の如く働かして居た。其艶々した血色活潑なる動作は、到底六十近き阿婆さんとは見えなかつた。終りに特筆し置くべき事は同院が濟々たる多士に加ふるに、適材を適所に置く中に婦人科主任の足立徹夫は學歷としては見るべきものあらざるも其技能は拔群にして他の學士連と比肩し遜色なく、彼が主任の婦人科室は爲めに門前常に市をなす盛觀を呈して居ることである。

（青、四、七、一）

△根岸療養院（結核患者の福音）世にも怖るべきは結核病である、最近の調査に依れば、我國人口約六千萬人の5%即ち三百萬人は、此怖るべき結核病に冒され居り、早晩死と云ふ最後の運命は此兇惡無比なる惡魔の手に握られ、天壽を中道に奪ひ去らるゝのである、而已ならず惡魔の手は時々刻々に擴められ、我民族は勿論全世界の人類を拉し去らずは已まぬ勢にて、疾風狂瀾的に猖獗を極めて居る、實に人類の消長社會元氣の隆替に關する重大事ではあるまいか。

山口縣の出身にて、警視廳醫、横濱監獄醫を勤めたる、大村民藏君は、奮然として起ち此人類の勤

敵掃蕩殲滅を圖るべき一大抱負を持し、先づ義軍の先鋒を以て自ら任じ、明治四十五年中、南に海に面北脊山と云ふ理想的形勝の地を、横濱根岸の一靈域にトし、全敷地二千五百坪、病室五棟各々廣き庭園の間に、春心館山海館、靜温館、日運館、赤心館の名を冠して、適當の間隔を保ち、外に醫院の室食堂、厨房、娯樂室等の別館九棟を有し總建坪五百坪は悉く通風換氣淸淨消毒等に注意の行届たきるは勿論、眺望排列構造に美術的態度を失せざる用意周到の跡ある、壯大なる療養兼備の一大建設を成就したのである。

始め君の意たるや、專ら空氣、日光、食物の自然療法に加ふるに、患者を隔離して蔓延を阻止するにありて、藥物的治療を第二に置きたりしも、爾來幾多の苦心も研究も、經驗も、空氣營養療法のみを以て目的を達することと至難なるを覺知し、頻りに焦慮せる折柄、天も君の熱誠に動かされたるものと見え、此處に天來の福音は君の耳底に傳へられた、开は古賀博士が六年間に犧牲的研究、(元島ドクトルは自ら試驗體となり此研究の犧牲となりたり)の結果になりし、所謂古賀注射液發見である、君は欣躍天に謝し四十五年四月博士の下に馳せ、親く動物試驗其他の研究を積み卓効の顯著なるを實驗せしも、猶臨床的實驗の必要なるを思ひ、博士に乞て同年七月廿日より、同院患者の第一期臨床實驗を試むるに至つた、然るに博士の熱心なる指導と君が熱烈燃るが如き誠意と相待つて、豫期已上の好成績は擧げられ、當時既に百分中六七、五の奏功成績は君の手にて學會に報告せられたのである。

爾來五ヶ年の長星霜に亘り、君は實驗と學理の兩方に愈々益々研究の步を進められ、其確的なる奏功の堅礎は砂白く松綠なる絶勝の根岸療養院の上に築かれたのである、加之從來不治の病として然も國家の元氣消長、社會の盛衰にも關はる重要案件が、今や二氏の創見研究實驗の犧牲的献身的熱誠によつて、解決せられんとするは、眞に人生に對する一大福音と云ふも斷じて溢美ではあるまい。

彼の富國の策が恁ふの强兵の術が斯ふのと哩々喋り立、間拍手が能く正何位勳何等と人爵の虛榮に矜る連中に比し、此崇高なる人類生存の消長に關する大問題を解決せんと試むる兩氏の功績は幾層高く尊きや記者は斷言する、軈て天爵の榮光は兩氏の頭上に輝き來るべしと。兩氏たるもの一層努力と奮勵なかるべからずである。

大村君は意志の人物である、故に時としては冷腦沈心毀譽褒貶何かあらんと云ふ風がある、亦時として四圍の纒情を打開して自己の進まんとする所に往く、爲に往々世人として君を以て、冷血無情の一山師的醫者に過ぎぬ樣誤解せしむる、之に乘じ君の功を嫉む者は尾に鰭を附て種々の流言を放つ、が記者が精透の觀察眼を以て見ると、君は一介冷血我利的の山師醫者でない、然も君は意志の强健なる裏面には、靄々たる温情の掬すべきものがある、又熱烈火の如き感激性もある、君は無名の施與は好まぬ、無理の威壓には反抗する、けれども理外の愛情には泣く、道理の正論に慴服する、君が日常患者に接し、醫員看護婦使雇人を遇する實見は、記者の證言に裏書して餘りあるではないか、君は世

間の無情冷酷なる批評を聴き暗涙を呑んで記者に語つた、余が事業を企圖せし眞意は天の知るにあり事業の成否はレセフトと統計表の證明に任せんのみ、不幸にして病毒に感染し中道に斃るゝとも、余の誠意を繼承するものを得ざれば瞑せず、翼くは院の脊陵に枯骨を埋め結核病魔の殲滅を期する守護神と化せんと、曷ぞ其意氣の壯烈なるや、嗚呼守護神！ 願くば天、君に幸慶せよ。

而して生た守護神たらしめよ。

因に云ふ、同院は食物療養に注意するだけありて、食膳の吟味嚴重にして、院長自ら一々指揮の任に當り、特に贅費を除き專ら患者本位とする結果、平均一日の入院費壹圓七十錢と云ふ、殆んど全國に比類なき少費にて治療を受くる事を得るとし、目下上海、青島、滿州邊の内外人をも收容し赤十字社の依託患者をも併て百三十人餘の入院患者ありて、世界的病院の觀ありと云ふことだ。

（青、四、十一、一）

【十二】

△**萬治病院**　市立唯一の傳染病院なれば宏大なる規模と完全なる設備とを有し、市民は安心して不幸の病軀を其褥床に托し得ることゝ思ひきや、這は亦意外聞くと見るとは月鼈雲泥の差どころでない、記者は一見吃驚口あんぐりの態たらくである、先づ門を這入ると數歩の眞正面に薄穢なきペンキ塗の

醫院室、藥局、事務室ゴッタマゼの、狹まくるしき洋館の一棟を過ぎ、右手に三筋の廻廊を前に控へる豚小屋然たる病室がある、其前庭内園と云はず荒砂利を無雜作に撒布したる外、何等泉石樹木の景趣を副ふべきものもなく所々に名も知れぬ雜草離々として生え茂り、恰も埃及あたりの傳説にでもありさうな廢墟の化物屋敷の觀がある、這れで横濱唯一の傳染病院として、一朝市民が傳染病に罹つたが最期否でも應でも、此の化物屋敷に押込めらるゝと聞いては慄然として怖れざるを得んやである。然し茲に唯だ一つの人意を强ふするに足ることがある、と云ふのは院長阿部重男の人格技能の優秀なる點である。阿部は四十二年赤門出の俊才で卒業後直に北里博士の傳染病研究所に入り、孜々として研鑽三年の永きに及び其の室に入り奧を究めた篤學の士だ、加之人格崇高にして赤心を人の腹中に置く的の、寬厚なる君子人の風がある、彼の院長が就任したるは昨年の五月で、未だ一年にも過ぎぬ短日月であるにも拘らず、十全病院看護婦が腺黑死病に感染したるを擔任し、摘出手術を美事に成功したるを手始めとし、實扶的里亞の截開三十二人の多に上りたるも一人の死者を出さずして、斯界のレコードを破り早く既に儕輩を穎脱せる技能を現はし、一面には病院の構造設備の不完全なるを慨し、歐米各國に於ける施設を參照し、亦我國に於て比較的完備せりとの評ある、京都、神戸の二病院を査察し得たる研究資料を綜合して成案し、當局に建議する等溢るゝ如き熱誠を傾到して盡力する所あるから、遠からず學士の誠意を貫徹することを信ずるが、局に其任にあるものも大に學士の說に聽き、

猛省一番市民をして怪物屋敷を以て目する不安の念を除去して貰ひたい、記者の聞く所にては數年前政友派議員の主唱にて、同病院移轉改築の議は市會に上り當時決議になつて居るが、刷新派の議員等は豎子をして名をなさしむるの妬心より、敷地選定の困難に藉口し當局者を緊制して實行せしめぬと云ふことである、固より斯る怪事實の有るべき筈なく、堂々たる旗幟の手前隆々たる其盛名に對するも、刷新派が御殿女中的の小策を弄するとは信じられぬ、が前年移轉改築の議が決せられたるは事實であるとすれば、其主唱側の政友派は自己の主張を貫徹する上に、又功を嫉む妬婦の處世なりと流説を蒙る刷新派は其雪冤の爲にも、お互に當局者を鞭韃して迅かに實行せしむるを得策とする、況んや單に政黨者流が己れが便宜を犧牲に供せらるべき小問題でない、事は市民三十萬の休戚安危に繫る重大事である、敢て當局と共に黨人輩の反省を望んで已まぬ。

【十二】

△澁谷周平　金港目貫の尾上町三丁目に長春堂の扁額　錆ひある六朝風の筆の跡奥ゆかしき一構は、澁谷醫學士が卅六年以來經營する小兒科專門として名聲全港を壓する醫院である、澁谷は廿一年帝大出の俊髦、島根、廣島、佐賀三縣立病院長の職を奉じ令聞があつた、然し澁谷の剛直にして辭令應對等の末事に囚はれざる性行は、所謂五斗米の爲に永く膝を屈することを容さぬのであつた、彼は院長の榮職を棄つること敝履のやうなもので、一旦思ひ立つては矢も楯も耐まつたものにあらず、一片の辭表を縣廳の玄關に叩きつけ、匆々行李を收め當港に來て獨立の門戸を張るに至つた、實力は巧妙なる廣告に勝るで開業日尚ほ淺しと雖名聲籍甚彼が門前は常に市をなす盛況を呈するに至つた、彼が無愛嬌は有名なものだが、又決して世の變人と同一視すべきでない、彼には刀圭家として立つべき一種の理想を有する、畢竟無愛嬌と見える彼の奉持は其の理想の閃きに過ぎぬ、彼は常に門下生等を訓戒する言中、必ず醫師の立場を説明する、曰く『醫は人命を司る高等の職務なれば、宜く先づ技能を磨き人格を修むるに專念すべし、苟も俗に媚び自巳を害るが如きは世間より職業と輕侮せらるゝ幇間者流と何の擇む所がある』と以て學士が無愛嬌の理由を推知し得べしだ、思ふに彼は我醫師界舊來の陋習たる坊主根生を蟬脱せず、自ら幇間者を以て甘んずるを慨し、已れ先づ範を天下に示さんとする一片任俠の心より迸出せる無愛嬌であると信ずる、夫れも其の筈學士は江州彥根の藩士にして勤王家谷鐵心の甥に當り、名家の血が全身に漲つて居るのである、記者は彼に接する毎に何つもさう思ふ、誠に素性なるものは爭はれぬものと彼の豪

澁谷周平君

岩磊落の動止烱々たる眼光一文字に緊く締つた口元等は鐵心其儘だ、彼は斯く一見無風流漢のやうだが、水莖の跡も鮮麗で三十一文字も下手でない、謠曲圍碁も素人離れをして居ると云ふことだ左は無論であるが自衛上昨今は節して居つた、夫れで獨酌一升と云ふ豪のものだ彼は自已の患者を日々數十名診療するの外、市醫師會長、海員掖濟會の囑托、愛國婦人會顧問醫をやつて居る、什麼して夫んなに身體が廻るかと思ふほど多忙であつて、夫れで綽々として餘裕のある所が彼の豪い所だ、彼は異に多々益々辯する的の天才である。

【十三】

△伊藤小三郎　前々號の當欄に君を糈間的高標醫者の如く記述したるは、全く探聞の杜漏の罪で君の人格を傷けしこと大なり、事實は殆んど正反對にして新進氣鋭にして然かも眞面目な微塵も輕浮な氣などのある人ではない、寧ろ彼は理想の高遠なる點に於ては前項澁谷の人格に酷似し、於以上未來を有する好ドクターである、該記事は探訪が福田勝平とか云ふ氣障醫と取り違へたのであるそうで、君に對して甚だ氣の毒に堪へぬ、此處で謝罪旁々訂正し置く。

（青、四、八、一）

◉醫學士加納禎吉君

廿七年出の古參醫學士、源右府に酷似せる其の容貌に常に笑を湛へ、坦懷洒脫頗る平民的に患者に接する君は、外科の難波博士と並稱せらるゝ內科の名手である、君は性恬淡にして職務にこそ熱心なれ彼の俗醫の如き患者の爭奪策に浮身を窶して腐心するが如き陋態に傚はぬ、時々根岸の別墅に高吟して其俗塵を掃ひ、意の適くまゝ消搖するを、唯一の娛樂として居る、學士は其洒脫せる句調で這麼ことを嘶し出すことがある、醫は仁術也の仁の意義かね、由來何うも解釋が一定して居ないやうだ、マー普通誰れでも云ふのは、醫者の人格やら行作やらの方に重きを置いて居る、其結果として醫業は營利的の業務でないから、尋常商買人の風に染んではならぬ、儲かると否とを目的としてはならん、困る者には施し、拂はぬ者を追迫せず、武士は喰ねど高楊子的の態度と心事の內に仁の意義存すと爲すやうだ、が成るほど此解釋も一應敎訓的に醫者を導くの語とすれば合點せらるゝ節なきにあらざるも、僕の考では完全な意義とするには未だである、如何となれば、醫者仁術也の全部の熟語の上に目を注いて見ると、醫者仁也とせす仁術也と綴字してあるのに深き意味を含んで居るのである、即ち醫者仁なる術を施すべきものであると解釋するを穩當と思ふ、語を代へて云ふと仁即ち人の生命は二な

き貴重のものを取扱ふ業務なれは、其術を施すに方り自己のベストを盡して遺憾なき心掛けなかる可らすとの規誡てあるやうだ、這は文字に現はれたる解釋に過きざるも實際に於ても、醫者と雖も一旦開業したる以上は自己の生活問題を度外視するの不合理たるは勿論、寧ろ開業の目的は利益を得るにありと云ふて可なる次第にして、此點に就ては普通商業工業等の業務と差異がない筈である、畢竟業務は利にして術は仁てあると別個に分解してこそ、此千古賢聖の言に深旨が現はるゝことゝ思ふが、怎麼たね君の意見はと云ふ調子の人である。

（新、五、七、八）

◉大村民藏君

人は何と評さうが僕は大村君の如き覇氣ある人は好きだ、特に君を嫉妬するの小人か山師と云ふに至つては沙汰の限りである、君の平生を知る記者は斯る惡聲を放つものを何とも感せすして反つて、其陋心を唾棄せんと試むる憤慨心が起るが、目暗千人目明千人の世の中、偶々君を誤るものあらんことを懼るゝ餘り、少しく辨護の勞を採らざるを得ぬ、君は實際豪放不羈の人ではあるか一點山氣のあるやうな矢崎式の佞物ではない、唯夫れ自ら信ずるの餘り人に接して些しの謙讓と云ふものがなく、其態度、言動、往々倨傲に流るゝ弊があるけれど、其處が大村君の内に省みて疾しき所なき開放的特質とも云へる、看よ彼が爛たる其の眼光！如何な暗黒面と雖も透視せずんば已まない底の無限の力の輝きとも見える?!彼が其一文字に緊き締めたる口邊には固き信念と深き覺悟とを語るべき表象とも見らるゝではあるまいか?!何麽糞つ!!今に乃公の腕を見ろ的の大決心に出發して彼の大事業に着手した君の奮闘振りは實に目醒しきものであつた、彼の大事業とは抑も何であらう?云ふ迄もなく結核菌絶滅の福音を宣傳すべき使命である、文明々々と云ふけれど人間の天壽を縮少する妖魔を退治することの出來ぬほど、文明のサイエンス的知識の發達せぬ文明は寧ろ咀の文明である、年々歳々結核菌の襲

來に依つて人命を縮少せらるゝ數は倍蓰するか、之を撲滅するサイエンス的武器は更らに發見せられぬ、無慘々々妖魔の横行張梁に任する外は詮術ないとは餘りに殘念ではあるまいか、最もコッホ氏のツエルベリン血精液の親發見があつたけれど、亦々彼の勁敵に對抗するに足らなかつた……然るに文明の度が一世紀も後れて居ると世界より輕侮せらるゝ日本帝國の一角、而もコッホの門下生の北里博士の更に門下生たる古賀博士の手にて、廿世紀文明破壞の大敵として殆と匕を投げたる大惡魔たる結核菌剿滅の新武器が發見せられたとは殆と信じ難き事實であつたのみならず、社會の凡てが之を信じ進んで其實驗を確實にする程の勇氣と先見を有するものが無いのであつた、サー其處だ大村君の豪い所も!!先見の明のある所も!!!平凡の識や普通の見ては此の一大發見を把持して之に有終の功果を與ふる事は出來ぬのである、君か烱眼と非凡の識量は早くも之を達見したのであつた……古賀氏の發見を大成すべく有きゆる犧牲を拂つて今の根岸療養院の建設に從事したのは明治四十五年であつた、物質上の困苦は勿論である

大村民藏君

るか當時諸方面の迫害は君の一身に集注した、君は毅然として自己の信念に抗する凡てと戰つた、由來約十年の星霜は君を泣かしめた、笑はせた、消沈せしめた、奮起せしめた、が眞理は最後の勝利であらねはならぬ、昨年あたりより漸く卓効の實驗が統計的數理の上に赫著となつて顯はるゝや、世間は今更の如く驚嘆の聲を發した、同病者は天使の福音を聽かんとする如く君の療養院に輻集し始めた斯くして古賀氏の青酸銅結核神液の卓出したる奏功の實驗大半は大村氏に依つて成就せられたのであつた、現下遠くは歐米滿州支那邊より來つて治を乞ふものあり、彼の二百名収容の完美なる三棟の大建物も狹溢を告ぐる盛況であると云ふを聞くに至つて誰か君の成功に驚かざるものあらん哉である、世間小人多し君の功を嫉み種々惡聲を放つて君を傷けんと圖るものあるやうだが、事實は雄辯なる辯護士の辯論に勝るのであつて、君が事實的非常の卓識と不屈の信念より齎らしたる功果は如何にしても其曲誹を容るさぬ。

（新、六、五、四）

◉大藤正三郎君

重厚なる態度眞摯なる動作……大病院を脊負て立つべき貫祿は十分であるべき君は赤門出の秀才で十全病院副院長外科主任として十年一日の如く其妙腕を施して居る、同院には各科に相當の適材を配置し居るに相違なきも、一際目に止まるのは君が外科室であるやうだ、門前市を爲すと云ふ形容語は同院に限り誇張の言でない、而も人氣は大藤君の外科室の樣だ、卒直なる湯淺事務長は語る『左樣昨年建增の病室に空室が澤山あるやうではならぬと心配して居りましたが、今では空室所か常に滿員の盛況で此頃では斷り切れぬ狀態で居ります、當院の特質は公益本位で有らゆる開業醫等の弊害と云ふやうな點を改善して行きつゝあるのです、過日も入院患者の或人が私に向つて看護婦に心附をしやうと思つて少しばかりの封金をやらうとしたら、何うしても受取ませんから貴公から傳贈方を取計て貰はれませんかと申出ましたので厚意は謝しますが、當院にては內則があつて入院料、治療費、藥價以外には如何なる名義を以てするも、一

大藤正三郎君

切申し受けざる旨を諭したことがありました……サアー、手前味噌の樣ですが、當院の院長副院長以下各醫員、及各役者が揃つて一生懸命各舞臺を勤めて居るのは他の劇場では見られませんやうです、特に大藤醫學士は院長の女房役に適まつた好人物です、又年齡は四十歲前後ですけれども、極めて溫和で人格も高く技倆も優秀なる醫者らしき學士です、夫れで斯る人格高き學士を戴て居る効果は全院に善良なる感化を與へ此頃では、醫務局、藥局、事務局と云ふ風に些末も軋轢暗鬪の跡なく至極圓滑に各自の本務に精勵して居るのです云々』と大藤副院長を激賞して居つたに徵するも、如何に君が內外に信望を繫ぎ居るかの一班を窺知し得るではないか、君は湯淺事務長の批判する如く全く醫者らしき醫者で山師らしき態度は微塵もなく、勿論野心などの潜在は爪の垢ほどもない、兀々として自己のベストを盡して他を顧みる遑がないと云ふ高潔なる意氣が幽の見える、未來ある學士たるもの自重加餐せよ。

因に、大藤君は今般市內羽衣町二丁丁目四十五番地(電話長者町五百十四番)に開業し外科、泌尿生殖器科、黴毒科を標榜して得意の敏腕を揮はれつゝあるが學士の名聲と手腕に信賴し開業匆々患者玄關に麕集するとのことである。

(新、六、七、五)

◉醫學士　五十嵐英一君

四十五年赤門を出て更に眼科を專攻して蘊奥を極めたる、新進の學士五十嵐君は書生肌の磊落なる醫師である『イヤ醫者の墮落……實に御噺になりませんな―、些と品格を保つて呉れると良いですが愆も甚しいのは公然相場は行る怪しげな會社を起す、金貸を始めると云ふ狀態です、夫れに同業間にて互に術策を周らして患者を爭奪するの陋態を演じて憚らんのですから呆れる、全體今日進んだ醫術界は漸々專門の區域狹小となるべき筈であらねばならぬのに、何んでもムれで吸收是れ事とするとは何事でしやう、僕等の專門に屬する眼科の方面より云ふも、一人の眼病患者に就て診察するに、其原因梅毒より來たものとすれば、其原因療法の必要より移して其專門家に委ぬるを當然とすべきに、眼中利益より外何物も見えぬ彼等は、既に古くなつて風化したる沃度加里を兼用せしめて御茶を濁すと云ふ有樣で、患者丈り良い面の皮と云はざるを得ぬではありませんか、僕の理想としては市內に完全なる一大病院を設け、之に各開業醫の診療する患者を收容して、個人に於て企及し難き設備待遇を補足すと云ふ風に患者に親切であらねば、眞に醫者たるの本務を盡したるものと云はれぬと思ふ云々』と記者を向ふに廻して論じ立てる――記者が一大病院の設置も左ることながら、開業醫が横々割居す

る所から患者の爭奪も起り、生活問題も生じ、遂には墮落的副業などを爲す事となることと思はるゝを以て、先生の論步を進めて更に市內の要所に數個の病院を株式組織にて設置し、各開業醫を月給制度にて網羅せば、自然商買氣を脫し專心其本分を盡すことを得て妙ならずやとの野次論に對して――學士は呵々大笑と云ふ態度で『君、其れも一ツの理想論かも知れんですね、然し不可能實行說で僕の可能實行論とは頗る徑庭があるやうですな、特に醫界の生活難問題の如きは論ずるに足らんですな、何處の隅にも生活難風は吹き荒むので、社會問題は此處より出發するのですが、優勝劣敗の理數上より如何とも致し難いやうです、哲學者じみた議論をする樣ですが、自然淘汰の眞理は古今東西動きません、唯夫れ社會の劣敗者たらざるやう奮鬪努力、人事を傾けベストを盡すより外はありません』と追々議論に花が咲き將に佳境に入らんとするに當り、看護婦さんが外來患者あるを報じ來りたるを切つ掛けに記者は辭去したが、學士は辯舌に於ても斯界一方の雄たるものである。

◉中村安孝君

△副業主義鼓吹者▽

君は五十嵐學士の副業反對主義の向ふを張る一異彩である、君は現下戸部町四丁目に堂々門戸を張り外科專門を標榜せるドクターであるが、都市開業醫師が日々墮落し行く原因を主として生活難に基くものとし之を匡救するには適當の副業に從事するを捷徑なりとの信念を持し、自ら範を示すの旨意を以て、横濱無盡株式會社を創立し現に其取締役として好成績を擧げつゝある、五十嵐學士が去日本紙上に意見を發表せし如く、純品格論に立脚して醫師の副業其ものが已に墮落であつて且つ罪惡なりとの主張に對し君は原因論に出發して墮落の根本療法として副業を鼓吹するコントラストが面白い、一方がチカチーブであるとすれば、一方はボカチーブで、又一方がアセチシズムであるとすれば一方はボチビズムであつて近來斯界に於ける好個の論戰である、中村君曰く『五十嵐君は頻りに都市醫者の墮落を慨し、特に醫者の副業を以て墮落の實例とするものゝやうだが、僕は副業其物を墮落の實例とする君の所見とは全く異なる意見を有する、想ふに君は深く墮落に因つて起る根本を探究せずして直感的に墮落其ものに觸れ之を排斥せんと試む、所謂論理上の前提を無視したるより起る誤謬の結論に陷りたるものならん、勿論僕も近來都市醫師界の漸次墮落する惡傾向を認むる點に於て君と感を一

にするが、其墮落は主として何に原因するかと探究するに及んで一種の社會問題として悚然として恐るべき事實を發見し、寧ろ一片同情の涙を彼等に灑がざるを得ぬのである、試に吾横濱市内三百幾十名かの醫者の臺所口より覗いて見給い、實に慘憺たる光景を眼底に映ずるのであらう、米屋、酒屋、藥屋、マッタ日掛取等の赤鬼青鬼共が算盤と帳面と云ふ武器を揃へ悽まじき勢を以て突貫し來るを見るであらう、日々此突貫に逢はぬ醫者は眞に指折り數ふる位のものではないか、茲に於て彼等の防衛手段背に腹は換へられぬ所から患者の奪合となり藥の押賣りとなり甚だしきは風化した藥を配合したり、高價の品を除いたり、錆たメスを使つたり

中村安孝君

するに至るのである、是れでも耐まらぬとなると相場にも手を出し、博奕を行つたり、下劣なブローカーもやるのである、元來醫者と云ふ階級は世間の上流に位置すべきもので、其生活費の如きも之に隨伴せねばならず、玄關も飾れば衣服調度萬端節約し難き入費を要するは他の職業に比して己むを得ぬに、收入之に伴はずと來ては墮落せざらんとするも豈得べからざるは當然である、往昔都市の町醫と稱する今日で云ふと開業醫が相當の品位を保ち所謂お醫者樣と尊敬せられしは、單に智識階級と云ふ丈りでなく、お抱い、お出入、數師の副業を有し生計の餘裕あるより專心其本分を盡すことを得たるが爲めである

ア、、生活問題！此問題こそ人生に痛烈な刺戟と變化を起さしむるものはないのであるが!!僕が醫者の副業を奬勵するも絶對的にはあらず、其品格を損せず其の本務を妨げざる條件附を以て生活難より來る墮落を救治せんと試るにあるのみ、五十嵐君が淺膚なる直覺的消極論は要するに一種の書生論に過ぎぬ云々』と意氣頗る軒昂たるものがあつた、ドクターも一廉の論客で刀圭界の一傑物たるを失はぬ。

（新、六、七、五）

◉杉浦教成君

醫は仁術也を高く標榜して俠醫の名を市の内外に馳せつゝある、外科の名手たる君は千葉醫專の出で醫學得業士の稱號を有する變つた醫師である、君は自ら標榜する如く實際患者を見る事一視同仁で身分の高下、貴賤貧富等に依て其扱振を二三にすると云ふ樣なことはせぬ、貧困者の碌に藥價等を拂へぬ者にも快然として自己のベストを盡して吝まぬ、曾て斯う云ふ事實があつた、或る時のこと電車の內で車掌と某刑事が爭を生じ、刑事は亂暴にも、車掌を毆ぐつて眉間に、一週間以上の治療を要する創傷を負はせた爲め車掌は憤慨して君の診斷書を副へ、告訴するに至つた、然るに時の水上警察署長たりし岡田警視は大に狼狽して君を招き、始めは辭を低ふして診斷書の訂正を求めしも君が頑然として應諾する色なかりしより遂に官權を弄して高壓的に威嚇を試みるに至つた、サア這ふなると君も何條尻込むべき、例の堂々たる態度と滔々たる雄辯を以て之に應戰して遂に彼を反對に說服したる珍談がある、此の一事を見ても什麼彼が硬骨の快男子であるかゞ知れやう、

杉浦教成君